

令和 6 年度第 2 回有識者会議においてのご意見

Q「町民意向調査の回答が 1,365 件。20代から30代の女性がどのような回答をしているか。結果から、ある程度見えてくる方向性が違ってくる。さらに、地域別があると流出が多い地域の傾向がわかる。」

町民意向調査の調査結果まとめの資料となります。

第Ⅱ部

町民意向調査

目 次

II - 1	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査方法	1
(3)	回収状況	1
(4)	主な調査項目	2
(5)	集計の見方	2
I - 2	町民意向調査の結果	3
1	回答者の属性	3
(1)	性別	3
(2)	年齢構成	3
(3)	世帯構成	4
(4)	居住地区	5
(5)	職業、通勤・通学先	5
2	住みやすさ	6
(1)	阿見町の住みやすさ	6
(2)	阿見町の住みやすいところ、住みにくいところ	7
(3)	10年前（または住み始め）との比較	12
3	第6次総合計画の主な施策の満足度・重要度について	14
(1)	「地域力を育むプロジェクト」について	14
(2)	「町民・企業・行政等の連携・協働促進プロジェクト」について	16
(3)	「子どもの成長や若者の活躍を支えるプロジェクト」について	17
(4)	「町民の暮らしを支えるプロジェクト」について	19
(5)	「霞ヶ浦等の地域資源を活かした交流プロジェクト」について	21
(6)	「地域経済の活力向上プロジェクト」について	22
(7)	主な施策の満足度・重要度のまとめ	24
4	今後のまちづくりについて	30
(1)	「住み続けたいまち」になるために重要な取組	30
(2)	地域のつながりを大切にしていこうと重要な取組	33
(3)	将来を見据えた行政運営を行っていくために重要な取組	35
(4)	若者や子育て世代に魅力あるまちとなるために重要な取組	37
(5)	高齢者や障害者福祉の充実を図るために重要な取組	41
(6)	元気で健康のくらすために重要な取組	43
(7)	持続可能なまちとなるために重要な取組（主にインフラ整備）	47
(8)	地域経済を活性化するために重要な取組	49
(9)	防災力を強化するために重要な取組	52
(10)	豊かな自然環境を未来につなげるために重要な取組	54
5	将来像のキーワード等について	56
(1)	将来像のキーワード	56
(2)	その他の自由意見	63
I - 3	調査結果のまとめ	64

ここでは、町民意向調査の結果をもとに、施策の評価と今後の課題や方向性等の分析を行う。

Ⅱ－１ 調査の概要

（１）調査の目的

■第６次総合計画の施策評価と第７次総合計画に向けた課題や方向性等の分析

- ・本調査は、令和元年以降の総合的かつ計画的な町政運営の指針となる「阿見町第６次総合計画 後期基本計画」の策定後の進捗状況を確認するとともに、第７次総合計画の策定に向けて、町民意向を分析し、今後のよりよいまちづくりに活用することを目的とする。

（２）調査方法

■対象者及び抽出方法

調査対象者	標本抽出方法
満 18 歳以上の町民 3,000 人 (令和 4 年 5 月 1 日時点)	性別・年齢・居住地などを考慮し、住民基本台帳から無作為抽出した。

■調査方法（郵送及び WEB による調査）

- ・令和 4 年 5 月 30 日に調査票を発送し、6 月 22 日を締め切りとして調査を行った。
- ・回答は、郵送による返送及び調査票に QR コードを添付し、WEB による回答も可能とした。

（３）回収状況

■回収状況

発 送 (a)		3,000 件
回収数 (b)	郵 送	1,141 件
	W E B	224 件
	計	1,365 件
回収率 (c=b/a)		45.5%
無 効 (d)		0 件
有効回答数 (e=b-d)		1,365 件
有効回答率 (f=e/a)		45.5%

■サンプル数と信頼度

- ・今回のアンケートは、母集団である阿見町の 18 歳以上の人口（住民基本台帳 令和 4 年 5 月 1 日現在）(N) が 41,255 人に対して、サンプル数 (n) が 1,365 件である。
- ・ある設問に対する回答率が 50%（割れる意見）である場合、最も誤差が大きいと考えられることから、p を 0.5 と仮定すると、結果の誤差は±2.61%以内である。
- ・一般的には、5%程度の誤差に収めることが社会調査上望ましいといわれており、今回の調査結果は 5%以内に収まっていることから、統計的にも妥当であると考えられる。

N	母集団の大きさ (令和4年5月1日住民基本台帳 18歳以上)	41,255 人
n	サンプルの大きさ	1,365
p	回答率	0.5
±1.96	標準化補正值 (95%信頼区間)	1.96
ε	誤差 (%)	±2.61

$$\text{誤差}(\varepsilon) = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 100$$

(4) 主な調査項目

Q1～Q7 回答者の属性

- ・性別、年齢、世帯構成、居住地区（小学校区）、職業、主な通勤・通学先

Q8～Q10 阿見町の住みやすさ・魅力について

- ・住みやすさ（理由）、10年前との比較（理由）

Q11 第6次総合計画の主な施策の満足度・重要度について

- ・満足度・重要度の5段階評価

Q12～Q21 今後のまちづくりについて

- ・各分野で今後重要だと思う取組

Q22、Q23 将来の阿見町の姿、今後のまちづくりについてなど

- ・自由回答

(5) 集計の見方

- ・百分率の計算は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならないことがある。
- ・複数回答（問3）の場合、設問の回答者数に対する選択肢ごとの割合を表示しているため、合計が100%を超えている。
- ・「不明」は、回答していないもののほか、単一回答で複数選んでいる場合や、回答を2つまたは3つまでと指定した質問で指定数を超えて回答しているものなど、答え方を間違えている場合などを含んでいる。
- ・今回、Q11の平均点は、「不明」を除いて算出している。

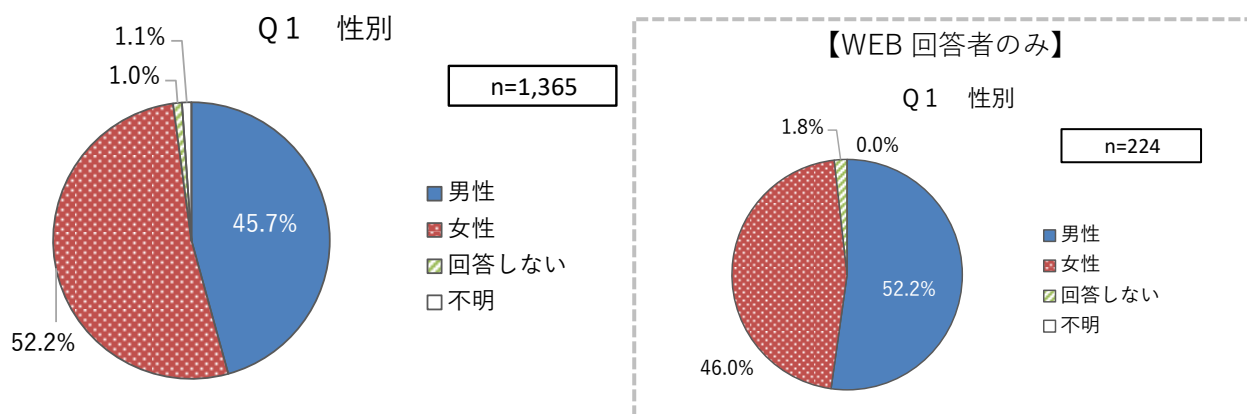
I - 2 町民意向調査の結果

1 回答者の属性

(1) 性別

■女性の割合がやや高い。WEB 回答者は男性の割合がやや高い。

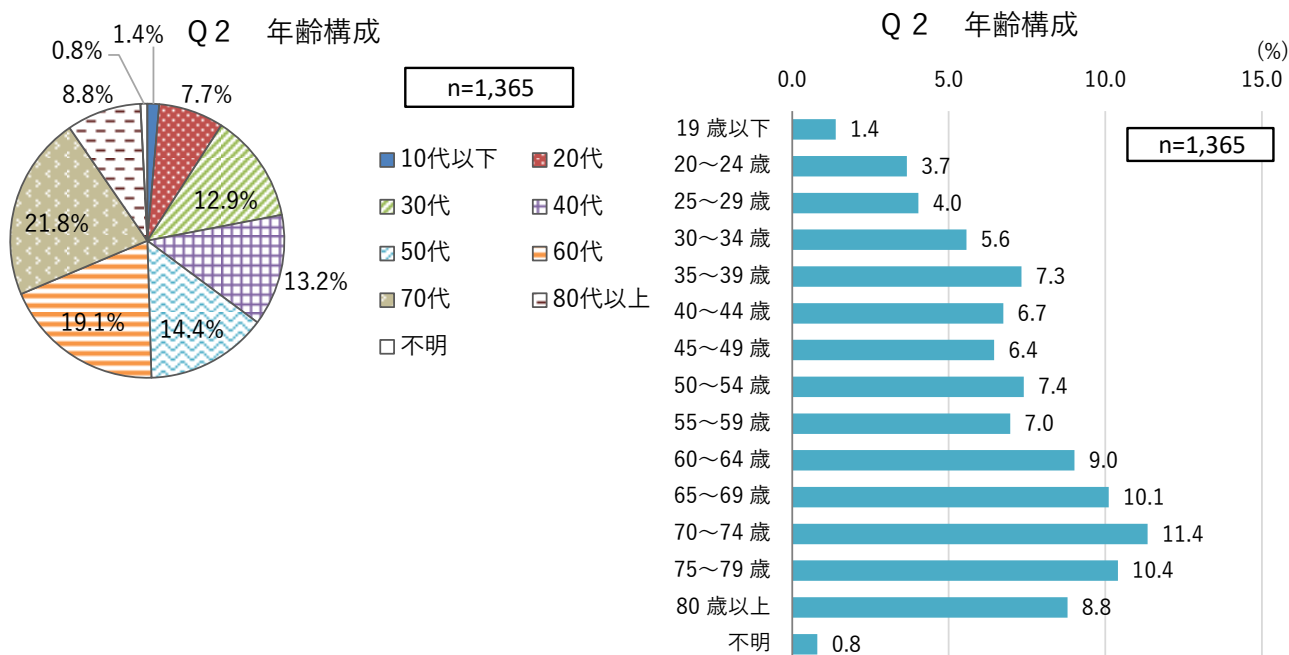
- ・回答者の性別をみると、男性が 45.7%、女性が 52.2%で、女性が 6.5 ポイント高くなっている。
- ・一方で、WEB 回答者のみでは、男性が 52.2%、女性が 46.0%で男性のほうが高くなっている。



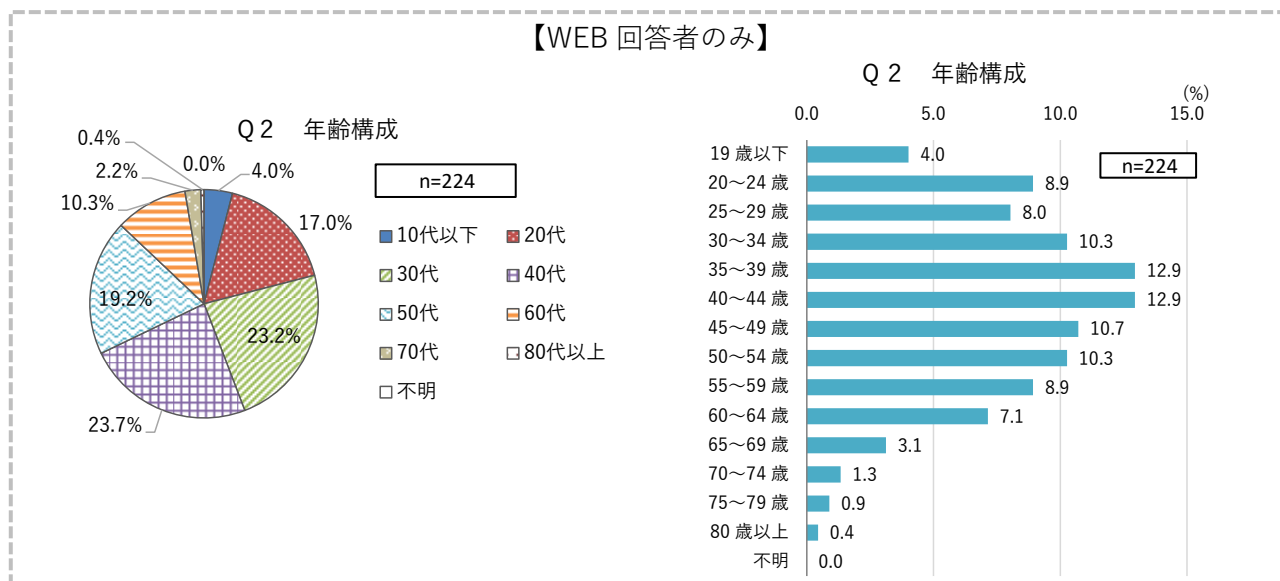
(2) 年齢構成

■50 代以下と 60 代以上がそれぞれ半数ずつ。WEB 回答者は 50 代以下が約 9 割

- ・回答者の年齢構成をみると、18 歳以上～59 歳以下が約 50%、60 歳以上が約 50%で、ほぼ同じ割合となっている。年齢構成を 5 歳階級別でみると、35 歳以上の階層で、それぞれの回答割合が比較的高くなっている。



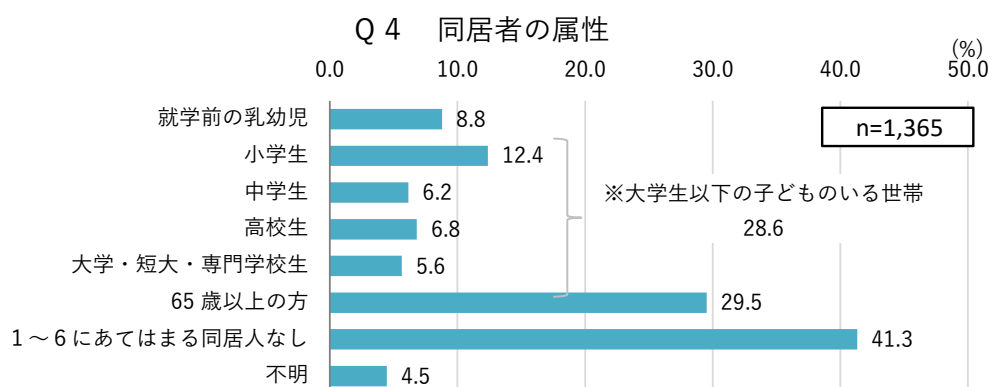
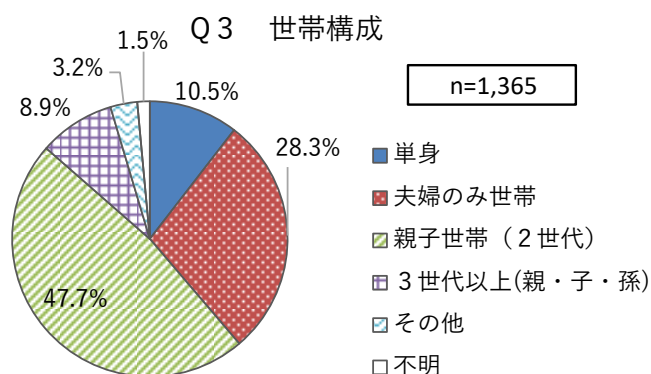
- ・WEB 回答者のみで年齢構成をみると、18 歳以上～59 歳以下が約 87%となっており、20 代の回答も 2 割弱となっている。5 歳階級別でみると、35 歳～39 歳及び 40～44 歳の階層で回答割合が最も高くなっている。



(3) 世帯構成

■親子世帯（2 世代）が約 5 割、夫婦のみ世帯が約 3 割。高齢者が同居する世帯は約 3 割

- ・回答者の世帯構成をみると、親子世帯（2 世代）の割合が 47.7%で半数近くを占め、次いで夫婦のみ世帯が 28.3%となっている。
- ・同居者の属性をみると、大学生以下の子どもがいる世帯は 28.6%※となっている。65 歳以上の高齢者を含む世帯は 29.5%となっている。

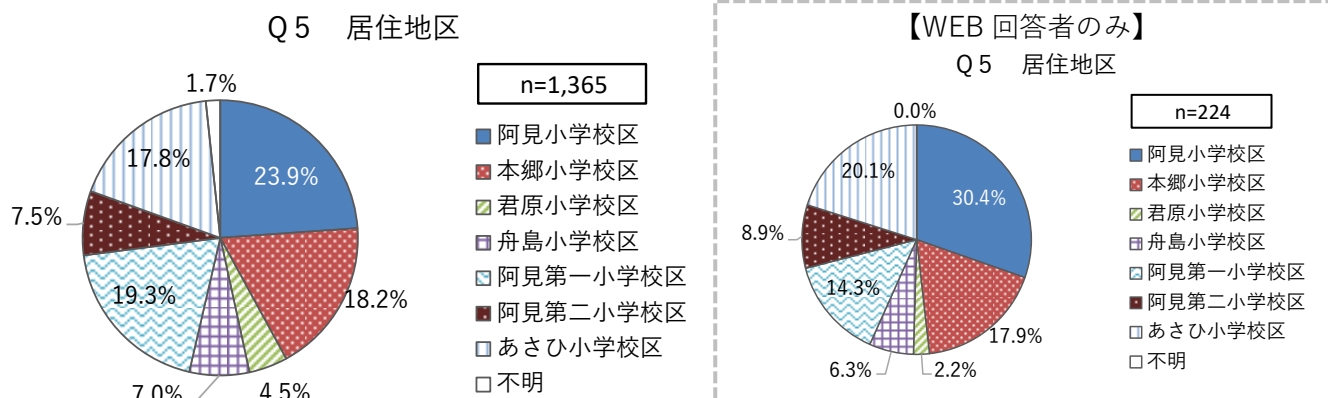


※大学生以下の子どもがいる世帯：1 件の回答に 1 人または複数の属性の子どもがいる場合、1 世帯としてカウント。
Q 3 で「単身」と回答した人は、Q 4 で「1～6 にあてはまる同居人なし」の扱いとした。

(4) 居住地区

■阿見、本郷、阿見第一、あさひ小地区がそれぞれ約2割。WEB回答者は阿見小地区が約3割

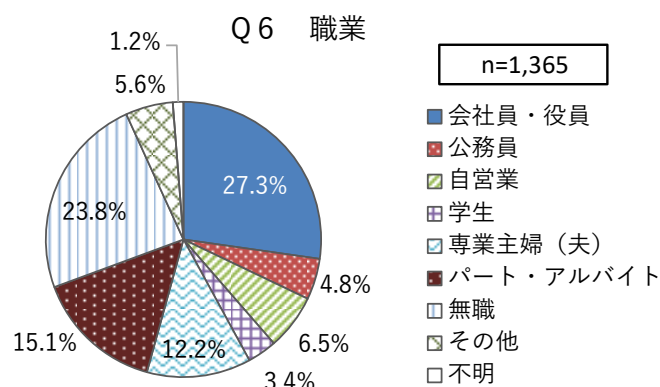
- ・回答者の居住地区を小学校区別にみると、阿見小が23.9%で最も多く、次いで阿見第一小が19.3%、本郷小が18.2%、あさひ小17.8%で、約2割ずつとなっている。
- ・一方、君原小、舟島小、阿見第二小が1割未満となっている。
- ・WEB回答者のみでみると、阿見小はさらに高く3割となっている。



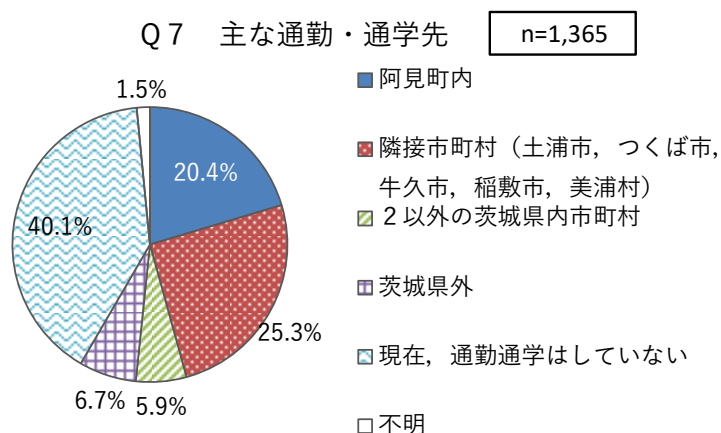
(5) 職業、通勤・通学先

■収入を伴う仕事を持つ人が約5割、 町外で働く人が約4割

- ・回答者の職業をみると、会社員・役員、公務員、自営業、パート・アルバイトといった収入を伴う仕事を持つ割合の合計は約54%となっている。



- ・阿見町内に通勤・通学している人は20.4%※である一方、隣接市町村、他の県内市町村、県外といった町外に通勤・通学する割合の合計は約38%と、概ね2倍となっている。



※阿見町内に通勤・通学している人：Q6で「専業主婦(夫)」または「無職」と回答した人は、Q7で「現在、通勤通学はしていない」の扱いとした。

2 住みやすさ

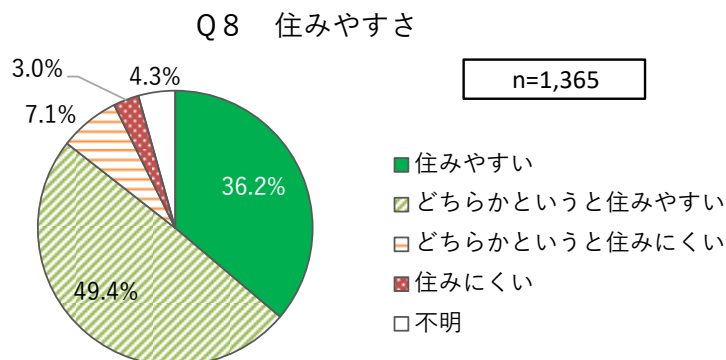
(1) 阿見町の住みやすさ

Q8 あなたは阿見町が住みやすいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 住みやすい | 2. どちらかというに住みやすい |
| 3. どちらかというに住みにくい | 4. 住みにくい |

■住みやすいと感じる人が8割以上

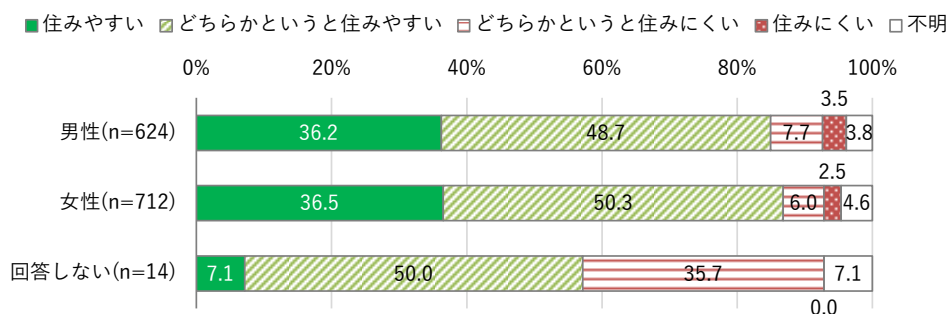
・阿見町が住みやすさ(「住みやすい」または「どちらかというに住みやすい」)を感じる割合の合計は約86%で、住みにくさ(「住みにくい」または「どちらかといえは住みにくい」)を感じる割合の合計は約10%となっている。



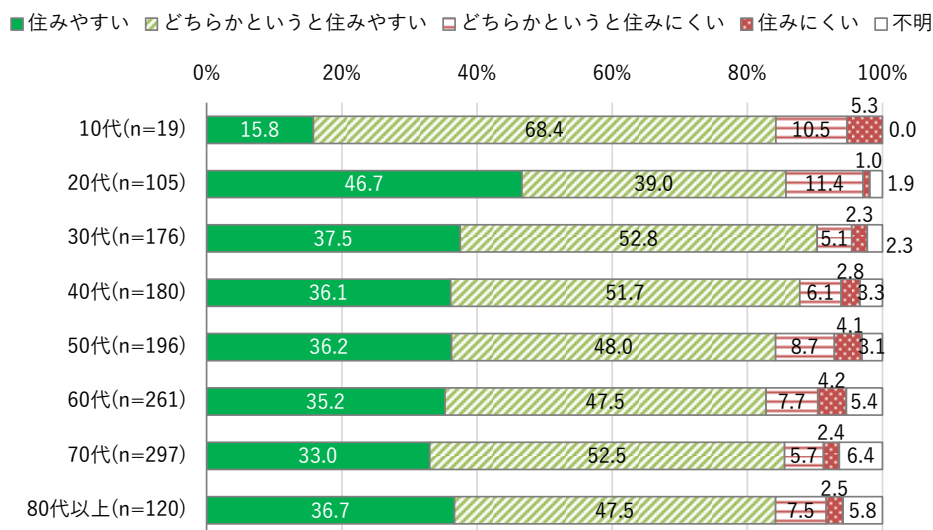
■20代・30代・40代、市街地部の人が住みやすさを感じている

- ・男女別でみると、大きな差は見受けられないが、若干女性のほうが住みやすさを感じている。
- ・年齢別でみると、特に20代や30代、40代で住みやすさを感じる割合が高くなっている。10代では回答数が少ないが、「住みやすい」という回答割合は低く、住みにくさが他の年代より高くなっている。

Q8 住みやすさ (男女別)

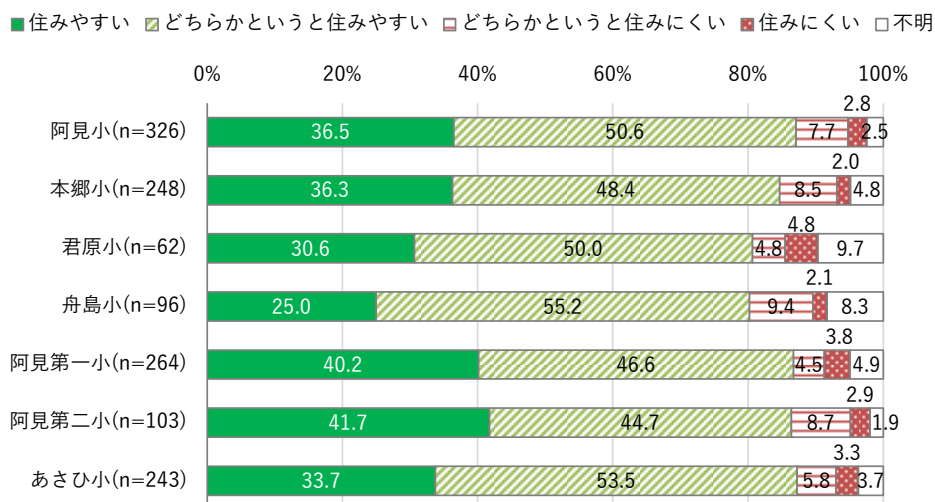


Q8 住みやすさ (年齢別)



- ・居住地区別でみると、阿見小、阿見第一小、阿見第二小、あさひ小で住みやすさを感じる割合が比較的高く、君原小、舟島小では住みやすさが比較的低くなっている。

Q8 住みやすさ（地区別）



(2) 阿見町の住みやすいところ、住みにくいところ

Q9 阿見町の住みやすいところ、住みにくいところをそれぞれ教えてください。 (それぞれ特にあてはまるものに3つまで○)

阿見町の住みやすいところ

- 1.戸建てやアパートなどの住宅環境が良い
- 2.生活必需品の買い物が便利
- 3.医療・福祉が充実している
- 4.公共交通の利便が良い
- 5.道路が整備されている
- 6.自然が多い
- 7.子育てがしやすい
- 8.教育環境が整っている
- 9.自然災害が少ない
- 10.治安がよい
- 11.娯楽・レジャー施設が充実している
- 12.働く場所が多い
- 13.近隣住民とのコミュニケーション関係が良好である
- 14.その他（具体的に：

)

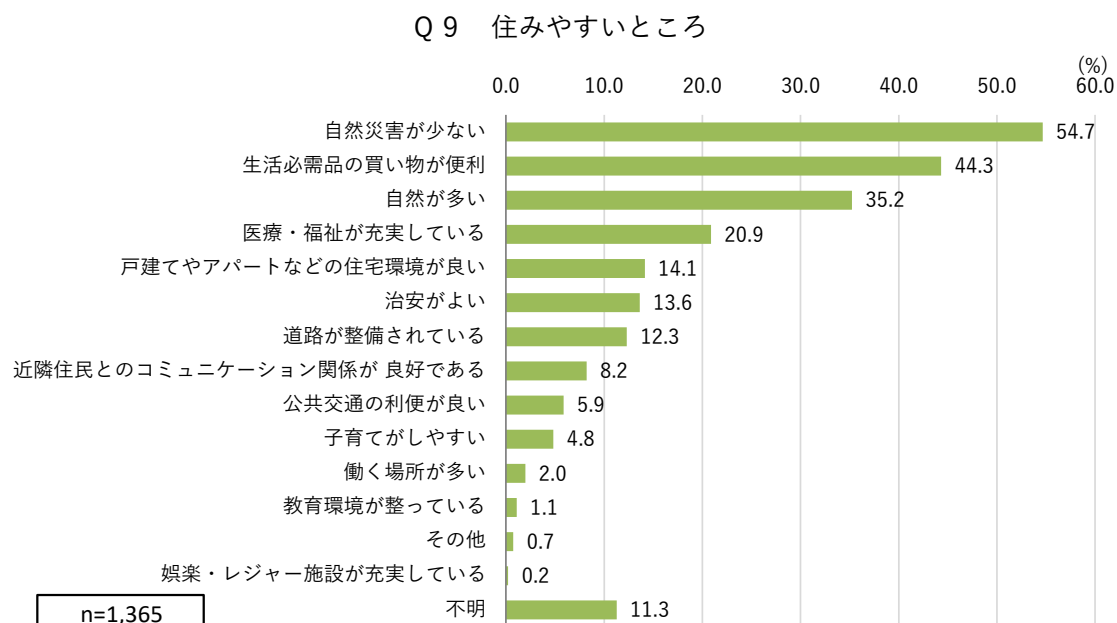
阿見町の住みにくいところ

- 1.戸建てやアパートなどの住宅環境が悪い
- 2.生活必需品の買い物が不便
- 3.医療・福祉が不足している
- 4.公共交通が不便
- 5.道路の整備が不十分
- 6.自然が少ない
- 7.子育てがしにくい
- 8.教育環境が整っていない
- 9.自然災害が多い
- 10.治安が悪い
- 11.娯楽・レジャー施設が不足している
- 12.働く場所が少ない
- 13.近隣住民とのコミュニケーション関係がよくない
- 14.その他（具体的に：

)

■住みやすいところは「自然災害が少ない」「生活必需品の買い物が便利」など。

- ・住みやすいところは、「自然災害が少ない」が 54.7%で最も多く、次いで「生活必需品の買い物が便利」が 44.3%、「自然が多い」が 35.2%となっている。



■「自然災害が少ない」は高齢層、「生活必需品の買い物が便利」は若年層や町域北西部で割合が高い

- ・男女別にみると、性別では回答の傾向にあまり違いはみられない。

Q 9 住みやすいところ（男女別）

(単位：%)

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
自然災害が少ない	56.9	53.2	28.6
生活必需品の買い物が便利	43.8	45.1	50.0
自然が多い	35.9	35.3	14.3
医療・福祉が充実している	24.4	17.8	21.4
戸建てやアパートなどの住宅環境が良い	15.7	13.1	7.1
治安がよい	13.6	13.9	7.1
道路が整備されている	12.8	11.9	7.1
近隣住民とのコミュニケーション関係が良好である	6.9	9.4	0.0
公共交通の利便が良い	4.8	6.9	0.0
子育てがしやすい	4.5	5.1	7.1
働く場所が多い	2.1	1.8	7.1
教育環境が整っている	1.8	0.6	0.0
その他	1.3	0.1	7.1
娯楽・レジャー施設が充実している	0.3	0.1	0.0
不明	10.1	11.8	28.6

// 町民意向調査

- ・年齢別にみると、「自然災害が少ない」は、特に 60 代以上の高齢層で割合が高くなっている。「生活必需品の買い物が便利」は、10 代、20 代、30 代の若年層で割合が 5 割以上となっている。
- ・居住地区別にみると、「生活必需品の買い物が便利」は地区ごとに差が大きく、阿見第一小、阿見第二小、あさひ小で 5 割以上である一方、君原小、舟島小では低くなっている。「自然が多い」は、君原小、舟島小で 5 割以上となっている。

Q9 住みやすいところ（年齢別）

（単位：％）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
自然災害が少ない	57.9	29.5	42.6	48.3	49.5	62.5	65.0	70.0
生活必需品の買い物が便利	63.2	50.5	50.0	42.2	44.4	42.1	44.8	35.0
自然が多い	26.3	36.2	31.3	33.3	32.1	42.5	36.0	34.2
医療・福祉が充実している	42.1	10.5	14.8	20.6	19.9	17.2	25.9	33.3
戸建てやアパートなどの住宅環境が良い	10.5	24.8	22.2	20.6	11.7	11.1	8.8	8.3
治安がよい	26.3	15.2	9.7	12.2	14.8	16.1	13.1	12.5
道路が整備されている	10.5	17.1	13.6	11.1	11.7	12.3	10.8	13.3
近隣住民とのコミュニケーション関係が良好である	10.5	2.9	5.7	3.9	7.1	7.7	12.5	14.2
公共交通の利便が良い	5.3	12.4	6.8	7.2	6.1	4.2	4.4	3.3
子育てがしやすい	0.0	3.8	11.9	11.1	4.6	2.7	1.7	0.0
働く場所が多い	0.0	3.8	2.8	1.1	2.6	2.7	1.0	0.8
教育環境が整っている	5.3	1.0	1.7	0.6	2.6	0.0	1.0	0.8
その他	0.0	1.0	0.6	2.2	0.5	1.1	0.0	0.0
娯楽・レジャー施設が充実している	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
不明	0.0	12.4	12.5	12.8	10.7	10.3	10.8	10.8

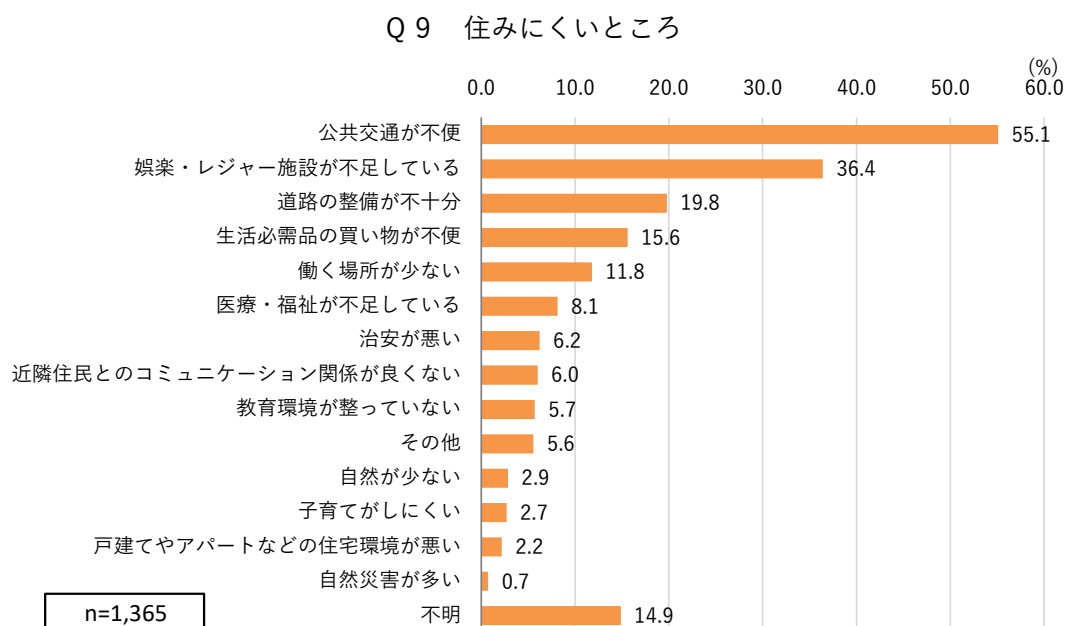
Q9 住みやすいところ（地区別）

（単位：％）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
自然災害が少ない	59.2	51.6	53.2	62.5	46.6	64.1	54.3
生活必需品の買い物が便利	39.6	40.7	8.1	18.8	61.0	51.5	54.3
自然が多い	38.7	38.3	53.2	53.1	31.8	31.1	22.6
医療・福祉が充実している	21.8	15.7	14.5	20.8	27.3	21.4	19.8
戸建てやアパートなどの住宅環境が良い	15.0	14.1	3.2	15.6	11.0	12.6	19.3
治安がよい	16.3	16.5	22.6	15.6	12.1	13.6	5.3
道路が整備されている	10.1	13.3	17.7	24.0	10.6	7.8	12.8
近隣住民とのコミュニケーション関係が良好である	6.4	11.3	16.1	12.5	5.3	6.8	6.6
公共交通の利便が良い	3.7	7.3	0.0	1.0	6.8	1.9	11.1
子育てがしやすい	5.5	6.9	6.5	7.3	3.0	1.9	4.1
働く場所が多い	2.1	0.4	4.8	1.0	2.7	1.9	2.5
教育環境が整っている	1.5	0.0	0.0	2.1	1.5	1.9	0.8
その他	0.6	0.8	0.0	0.0	0.4	1.9	1.2
娯楽・レジャー施設が充実している	0.0	0.4	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0
不明	9.5	11.3	17.7	4.2	12.1	6.8	14.4

■住みにくいところは「公共交通が不便」「娯楽・レジャーが不足している」など。

- ・住みにくいところは、「公共交通が不便」が55.1%で最も多く、次いで「娯楽・レジャー施設が不足している」が36.4%、「道路の整備が不十分」が19.8%となっている。



■「公共交通が不便」「生活必需品の買い物が不便」は、特に町域東部で割合が高い。「娯楽・レジャーが不足している」は、年齢層が低いほど高い

- ・男女別にみると、女性では「生活必需品の買い物が不便」の割合が「道路の整備が不十分」よりも高くなっている。

Q 9 住みにくいところ（男女別）

(単位：%)

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
公共交通が不便	56.3	54.9	42.9
娯楽・レジャー施設が不足している	38.6	34.7	28.6
道路の整備が不十分	21.5	17.7	35.7
生活必需品の買い物が不便	13.3	18.0	7.1
働く場所が少ない	12.2	11.8	7.1
医療・福祉が不足している	7.1	9.0	7.1
治安が悪い	5.6	6.5	14.3
近隣住民とのコミュニケーション関係が良くない	7.7	4.5	0.0
教育環境が整っていない	5.0	6.3	14.3
その他	6.7	4.5	14.3
自然が少ない	2.6	3.1	0.0
子育てがしにくい	2.4	2.8	14.3
戸建てやアパートなどの住宅環境が悪い	2.6	1.8	7.1
自然災害が多い	0.8	0.6	7.1
不明	15.7	13.9	21.4

// 町民意向調査

- ・年齢別にみると、「公共交通が不便」は、全年齢層で割合が最も高くなっている。「娯楽・レジャーが不足している」は、年齢層が低いほど高く、10代・20代では5割を超えている。「生活必需品の買い物が不便」は、特に60代以上で比較的高くなっている。
- ・居住地区別にみると、「公共交通が不便」は、どの地区も割合が高いものの、特に君原小、舟島小で約7割と高くなっている。また、「生活必需品の買い物が不便」も君原小、舟島小で約4割と高くなっている。

Q9 住みにくいところ（年齢別）

(単位：%)

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
公共交通が不便	68.4	52.4	44.9	60.0	58.2	55.6	57.2	54.2
娯楽・レジャー施設が不足している	57.9	52.4	44.9	42.8	35.7	36.0	26.3	24.2
道路の整備が不十分	15.8	13.3	20.5	17.8	23.5	21.8	20.5	15.0
生活必需品の買い物が不便	0.0	14.3	11.4	15.0	11.7	17.2	18.9	21.7
働く場所が少ない	15.8	20.0	11.9	11.7	12.8	13.0	8.8	8.3
医療・福祉が不足している	0.0	7.6	9.7	6.7	8.7	11.1	6.1	6.7
治安が悪い	5.3	6.7	13.1	12.8	4.1	2.7	4.0	2.5
近隣住民とのコミュニケーション関係が良くない	5.3	1.9	5.1	4.4	4.6	5.0	9.4	8.3
教育環境が整っていない	5.3	8.6	9.7	8.3	4.6	6.1	2.0	4.2
その他	15.8	5.7	6.8	5.6	7.1	5.4	4.0	4.2
自然が少ない	0.0	1.9	2.3	1.1	2.0	3.1	5.1	2.5
子育てがしにくい	10.5	2.9	5.1	5.0	3.1	0.4	2.0	0.8
戸建てやアパートなどの住宅環境が悪い	0.0	1.0	2.8	1.7	2.0	1.9	3.4	1.7
自然災害が多い	0.0	1.0	1.1	1.1	1.0	0.4	0.7	0.0
不明	10.5	10.5	11.9	6.7	13.3	15.7	19.2	25.8

Q9 住みにくいところ（地区別）

(単位：%)

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
公共交通が不便	59.2	53.6	66.1	72.9	51.9	60.2	45.3
娯楽・レジャー施設が不足している	36.5	33.1	29.0	39.6	41.3	39.8	33.7
道路の整備が不十分	20.9	23.8	24.2	8.3	19.3	17.5	19.3
生活必需品の買い物が不便	18.4	12.9	43.5	37.5	7.2	16.5	7.0
働く場所が少ない	11.7	13.3	6.5	14.6	11.4	8.7	13.6
医療・福祉が不足している	7.4	11.7	1.6	7.3	7.2	6.8	9.1
治安が悪い	3.4	4.8	0.0	3.1	9.1	9.7	9.5
近隣住民とのコミュニケーション関係が良くない	6.7	4.8	3.2	4.2	5.7	9.7	6.2
教育環境が整っていない	3.7	7.3	4.8	5.2	4.9	5.8	8.6
その他	5.8	7.7	3.2	3.1	3.0	4.9	8.2
自然が少ない	1.2	3.2	0.0	1.0	2.3	0.0	7.8
子育てがしにくい	2.5	3.6	3.2	3.1	1.5	1.9	3.7
戸建てやアパートなどの住宅環境が悪い	2.1	0.8	0.0	3.1	3.4	3.9	2.1
自然災害が多い	0.3	1.6	0.0	1.0	0.8	0.0	0.8
不明	16.0	15.3	9.7	9.4	14.4	10.7	17.3

(3) 10 年前（または住み始め）との比較

Q10 10 年前（阿見町に住み始めて 10 年未満の方は住み始めた時期）と比べて、
住みやすくなったと思いますか。（1 つに○）

1. 住みやすくなった 2. 住みにくくなった 3. どちらともいえない

⇒「1.住みやすくなった」、「2.住みにくくなった」を選んだ方は、その理由について
Q9 の選択肢から 2 つ番号を選んでお書きください。

() ()

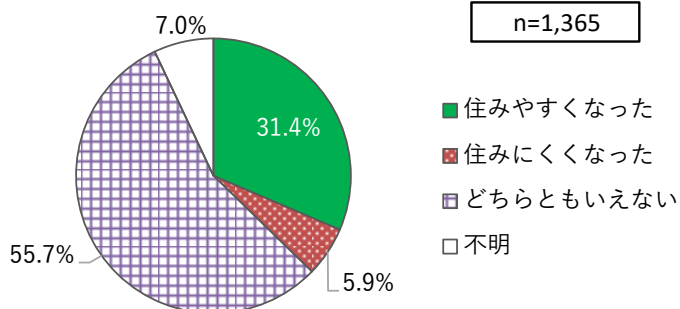
■以前より住みやすくなったと感じる割合は約 3 割。住みやすくなった理由は「生活必需品の買い物」
や「道路の整備」、住みにくくなった理由は「公共交通の利便」「生活必需品の買い物」

・10 年前（または住み始め）と比較して「住みやすくなった」と感じる割合は 31.4%、「住みにくくなった」と感じる割合は 5.9%となっている。

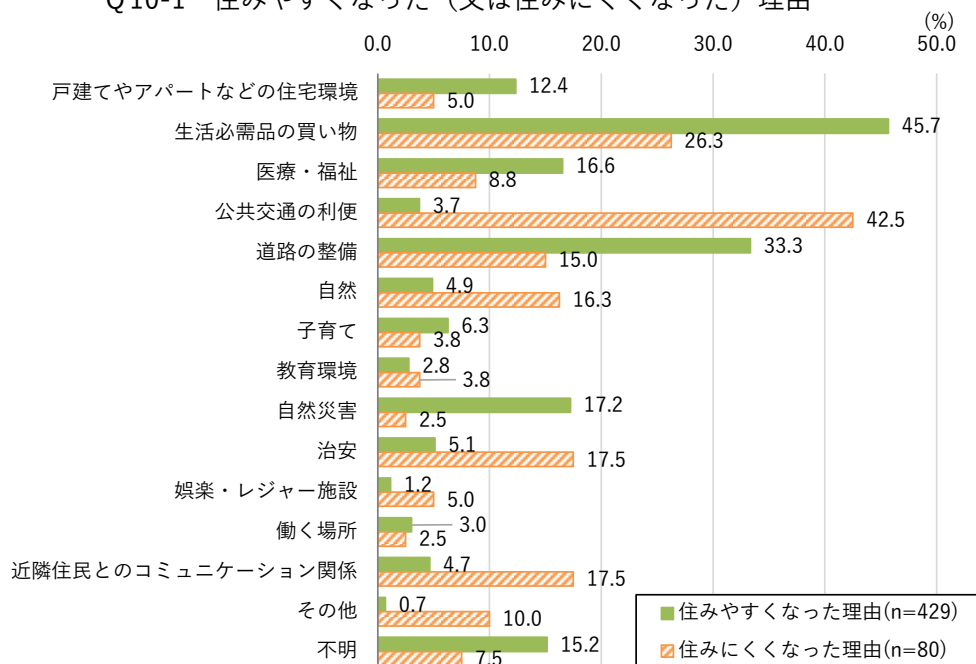
・「住みやすくなった」と回答した理由をみると、「生活必需品の買い物」が 45.7%で最も多く、次いで「道路の整備」が 33.3%となっている。

・「住みにくくなった」と回答した理由をみると、「公共交通の利便」が 42.5%で最も多く、次いで「生活必需品の買い物」が 26.3%となっている。

Q10 10 年前（または住み始め）と比べて



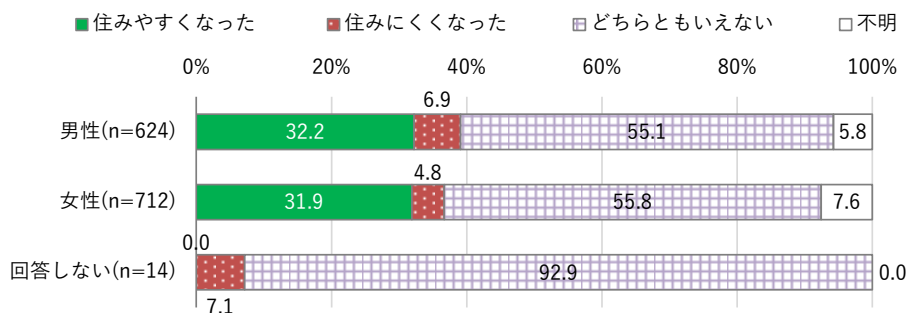
Q10-1 住みやすくなった（又は住みにくくなった）理由



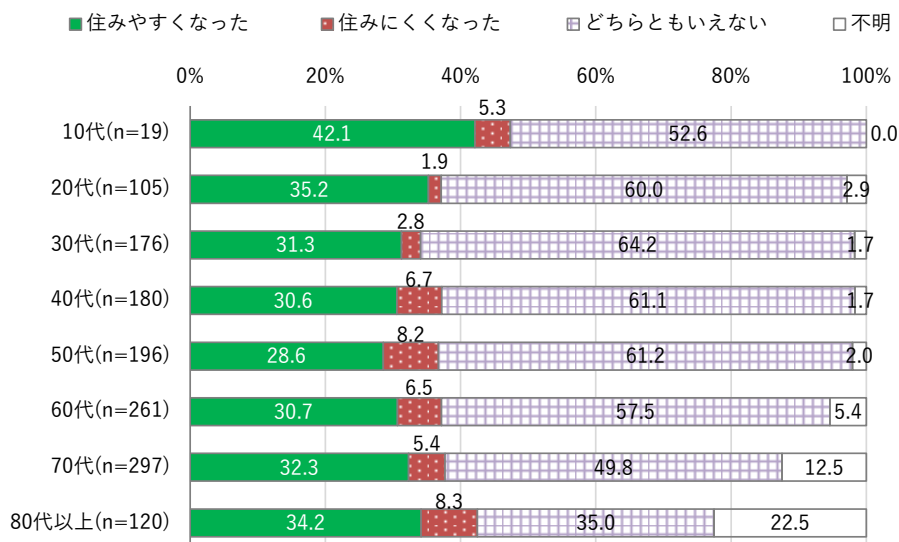
■「住みやすくなった」と感じる割合は若年層や町域西部で高く、50代や町域東部で低い

- ・男女別にみると、男性のほうが、「住みにくくなった」と感じる割合が女性より若干高くなっている。
- ・年齢別にみると、「住みやすくなった」と感じる割合は、若年層ほど高くなり、50代が最も低い。
- ・地区別にみると、「住みやすくなった」と感じる割合は、本郷小やあさひ小で4割近くである一方、君原小や舟島小では2割程度となっている。

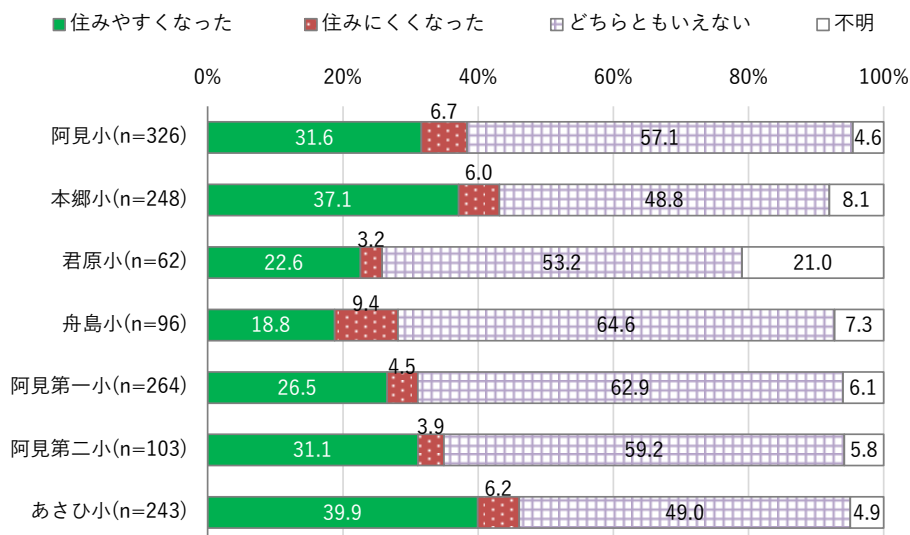
Q10 10年前（または住み始め）と比べて（男女別）



Q10 10年前（または住み始め）と比べて（年齢別）



Q10 10年前（または住み始め）と比べて（地区別）



3 第6次総合計画の主な施策の満足度・重要度について

Q11 現在の第6次総合計画において進めてきた主な施策について、あなたが感じている現状の満足度と今後のまちづくりに向けた重要度を教えてください。

(満足度・重要度それぞれ1つに○)

	高い	やや高い	どちらでもない	やや低い	低い	高い	やや高い	どちらでもない	やや低い	低い
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

(1) 「地域力を育むプロジェクト」について

1 【町民参加の促進】

町民と行政が協働で様々なまちづくりに取り組み、町全体が活性化している

2 【コミュニティ活動の充実】

地域の特性を活かした自主的、自立的な地域コミュニティ活動が活発になり、全町的に広がっている

3 【広報・広聴活動の充実】

きめ細やかな情報提供により、町政への理解が深まるとともに、町民意見を聴く様々な機会と場が設置され、意見が町政に活かされている

4 【行政運営】

町民の視点に立ち、適正、効果的かつ効率的な仕組みによる行政運営が行われている

5 【財政の健全化】

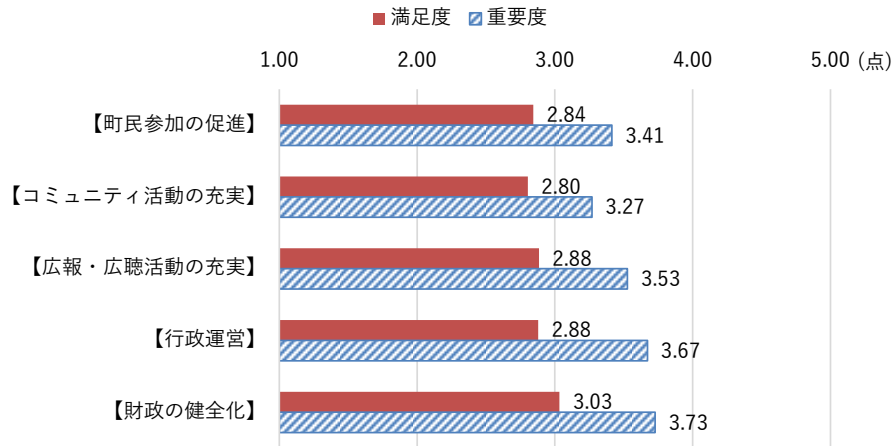
安定した財政基盤を確立し、健全かつ持続可能な財政運営が行われている

■満足度・重要度ともに【財政の健全化】が比較的高く、【コミュニティ活動の充実】が低い

- ・「地域力を育むプロジェクト」に関する施策の満足度をみると、【財政の健全化】が平均 3.03 点で最も高く、【コミュニティ活動の充実】が平均 2.80 点で最も低くなっている。
- ・重要度をみると、【財政の健全化】が平均 3.73 点で最も高く、【コミュニティ活動の充実】が平均 3.27 点で最も低くなっている。

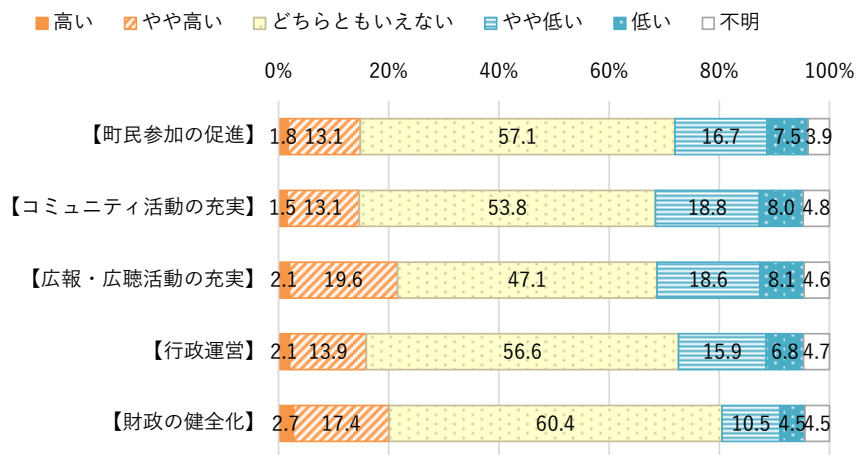
// 町民意向調査

地域力を育むプロジェクト（平均点）

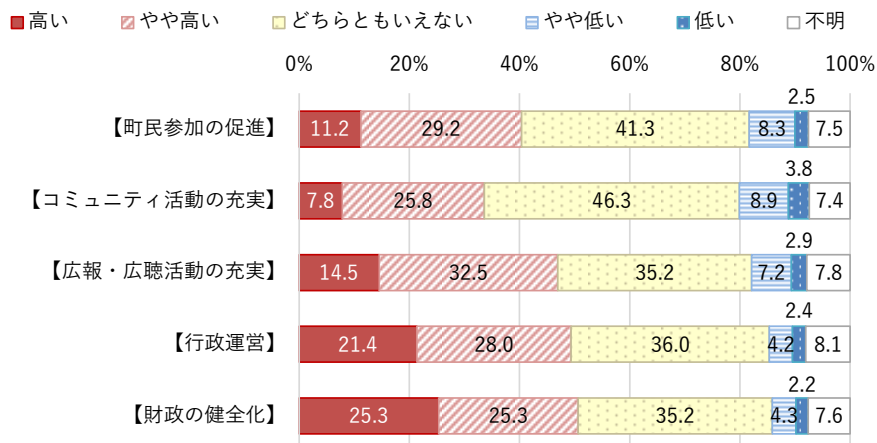


- ・満足度の内訳をみると、【広報・広聴活動の充実】は満足度が高い（「高い」「やや高い」）と感じる割合が2割を超えている一方、満足度が低い（「低い」「やや低い」）と感じる割合も高くなっている。
- ・重要度の内訳をみると、【財政の健全化】や【行政運営】の重要度は「高い」が2割を超えている。

地域力を育むプロジェクト（満足度）



地域力を育むプロジェクト（重要度）



(2) 「町民・企業・行政等の連携・協働促進プロジェクト」について

1 【産学官連携】

大学，企業，研究機関等と連携したまちづくりが行われ，地域の問題解決や活性化に役立っている

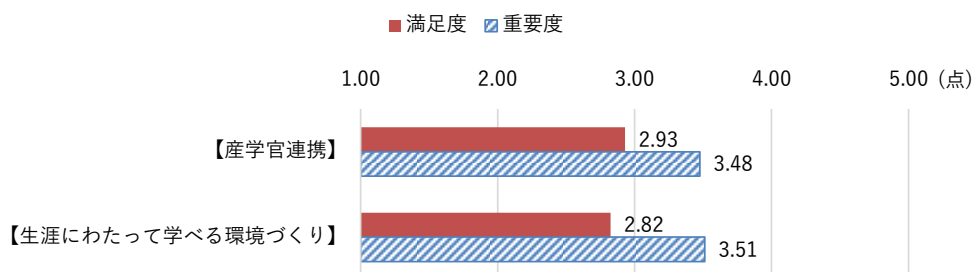
2 【生涯にわたって学べる環境づくり】

町民ニーズや社会情勢の変化などに対応し，町民が夢や生きがいを持って活躍できる生涯学習の推進体制が構築されている

■ 【産学官連携】【生涯にわたって学べる環境づくり】ともに満足度・重要度が低い

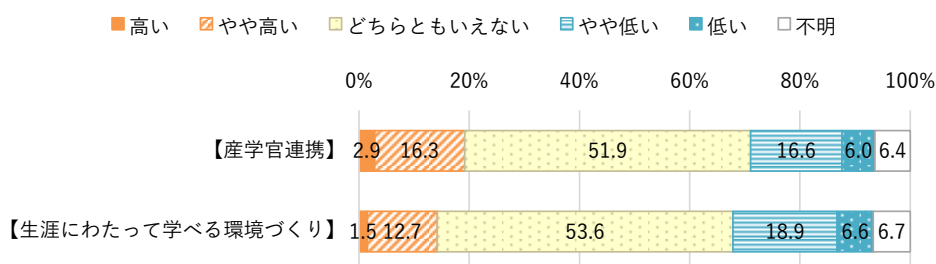
- ・「町民・企業・行政等の連携・協働促進プロジェクト」に関する施策の満足度をみると、【産学官連携】が平均 2.93 点、【生涯にわたって学べる環境づくり】が平均 2.82 点と低くなっている。
- ・重要度をみると、【産学官連携】が平均 3.48 点、【生涯にわたって学べる環境づくり】が平均 3.51 点と低くなっている。

町民・企業・行政等の連携・協働促進プロジェクト（平均点）

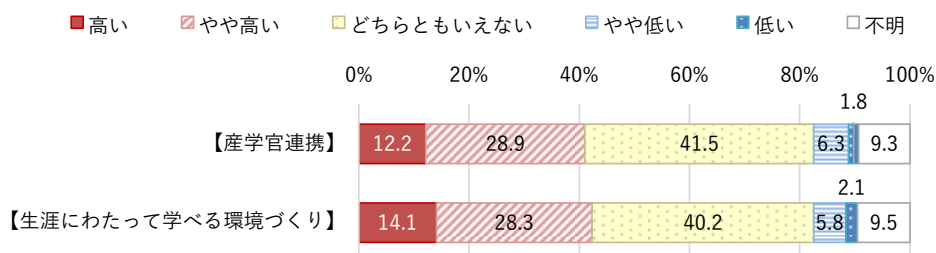


- ・満足度の内訳をみると、【生涯にわたって学べる環境づくり】は満足度が高い（「高い」「やや高い」）と感じる割合が2割未満で、満足度が低い（「低い」「やや低い」）と感じる割合が高くなっている。
- ・重要度の内訳をみると、【産学官連携】の重要度は「高い」が1割程度となっている。

町民・企業・行政等の連携・協働促進プロジェクト（満足度）



町民・企業・行政等の連携・協働促進プロジェクト（重要度）



(3) 「子どもの成長や若者の活躍を支えるプロジェクト」について

1 【子ども・子育て支援の充実】

子育てに関する支援体制や保育環境が充実し、地域の中で安心して子育てができている

2 【医療福祉の充実】

町民が必要なときにいつでも安心して医療を受けることができるまちになっている

3 【幼児教育の充実】

幼児一人ひとりが家庭や地域の中で適切な教育を受け、健やかに成長している

4 【学校教育の充実】

児童生徒が、自ら学び考え、生きる力を養い、心も体も健康でいきいきと教育を受けている

5 【児童生徒の健康管理と安全対策】

安全・安心、快適で質の高い教育環境が整い、児童生徒が健やかに成長している

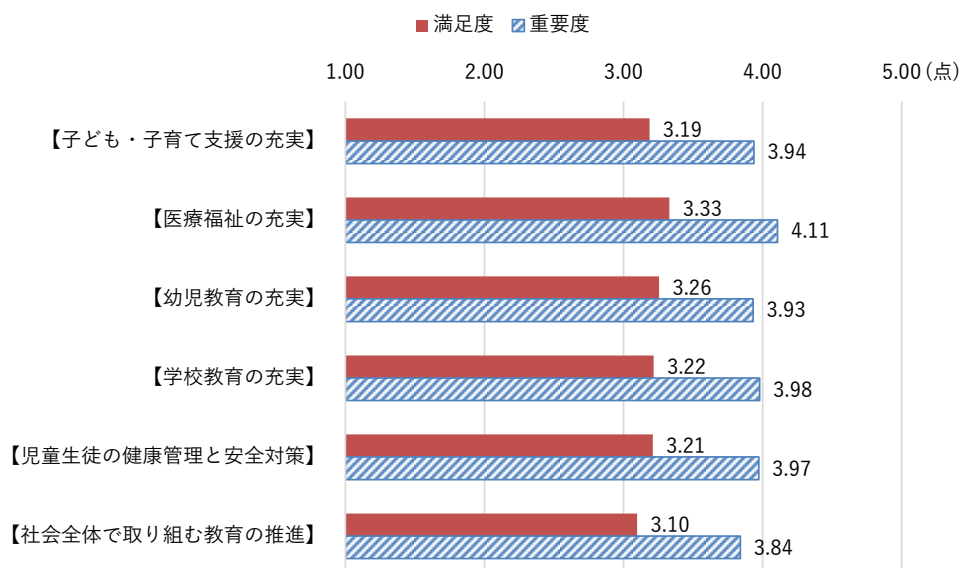
6 【社会全体で取り組む教育の推進】

地域・家庭・学校・行政が一体となり、地域全体で子どもたちの教育に取り組んでいる

■プロジェクトに関わる全ての施策の満足度・重要度が高く、特に【医療福祉の充実】が高い

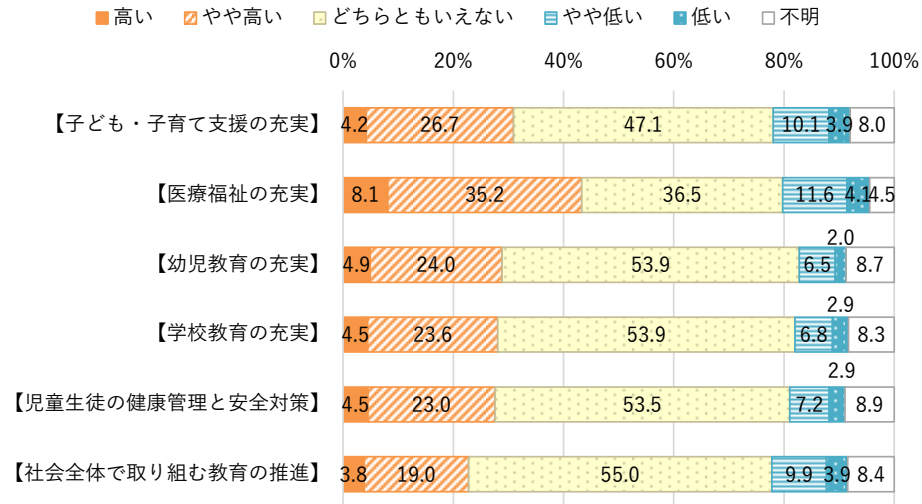
- ・「子どもの成長や若者の活躍を支えるプロジェクト」に関する施策の満足度をみると、全ての施策の満足度が平均 3.1 点を上回っており、中でも【医療福祉の充実】が平均 3.33 点で最も高くなっている。
- ・重要度についても、全ての施策の重要度が平均 3.8 点を上回っており、中でも【医療福祉の充実】が平均 4.11 点で最も高くなっている。

子どもの成長や若者の活躍を支えるプロジェクト（平均点）

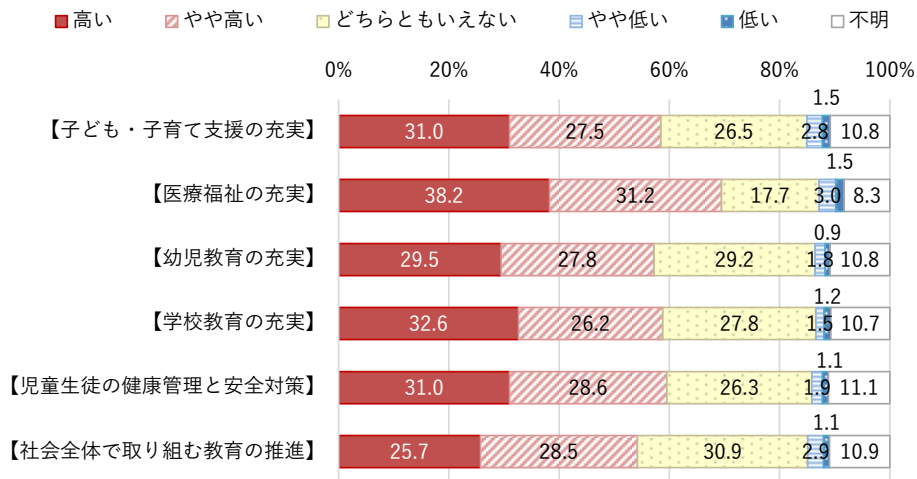


- ・満足度の内訳をみると、【医療福祉の充実】は満足度が高い（「高い」「やや高い」と感じる割合が4割以上となっており、他の施策と比較しても高くなっている。
- ・重要度の内訳をみると、【医療福祉の充実】のほか、【子ども・子育て支援の充実】や【学校教育の充実】、【児童生徒の健康管理と安全対策】の重要度は「高い」が3割を超えている。

子どもの成長や若者の活躍を支えるプロジェクト（満足度）



子どもの成長や若者の活躍を支えるプロジェクト（重要度）



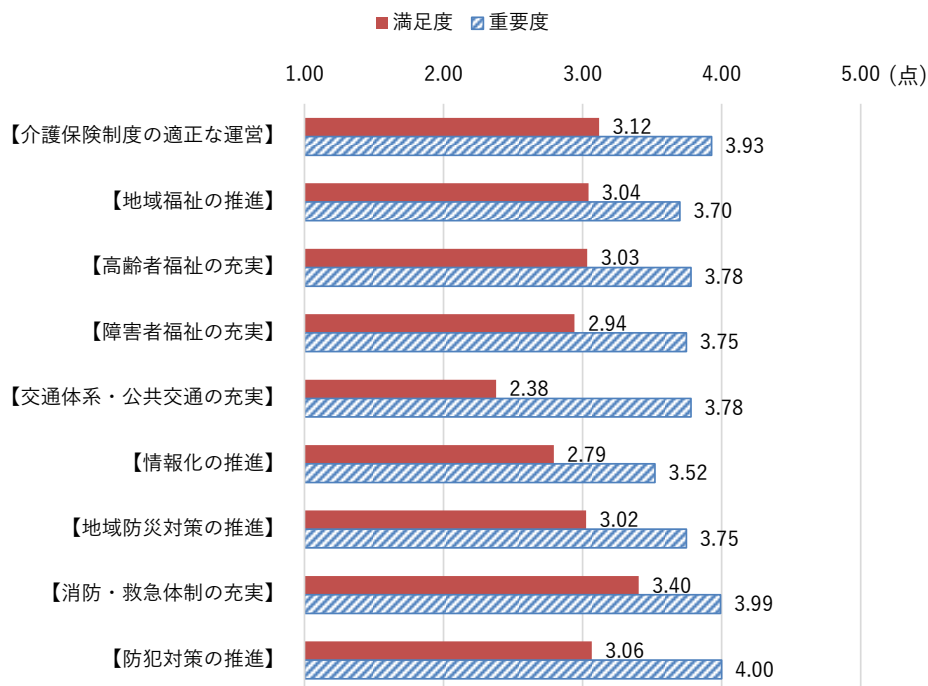
(4) 「町民の暮らしを支えるプロジェクト」について

- | |
|--|
| <p>1【介護保険制度の適正な運営】
介護を必要とする人に適切な介護サービスが提供され、高齢者が住み慣れた地域で安心して日常生活を送っている</p> <p>2【地域福祉の推進】
地域の中で住民同士が共に支え合い・助け合い、いきいきと安全・安心に暮らしている</p> <p>3【高齢者福祉の充実】
高齢者が住み慣れた地域で様々な人に見守られながら、安心していきいきと生活できるまちになっている</p> <p>4【障害者福祉の充実】
障害者が住み慣れた地域や家庭で、安心して生きがいある生活を営めるまちになっている</p> <p>5【交通体系・公共交通の充実】
町内や周辺地域への移動利便性が確保され、子どもから高齢者まで、すべての町民が便利に暮らしている</p> <p>6【情報化の推進】
他自治体や民間等と連携して地域及び行政の情報化を進めることにより、町民サービスの向上が図られている</p> <p>7【地域防災対策の推進】
「町民（自助）」、「地域コミュニティ（共助）」、「町（公助）」がそれぞれの責務と役割を認識し、相互に連携を図り、防災力が向上している</p> <p>8【消防・救急体制の充実】
消防体制及び救急救護体制が一層充実し、安全で安心な生活が確保されている</p> <p>9【防犯対策の推進】
防犯対策が推進され犯罪のない安全・安心なまちになっている</p> |
|--|

■満足度が高く重要度も高いのは【消防・救急体制の充実】、満足度が低く重要度も高いのは【交通体系・公共交通の充実】

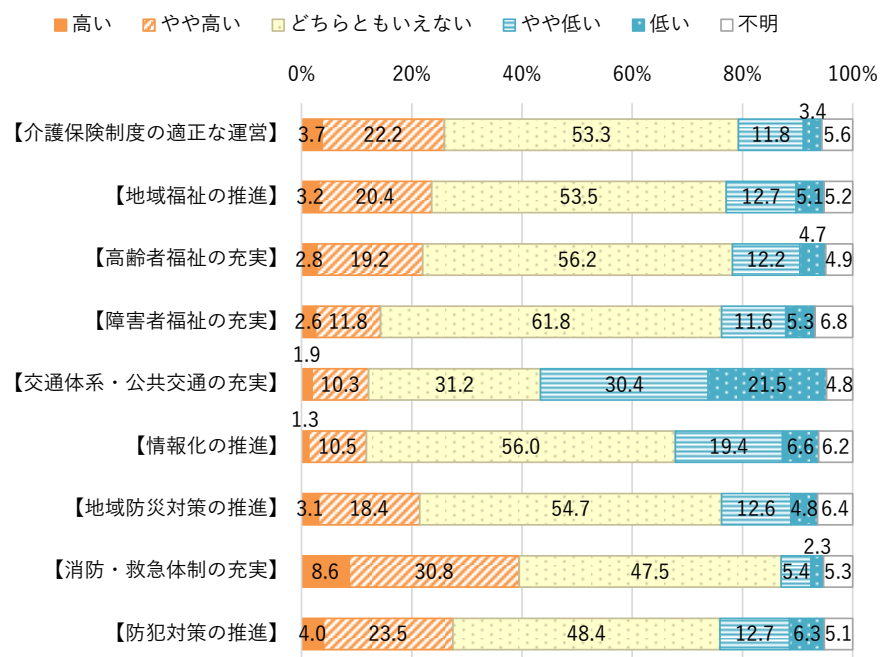
- ・「町民の暮らしを支えるプロジェクト」に関する施策の満足度をみると、【消防・救急体制の充実】が平均 3.40 点で最も高く、【交通体系・公共交通の充実】が平均 2.38 点で最も低くなっている。
- ・重要度については、【防犯対策の推進】が平均 4.00 点で最も高く、【情報化の推進】が平均 3.52 点で最も低くなっている。

町民の暮らしを支えるプロジェクト（平均点）



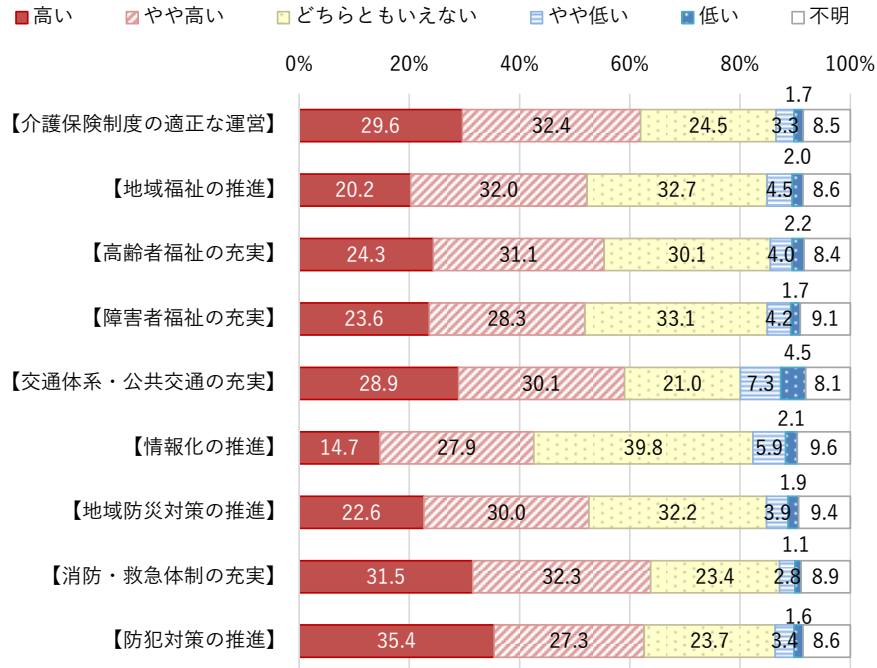
・満足度の内訳をみると、【消防・救急体制の充実】は満足度が高い（「高い」「やや高い」と感じる割合が約4割となっており、他の施策と比較しても高くなっている。一方で、【交通体系・公共交通の充実】は満足度が低い（「低い」「やや低い」と感じる割合が5割以上となっている。

町民の暮らしを支えるプロジェクト（満足度）



- ・重要度の内訳をみると、【介護保険制度の適正な運営】や【交通体系・公共交通の充実】、【消防・救急体制の充実】、【防犯対策の推進】は重要度が「高い」がそれぞれ約３割で、重要度が高い（「高い」「やや高い」）と感じる割合も約６割と高くなっている。

町民の暮らしを支えるプロジェクト（重要度）



（５）「霞ヶ浦等の地域資源を活かした交流プロジェクト」について

1 【観光の振興】

町内の地域資源を再認識・再評価し、町民が気軽に余暇を楽しむとともに、多くの観光客が訪れるまちになっている

2 【自然環境の保全】

恵まれた自然環境を次世代へ継承するため、町民、地域及びボランティア組織等が霞ヶ浦や、平地林、農業生産基盤の保全に取り組んでいる

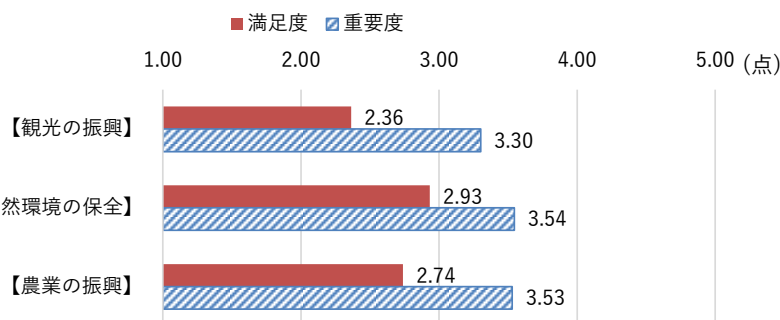
3 【農業の振興】

農業が魅力ある産業となり、意欲ある新規就農者や農業後継者などが増加し、活力ある農業が展開されている

■全ての施策の満足度が低く、特に【観光の振興】の満足度、重要度が低い

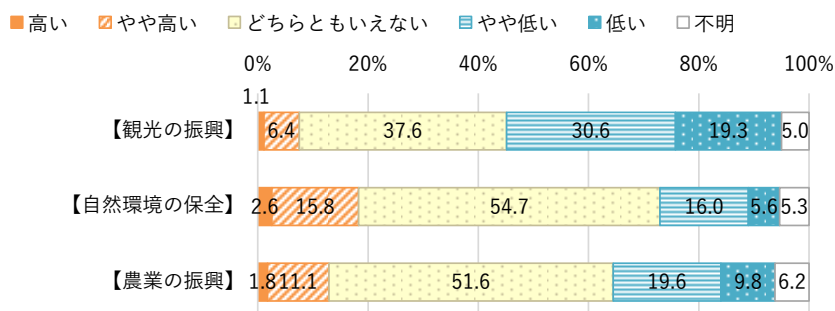
- ・「霞ヶ浦等の地域資源を活かした交流プロジェクト」に関する施策の満足度をみると、【観光の振興】が平均 2.36 点で最も低く、【農業の振興】も平均 2.74 点で低くなっている。
- ・重要度については、【観光の振興】が平均 3.30 点で最も低く、満足度、重要度ともにコロナ禍の影響が現れていると考えられる。

霞ヶ浦等の地域資源を活かした交流プロジェクト（平均点）

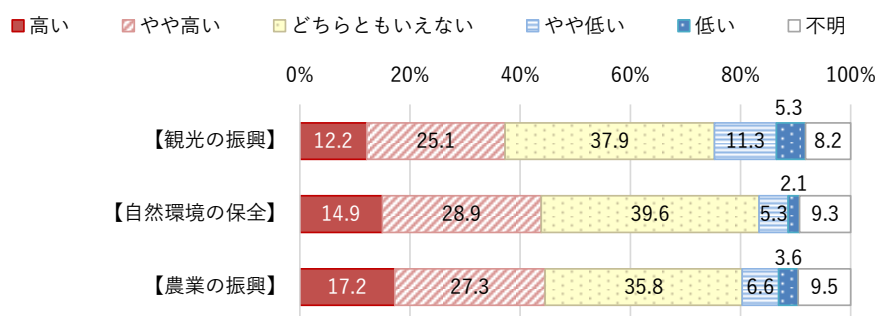


- ・満足度の内訳をみると、【観光の振興】は満足度が低い（「低い」「やや低い」）と感じる割合が5割以上となっている。
- ・重要度の内訳をみると、【観光の振興】の重要度は「高い」が1割程度だが、【農業の振興】は「高い」が2割弱で、他の施策よりも若干多くなっている。

霞ヶ浦等の地域資源を活かした交流プロジェクト（満足度）



霞ヶ浦等の地域資源を活かした交流プロジェクト（重要度）



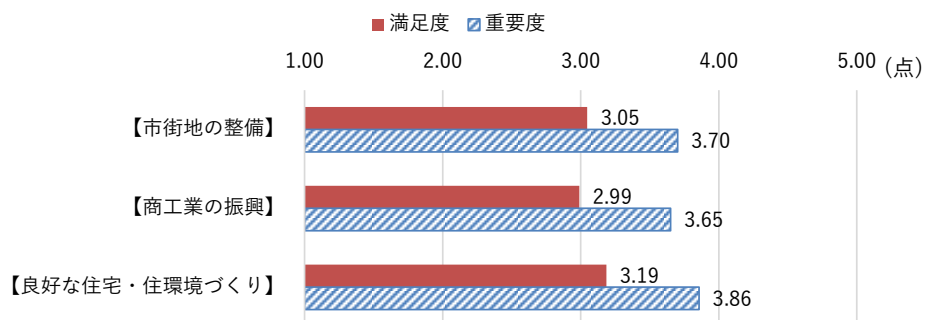
（6）「地域経済の活力向上プロジェクト」について

- 1 【市街地の整備】
計画的に市街地が形成され、快適で住みよい魅力あるまちになっている
- 2 【商工業の振興】
企業にとって魅力ある事業環境の中で企業の投資が進み、雇用の創出と地域経済の活力につながっている
- 3 【良好な住宅・住環境づくり】
町民が快適で安心して暮らせる住環境が整っている

■満足度、重要度が比較的高いのは【良好な住宅・住環境づくり】

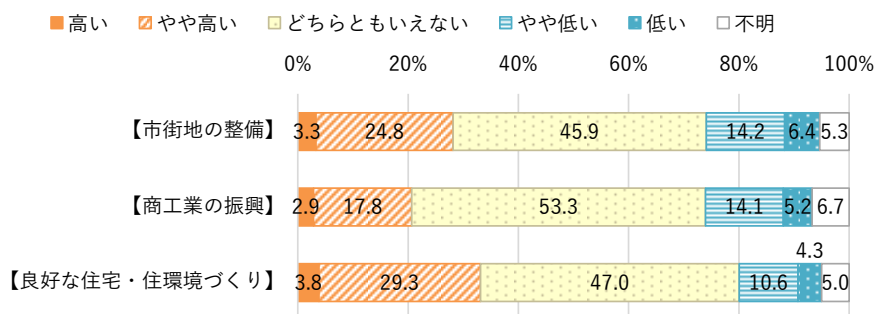
- ・「地域経済の活力向上プロジェクト」に関する施策の満足度をみると、【良好な住宅・住環境づくり】が平均 3.19 点で最も高く、【商工業の振興】が平均 2.99 点で若干低くなっている。
- ・重要度については、【良好な住宅・住環境づくり】が平均 3.86 点で最も高く、次いで【市街地の整備】が平均 3.70 点となっている。

地域経済の活力向上プロジェクト（平均点）

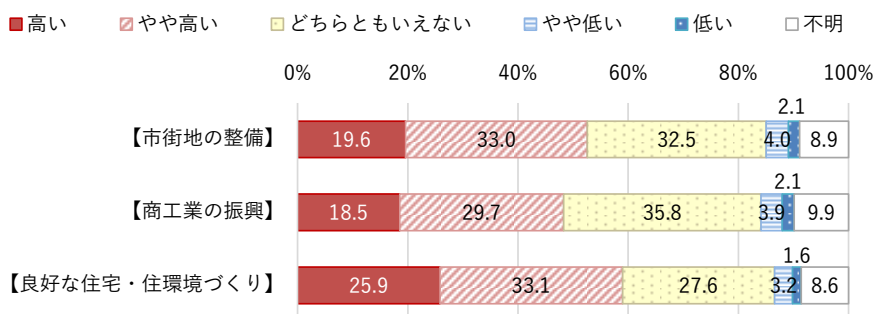


- ・満足度の内訳をみると、【良好な住宅・住環境づくり】や【市街地の整備】は満足度が高い（「高い」「やや高い」）と感じる割合が3割前後となっている。
- ・重要度の内訳をみると、【良好な住宅・住環境づくり】は重要度が高い（「高い」「やや高い」）と感じる割合が約6割と高くなっている。

地域経済の活力向上プロジェクト（満足度）



地域経済の活力向上プロジェクト（重要度）



(7) 主な施策の満足度・重要度のまとめ

■満足度が高い施策は、【消防・救急体制の充実】【医療福祉の充実】【幼児教育の充実】。満足度が低い施策は、【観光の振興】【交通体系・公共交通の充実】【農業の振興】

- ・主な施策の満足度の平均をみると、【消防・救急体制の充実】が3.40点（1位）で最も高く、次いで【医療福祉の充実】が3.33点（2位）、【幼児教育の充実】が3.26点（3位）となっている。
- ・満足度が最も低いのは、【観光の振興】で2.36点（28位）、次いで【交通体系・公共交通の充実】が2.38点（27位）、【農業の振興】が2.74点（26位）となっている。

■重要度が高い施策は、【医療福祉の充実】【防犯対策の推進】【消防・救急体制の充実】

- ・主な施策の重要度の平均をみると、【医療福祉の充実】が4.11点（1位）で最も高く、次いで【防犯対策の推進】が4.00点（2位）、【消防・救急体制の充実】が3.99点（3位）となっている。
- ・重要度が最も低いのは、【コミュニティ活動の充実】で3.27点（28位）、次いで【観光の振興】が3.30点（27位）、【町民参加の推進】が3.41点（26位）となっている。

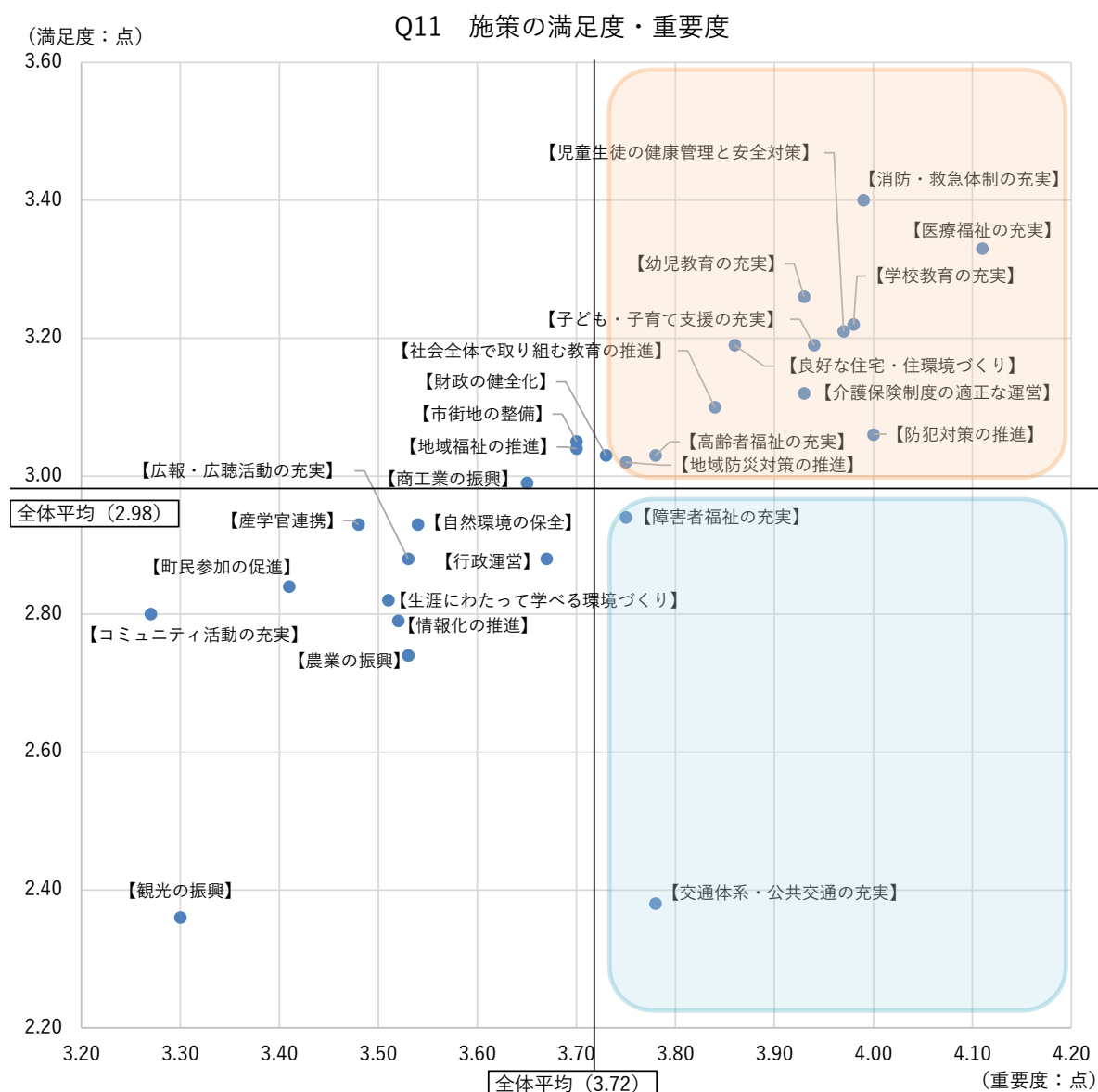
Q11 主な施策の満足度・重要度（全体）

（平均値・評価値：点、順位：位）

重点プロジェクト	施策	満足度				重要度			
		平均値	順位	評価値	順位	平均値	順位	評価値	順位
(1)地域力を育むプロジェクト	【町民参加の促進】	2.84	22	2.89	4	3.41	26	3.52	4
	【コミュニティ活動の充実】	2.80	24			3.27	28		
	【広報・広聴活動の充実】	2.88	20			3.53	21		
	【行政運営】	2.88	20			3.67	18		
	【財政の健全化】	3.03	13			3.73	15		
(2)町民・企業・行政等の連携・協働促進プロジェクト	【産学官連携】	2.93	18	2.88	5	3.48	25	3.50	5
	【生涯にわたって学べる環境づくり】	2.82	23			3.51	24		
(3)子どもの成長や若者の活躍を支えるプロジェクト	【子ども・子育て支援の充実】	3.19	6	3.22	1	3.94	6	3.96	1
	【医療福祉の充実】	3.33	2			4.11	1		
	【幼児教育の充実】	3.26	3			3.93	7		
	【学校教育の充実】	3.22	4			3.98	4		
	【児童生徒の健康管理と安全対策】	3.21	5			3.97	5		
	【社会全体で取り組む教育の推進】	3.10	9			3.84	10		
(4)町民の暮らしを支えるプロジェクト	【介護保険制度の適正な運営】	3.12	8	2.98	3	3.93	7	3.80	2
	【地域福祉の推進】	3.04	12			3.70	16		
	【高齢者福祉の充実】	3.03	13			3.78	11		
	【障害者福祉の充実】	2.94	17			3.75	13		
	【交通体系・公共交通の充実】	2.38	27			3.78	11		
	【情報化の推進】	2.79	25			3.52	23		
	【地域防災対策の推進】	3.02	15			3.75	13		
	【消防・救急体制の充実】	3.40	1			3.99	3		
	【防犯対策の推進】	3.06	10			4.00	2		
(5)霞ヶ浦等の地域資源を活かした交流プロジェクト	【観光の振興】	2.36	28	2.68	6	3.30	27	3.46	6
	【自然環境の保全】	2.93	18			3.54	20		
	【農業の振興】	2.74	26			3.53	21		
(6)地域経済の活力向上プロジェクト	【市街地の整備】	3.05	11	3.08	2	3.70	16	3.74	3
	【商工業の振興】	2.99	16			3.65	19		
	【良好な住宅・住環境づくり】	3.19	6			3.86	9		
(7)全体平均		2.98				3.72			

■満足度が高く重要度が高い施策は、【消防・救急体制の充実】【医療福祉の充実】【学校教育の充実】など。満足度が低く重要度が高い施策は【交通体系・公共交通の充実】など

- ・施策の満足度・重要度を分析すると、満足度が高く重要度が高い施策は、【消防・救急体制の充実】【医療福祉の充実】【学校教育の充実】【児童生徒の健康管理と安全対策】【幼児教育の充実】【子ども・子育て支援の充実】【良好な住宅・住環境づくり】【介護保険制度の適正な運営】【防犯対策の推進】【社会全体で取り組む教育の推進】などとなっており、主に「子どもの成長や若者の活躍を支えるプロジェクト」に関する施策が多くなっている。
- ・一方、満足度が低く重要度が高い施策は【交通体系・公共交通の充実】【障害者福祉の充実】で、特に【交通体系・公共交通の充実】は今後の施策として重要と考えられる。



■比較的若い世代では【市街地の整備】や【良好な住宅・住環境づくり】の満足度が高い

- ・施策の満足度を年齢別にみると、【医療福祉の充実】や【消防・救急体制の充実】は、全世代で満足度が高く、【交通体系・公共交通の充実】や【観光の振興】は、全世代で満足度が低くなっている。
- ・【市街地の整備】や【良好な住宅・住環境づくり】は10代～30代などの若い世代のほうが、満足度が高くなっている。

Q11 主な施策の満足度（年齢別）

（平均：点、順位：位）

	施策	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代以上	
		満足度		満足度		満足度		満足度		満足度		満足度		満足度		満足度	
		平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位
(1)	【町民参加の促進】	3.05	22	3.02	23	2.78	25	2.88	19	2.77	22	2.73	23	2.86	22	3.08	20
	【コミュニティ活動の充実】	3.26	16	2.99	24	2.79	24	2.76	26	2.73	26	2.75	21	2.81	24	2.92	25
	【広報・広聴活動の充実】	3.26	16	3.09	19	2.90	19	2.86	20	2.85	21	2.74	22	2.92	19	3.00	23
	【行政運営】	3.00	23	3.04	21	2.90	19	2.84	23	2.89	18	2.79	18	2.85	23	3.01	21
	【財政の健全化】	3.21	19	3.28	10	3.09	10	2.93	17	3.03	11	2.89	15	3.03	11	3.23	13
(2)	【産学官連携】	2.95	24	3.19	16	2.87	22	2.94	15	2.86	20	2.79	18	2.97	15	3.17	18
	【生涯にわたって学べる環境づくり】	2.68	26	3.04	21	2.77	26	2.79	25	2.75	25	2.72	24	2.91	20	2.98	24
(3)	【子ども・子育て支援の充実】	3.16	21	3.29	8	3.15	6	3.23	4	3.15	7	3.05	6	3.21	6	3.43	3
	【医療福祉の充実】	4.11	1	3.60	1	3.26	4	3.31	1	3.23	2	3.12	3	3.35	2	3.68	1
	【幼児教育の充実】	3.37	11	3.34	6	3.31	1	3.28	3	3.16	4	3.19	2	3.26	4	3.38	6
	【学校教育の充実】	3.32	13	3.35	5	3.19	5	3.19	5	3.16	4	3.09	4	3.30	3	3.43	3
	【児童生徒の健康管理と安全対策】	3.58	7	3.43	4	3.15	6	3.18	7	3.19	3	3.07	5	3.26	4	3.41	5
	【社会全体で取り組む教育の推進】	3.32	13	3.29	8	3.13	8	3.07	9	3.08	9	2.97	8	3.10	9	3.26	12
(4)	【介護保険制度の適正な運営】	3.74	5	3.22	12	3.09	10	3.19	5	3.05	10	2.93	10	3.15	7	3.34	8
	【地域福祉の推進】	3.84	3	3.21	14	3.07	12	3.00	13	2.96	16	2.91	13	3.03	11	3.27	10
	【高齢者福祉の充実】	3.74	5	3.28	10	3.05	13	3.02	10	3.00	13	2.93	10	2.94	17	3.23	13
	【障害者福祉の充実】	3.47	8	3.13	17	2.90	19	2.86	20	2.93	17	2.84	17	2.94	17	3.18	17
	【交通体系・公共交通の充実】	2.63	27	2.73	27	2.57	27	2.43	28	2.27	28	2.19	28	2.30	28	2.45	28
	【情報化の推進】	2.95	24	2.96	25	2.80	23	2.84	23	2.77	22	2.62	25	2.78	25	3.01	21
	【地域防災対策の推進】	3.47	8	3.22	12	3.00	15	3.02	10	2.99	14	2.93	10	2.97	15	3.27	10
	【消防・救急体制の充実】	3.84	3	3.53	2	3.28	3	3.29	2	3.39	1	3.34	1	3.44	1	3.66	2
	【防犯対策の推進】	3.37	11	3.13	17	3.04	14	2.94	15	3.09	8	2.95	9	3.10	9	3.38	6
(5)	【観光の振興】	2.32	28	2.60	28	2.37	28	2.44	27	2.30	27	2.20	27	2.33	27	2.60	27
	【自然環境の保全】	3.47	8	3.21	14	2.97	16	2.92	18	2.88	19	2.78	20	2.88	21	3.12	19
	【農業の振興】	3.26	16	2.96	25	2.92	18	2.85	22	2.77	22	2.60	26	2.53	26	2.75	26
(6)	【市街地の整備】	3.32	13	3.34	6	3.10	9	3.02	10	3.02	12	2.91	13	2.99	14	3.20	15
	【商工業の振興】	3.21	19	3.09	19	2.93	17	3.00	13	2.98	15	2.87	16	3.03	11	3.19	16
	【良好な住宅・住環境づくり】	3.95	2	3.44	3	3.29	2	3.17	8	3.16	4	3.00	7	3.11	8	3.32	9
(7)	全体平均	3.32		3.18		2.99		2.97		2.94		2.85		2.97		3.17	

■開発の進む本郷小地区やあさひ小地区では【市街地の整備】の満足度が比較的高く、【良好な住宅・住環境づくり】では、阿見小やあさひ小の満足度が高い

- ・施策の満足度を居住地区別にみると、【医療福祉の充実】や【消防・救急体制の充実】は、全地区で満足度が高く、【交通体系・公共交通の充実】や【観光の振興】は、全地区で満足度が低くなっている。
- ・【市街地の整備】は本郷小やあさひ小で満足度が比較的高い一方、舟島小や阿見第二小の満足度は低くなっている。また、【良好な住宅・住環境づくり】では、阿見小やあさひ小の満足度が高くなっている。君原小は【商工業の振興】の満足度が比較的高い一方、【良好な住宅・住環境づくり】は低くなっている。

Q11 主な施策の満足度（地区別）

（平均：点、順位：位）

	施策	阿見小		本郷小		君原小		舟島小		阿見第一小		阿見第二小		あさひ小	
		満足度		満足度		満足度		満足度		満足度		満足度		満足度	
		平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位
(1)	【町民参加の促進】	2.92	22	2.70	24	3.02	19	2.84	20	2.85	21	2.85	23	2.86	21
	【コミュニティ活動の充実】	2.81	25	2.68	26	2.91	23	2.81	23	2.84	22	2.88	20	2.85	22
	【広報・広聴活動の充実】	3.04	16	2.74	23	2.84	24	2.83	21	2.89	19	2.86	21	2.87	20
	【行政運営】	2.96	21	2.78	21	2.98	22	2.88	19	2.82	23	2.92	17	2.90	18
	【財政の健全化】	3.10	11	3.03	14	3.04	18	3.00	12	3.01	11	2.94	15	3.03	12
(2)	【産学官連携】	3.02	18	2.90	18	3.19	12	2.92	15	2.90	18	2.99	12	2.82	24
	【生涯にわたって学べる環境づくり】	2.86	23	2.79	20	3.00	20	2.71	24	2.89	19	2.82	25	2.75	26
(3)	【子ども・子育て支援の充実】	3.23	5	3.21	4	3.27	9	3.13	4	3.10	7	3.15	7	3.23	6
	【医療福祉の充実】	3.34	2	3.27	2	3.57	2	3.38	1	3.30	2	3.31	1	3.33	1
	【幼児教育の充実】	3.27	3	3.26	3	3.45	4	3.09	7	3.25	3	3.18	6	3.30	3
	【学校教育の充実】	3.24	4	3.20	5	3.38	6	3.19	3	3.18	4	3.26	3	3.21	7
	【児童生徒の健康管理と安全対策】	3.23	5	3.17	7	3.56	3	3.11	5	3.14	6	3.26	3	3.26	5
	【社会全体で取り組む教育の推進】	3.09	12	3.08	11	3.31	8	3.08	8	3.05	9	3.26	3	3.10	10
(4)	【介護保険制度の適正な運営】	3.21	7	3.05	12	3.44	5	3.03	11	3.07	8	3.08	9	3.11	8
	【地域福祉の推進】	3.08	14	3.05	12	3.38	6	2.92	15	2.98	12	2.99	12	3.02	13
	【高齢者福祉の充実】	3.12	10	3.02	15	3.11	14	2.93	14	2.95	16	2.95	14	3.07	11
	【障害者福祉の充実】	3.01	19	2.95	16	3.13	13	2.82	22	2.81	24	2.93	16	2.99	15
	【交通体系・公共交通の充実】	2.35	28	2.38	27	2.33	28	2.17	27	2.40	27	2.37	27	2.48	27
	【情報化の推進】	2.85	24	2.77	22	2.76	25	2.70	25	2.75	26	2.86	21	2.80	25
	【地域防災対策の推進】	3.09	12	3.09	10	3.06	16	3.07	9	2.98	12	3.05	10	2.90	18
	【消防・救急体制の充実】	3.50	1	3.44	1	3.61	1	3.32	2	3.37	1	3.27	2	3.33	1
	【防犯対策の推進】	3.13	9	3.16	8	3.24	10	3.05	10	2.96	15	3.02	11	3.00	14
(5)	【観光の振興】	2.47	27	2.31	28	2.61	26	2.16	28	2.29	28	2.34	28	2.39	28
	【自然環境の保全】	3.00	20	2.86	19	3.00	20	2.92	15	2.93	17	2.85	23	2.94	16
	【農業の振興】	2.75	26	2.69	25	2.55	27	2.58	26	2.76	25	2.78	26	2.84	23
(6)	【市街地の整備】	3.03	17	3.14	9	3.07	15	2.91	18	3.03	10	2.92	17	3.11	8
	【商工業の振興】	3.07	15	2.93	17	3.20	11	2.94	13	2.98	12	2.92	17	2.94	16
	【良好な住宅・住環境づくり】	3.21	7	3.18	6	3.05	17	3.11	5	3.16	5	3.13	8	3.27	4
(7)	全体平均	3.03		2.96		3.11		2.91		2.95		2.97		2.99	

- 若い世代では【交通体系・公共交通の充実】や【行政運営】、【財政の健全化】、【市街地の整備】、【良好な住宅・住環境づくり】、高齢世代では【介護保険制度の適正な運営】【高齢者福祉の充実】の優先度が高い
- ・施策の重要度を年齢別にみると、【医療福祉の充実】や【防犯対策の推進】は、全世代で重要度が高く、【観光の振興】は、全世代で重要度が低くなっている。
 - ・【交通体系・公共交通の充実】は特に40代以下の若い世代で重要度が高く、【行政運営】や【財政の健全化】、【市街地の整備】、【良好な住宅・住環境づくり】は主に40代以下の若い世代で重要度が高くなっている。
 - ・50代以上では、【介護保険制度の適正な運営】や【高齢者福祉の充実】の重要度の順位が高く、優先度が高いと考えられる。

Q11 主な施策の重要度（年齢別）

（平均：点、順位：位）

	施策	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代以上	
		重要度		重要度		重要度		重要度		重要度		重要度		重要度		重要度	
		平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位
(1)	【町民参加の促進】	4.12	14	3.82	19	3.53	27	3.45	26	3.39	26	3.28	26	3.24	26	3.49	23
	【コミュニティ活動の充実】	3.76	23	3.55	28	3.37	28	3.30	28	3.17	28	3.19	27	3.23	27	3.21	28
	【広報・広聴活動の充実】	4.06	16	3.75	23	3.69	20	3.66	22	3.47	25	3.44	23	3.36	21	3.52	21
	【行政運営】	4.35	7	4.04	12	3.88	15	3.80	18	3.69	18	3.54	18	3.42	18	3.58	19
	【財政の健全化】	4.24	10	3.93	17	3.97	11	3.95	12	3.73	17	3.59	16	3.48	14	3.66	17
(2)	【産学官連携】	3.53	26	3.75	23	3.57	25	3.57	25	3.52	22	3.39	25	3.30	23	3.48	24
	【生涯にわたって学べる環境づくり】	3.82	22	3.82	19	3.59	24	3.61	23	3.50	24	3.40	24	3.35	22	3.54	20
(3)	【子ども・子育て支援の充実】	4.35	7	4.32	3	4.24	2	4.17	6	3.84	9	3.80	8	3.65	7	3.80	9
	【医療福祉の充実】	4.59	1	4.38	1	4.31	1	4.30	1	4.07	1	4.03	1	3.81	2	4.10	1
	【幼児教育の充実】	4.41	3	4.25	6	4.17	4	4.20	4	3.83	10	3.83	6	3.62	8	3.87	7
	【学校教育の充実】	4.41	3	4.27	4	4.17	4	4.26	2	3.90	6	3.81	7	3.75	3	3.99	3
	【児童生徒の健康管理と安全対策】	4.24	10	4.34	2	4.16	6	4.22	3	3.92	5	3.84	5	3.70	4	3.95	5
	【社会全体で取り組む教育の推進】	4.35	7	4.23	7	4.03	10	4.08	9	3.82	11	3.67	14	3.58	9	3.75	12
(4)	【介護保険制度の適正な運営】	4.06	16	4.12	11	3.92	12	4.12	7	3.99	4	3.94	2	3.69	5	3.91	6
	【地域福祉の推進】	3.53	26	3.84	18	3.70	19	3.87	16	3.75	16	3.68	13	3.52	13	3.75	12
	【高齢者福祉の充実】	3.76	23	3.97	15	3.74	18	3.91	15	3.85	8	3.78	9	3.58	9	3.84	8
	【障害者福祉の充実】	3.88	19	3.98	13	3.84	16	3.95	12	3.77	14	3.73	10	3.48	14	3.69	16
	【交通体系・公共交通の充実】	4.59	1	4.14	10	4.07	8	4.09	8	3.79	13	3.67	14	3.41	19	3.52	21
	【情報化の推進】	4.00	18	3.70	26	3.66	21	3.73	20	3.55	21	3.45	22	3.25	24	3.46	25
	【地域防災対策の推進】	3.71	25	3.96	16	3.77	17	3.93	14	3.81	12	3.70	12	3.53	12	3.76	11
	【消防・救急体制の充実】	4.41	3	4.18	9	4.06	9	4.05	10	4.03	2	3.93	3	3.82	1	4.09	2
	【防犯対策の推進】	4.41	3	4.26	5	4.23	3	4.19	5	4.03	2	3.92	4	3.67	6	3.96	4
(5)	【観光の振興】	3.53	26	3.65	27	3.55	26	3.45	26	3.27	27	3.11	28	3.10	28	3.31	27
	【自然環境の保全】	4.24	10	3.75	23	3.64	23	3.59	24	3.51	23	3.49	20	3.38	20	3.70	15
	【農業の振興】	3.88	19	3.77	21	3.66	21	3.70	21	3.64	19	3.46	21	3.25	24	3.41	26
(6)	【市街地の整備】	4.18	13	3.98	13	3.91	13	3.74	19	3.76	15	3.57	17	3.48	14	3.78	10
	【商工業の振興】	3.88	19	3.77	21	3.89	14	3.84	17	3.64	19	3.52	19	3.44	17	3.65	18
	【良好な住宅・住環境づくり】	4.12	14	4.21	8	4.08	7	4.05	10	3.90	6	3.72	11	3.58	9	3.74	14
(7)	全体平均	4.09		3.99		3.87		3.88		3.72		3.62		3.49		3.69	

■【介護保健制度の適正な運用】は君原小や阿見第一小地区で、【良好な住宅・住環境づくり】はあさひ小や阿見第二小で重要度が高い

- ・施策の重要度を居住地区別にみると、【医療福祉の充実】や【防犯対策の推進】、【学校教育の充実】、【消防・救急体制の充実】は、全地区で概ね重要度が高く、【観光の振興】は、全地区で重要度が低くなっている。
- ・【介護保健制度の適正な運用】は君原小や阿見第一小で重要度が高く、【良好な住宅・住環境づくり】はあさひ小や阿見第二小で重要度が高くなっている。

Q11 主な施策の重要度（地区別）

（平均：点、順位：位）

	施策	阿見小		本郷小		君原小		舟島小		阿見第一小		阿見第二小		あさひ小	
		重要度		重要度		重要度		重要度		重要度		重要度		重要度	
		平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位	平均	順位
(1)	【町民参加の促進】	3.47	26	3.37	25	3.40	23	3.40	26	3.43	26	3.31	27	3.45	26
	【コミュニティ活動の充実】	3.29	27	3.17	28	3.25	28	3.26	28	3.33	27	3.30	28	3.31	28
	【広報・広聴活動の充実】	3.63	21	3.50	21	3.38	24	3.50	24	3.55	23	3.37	26	3.54	24
	【行政運営】	3.73	17	3.57	18	3.58	15	3.60	20	3.70	17	3.67	14	3.77	17
	【財政の健全化】	3.80	15	3.64	16	3.59	14	3.66	17	3.77	14	3.67	14	3.80	14
(2)	【産学官連携】	3.48	25	3.42	24	3.45	21	3.59	21	3.54	24	3.38	25	3.50	25
	【生涯にわたって学べる環境づくり】	3.49	24	3.50	21	3.44	22	3.49	25	3.60	21	3.45	21	3.55	21
(3)	【子ども・子育て支援の充実】	4.02	6	3.92	5	3.81	9	3.95	5	3.86	9	3.88	5	4.03	5
	【医療福祉の充実】	4.15	1	4.04	1	4.00	4	4.05	1	4.13	1	4.00	1	4.23	1
	【幼児教育の充実】	4.01	7	3.92	5	3.93	6	3.99	3	3.87	8	3.75	12	4.01	7
	【学校教育の充実】	4.07	3	3.92	5	3.94	5	4.02	2	3.94	5	3.92	4	4.04	2
	【児童生徒の健康管理と安全対策】	4.07	3	3.96	3	4.04	2	3.95	5	3.91	6	3.87	6	4.02	6
	【社会全体で取り組む教育の推進】	3.84	10	3.82	10	3.89	7	3.80	10	3.85	10	3.86	7	3.90	11
(4)	【介護保険制度の適正な運営】	3.97	8	3.88	8	4.05	1	3.83	8	4.00	3	3.86	7	3.93	10
	【地域福祉の推進】	3.72	18	3.63	17	3.69	10	3.69	15	3.73	16	3.61	18	3.76	18
	【高齢者福祉の充実】	3.84	10	3.73	11	3.69	10	3.72	13	3.80	11	3.69	13	3.83	12
	【障害者福祉の充実】	3.81	13	3.69	14	3.63	12	3.76	12	3.78	13	3.59	19	3.81	13
	【交通体系・公共交通の充実】	3.84	10	3.69	14	3.49	20	3.79	11	3.79	12	3.76	11	3.94	9
	【情報化の推進】	3.55	23	3.52	20	3.27	27	3.59	21	3.54	24	3.48	20	3.55	21
	【地域防災対策の推進】	3.81	13	3.70	13	3.55	16	3.81	9	3.77	14	3.63	17	3.78	16
	【消防・救急体制の充実】	4.10	2	3.96	3	4.04	2	3.85	7	3.98	4	3.83	9	4.04	2
	【防犯対策の推進】	4.05	5	3.98	2	3.85	8	3.97	4	4.03	2	3.93	2	4.04	2
(5)	【観光の振興】	3.29	27	3.22	27	3.32	26	3.37	27	3.28	28	3.40	24	3.40	27
	【自然環境の保全】	3.63	21	3.45	23	3.53	18	3.55	23	3.61	20	3.41	23	3.56	20
	【農業の振興】	3.66	20	3.36	26	3.34	25	3.66	17	3.59	22	3.45	21	3.55	21
(6)	【市街地の整備】	3.74	16	3.72	12	3.50	19	3.64	19	3.64	19	3.77	10	3.80	14
	【商工業の振興】	3.71	19	3.56	19	3.55	16	3.67	16	3.68	18	3.65	16	3.69	19
	【良好な住宅・住環境づくり】	3.85	9	3.84	9	3.60	13	3.71	14	3.88	7	3.93	2	3.99	8
(7)	全体平均	3.77		3.67		3.64		3.71		3.73		3.66		3.78	

4 今後のまちづくりについて

(1) 「住み続けたいまち」になるために重要な取組

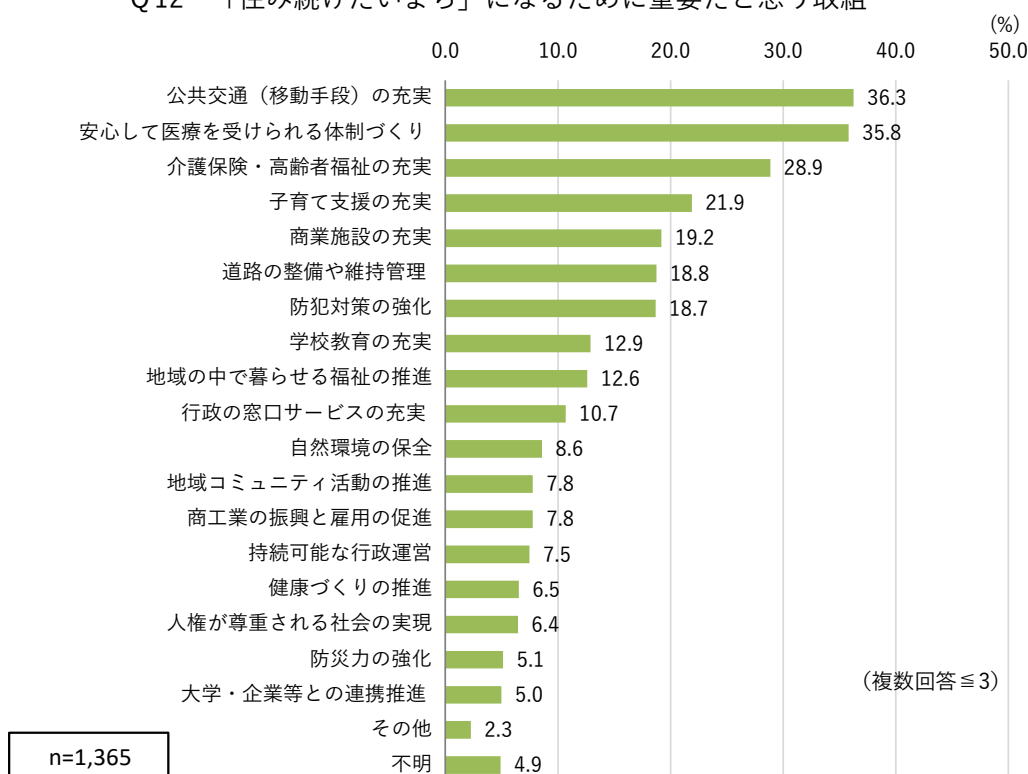
Q12 「住み続けたいまち」になるためには、今後どのような取組が重要だと思いますか。(3つまで○)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 地域コミュニティ活動の推進 | 2. 人権が尊重される社会の実現 |
| 3. 大学・企業等との連携推進 | 4. 持続可能な行政運営 |
| 5. 行政の窓口サービスの充実 | 6. 健康づくりの推進 |
| 7. 安心して医療を受けられる体制づくり | 8. 介護保険・高齢者福祉の充実 |
| 9. 地域の中で暮らせる福祉の推進 | 10. 子育て支援の充実 |
| 11. 学校教育の充実 | 12. 公共交通（移動手段）の充実 |
| 13. 道路の整備や維持管理 | 14. 商工業の振興と雇用の促進 |
| 15. 商業施設の充実 | 16. 自然環境の保全 |
| 17. 防犯対策の強化 | 18. 防災力の強化 |
| 19. その他（具体的に：_____） | |

■「住み続けたいまち」になるためには、「公共交通（移動手段）の充実」や「安心して医療を受けられる体制づくり」が重要

・「住み続けたいまち」になるために重要な取組をみると、「公共交通（移動手段）の充実」が全体の36.3%で最も高く、次いで「安心して医療を受けられる体制づくり」が35.8%、「介護保険・高齢者福祉の充実」が28.9%となっている。

Q12 「住み続けたいまち」になるために重要だと思う取組



■50 代以上は「介護保険・高齢者福祉の充実」、40 代以下は「子育て支援の充実」を重視

・男女別にみると、大きな差はみられないが、女性では「介護保険・高齢者福祉の充実」や「商業施設の充実」が男性よりも若干高く、男性では「道路の整備や維持管理」が若干高くなっている。

Q12 「住み続けたいまち」になるために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦3）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
公共交通（移動手段）の充実	36.4	36.7	28.6
安心して医療を受けられる体制づくり	34.8	37.5	14.3
介護保険・高齢者福祉の充実	24.2	33.4	14.3
子育て支援の充実	21.8	22.3	21.4
商業施設の充実	17.3	21.1	7.1
道路の整備や維持管理	21.0	16.7	21.4
防犯対策の強化	18.3	18.8	21.4
学校教育の充実	13.1	12.9	14.3
地域の中で暮らせる福祉の推進	12.5	12.4	14.3
行政の窓口サービスの充実	10.3	11.0	7.1
自然環境の保全	10.1	6.7	14.3
地域コミュニティ活動の推進	10.4	5.8	0.0
商工業の振興と雇用の促進	10.3	5.9	0.0
持続可能な行政運営	7.9	7.4	0.0
健康づくりの推進	7.2	5.8	7.1
人権が尊重される社会の実現	6.3	6.5	7.1
防災力の強化	4.0	5.5	28.6
大学・企業等との連携推進	7.4	3.1	0.0
その他	2.4	2.0	14.3
不明	4.3	5.2	14.3

・年齢別にみると、「公共交通（移動手段）の充実」や「安心して医療を受けられる体制づくり」は概ね全世代で3～4割と高くなっている。一方、「介護保険・高齢者福祉の充実」は50代以上の年齢層で3割以上と高く、「子育て支援の充実」や「商業施設の充実」は40代以下の年齢層で高く、特に30代では「子育て支援の充実」が4割以上と高くなっており、年齢別で差がみられる。

Q12 「住み続けたいまち」になるために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦3）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
公共交通（移動手段）の充実	47.4	38.1	31.3	37.8	36.2	37.5	36.7	35.8
安心して医療を受けられる体制づくり	31.6	32.4	26.1	36.1	35.7	36.4	42.4	36.7
介護保険・高齢者福祉の充実	15.8	13.3	15.3	19.4	37.8	35.6	34.3	35.8
子育て支援の充実	36.8	37.1	46.6	31.1	13.3	16.1	11.1	10.8
商業施設の充実	31.6	34.3	27.8	25.0	19.4	18.0	8.1	11.7
道路の整備や維持管理	10.5	13.3	22.2	18.9	20.4	19.5	19.9	13.3
防犯対策の強化	31.6	15.2	16.5	18.9	19.9	18.4	18.9	20.0
学校教育の充実	15.8	20.0	23.3	21.1	11.2	7.7	7.7	6.7
地域の中で暮らせる福祉の推進	10.5	11.4	4.5	7.2	10.7	16.1	16.8	18.3
行政の窓口サービスの充実	0.0	7.6	4.5	8.3	9.7	17.2	13.8	6.7
自然環境の保全	5.3	5.7	8.5	7.2	10.2	7.3	11.4	6.7
地域コミュニティ活動の推進	5.3	9.5	6.8	5.6	7.1	5.7	10.8	10.0
商工業の振興と雇用の促進	10.5	4.8	12.5	10.0	10.7	5.4	5.7	5.8
持続可能な行政運営	10.5	5.7	7.4	7.8	7.1	7.3	7.7	9.2
健康づくりの推進	0.0	3.8	3.4	5.6	5.1	8.8	8.1	8.3
人権が尊重される社会の実現	5.3	8.6	7.4	7.2	8.2	6.9	3.4	5.8
防災力の強化	5.3	3.8	5.1	2.8	7.1	5.0	5.7	4.2
大学・企業等との連携推進	10.5	8.6	6.3	5.6	3.6	4.6	3.7	5.0
その他	5.3	2.9	1.1	3.3	3.1	2.7	2.0	0.0
不明	0.0	3.8	4.5	3.9	2.0	3.8	5.7	13.3

・居住地区別にみると、「公共交通（移動手段）の充実」は舟島小や阿見第二小で4割以上と高く、「安心して医療を受けられる体制づくり」は本郷小や舟島小で4割以上と高くなっている。

Q12 「住み続けたいまち」になるために重要だと思う取組（地区別）

（単位：％、複数回答≦3）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
公共交通（移動手段）の充実	38.7	33.5	30.6	43.8	35.2	40.8	35.0
安心して医療を受けられる体制づくり	31.6	44.8	29.0	42.7	36.4	36.9	31.3
介護保険・高齢者福祉の充実	27.0	27.4	32.3	26.0	33.7	29.1	27.2
子育て支援の充実	26.4	18.5	19.4	26.0	22.0	18.4	21.4
商業施設の充実	24.2	20.6	11.3	20.8	15.2	20.4	16.5
道路の整備や維持管理	18.7	23.8	19.4	8.3	18.2	15.5	19.8
防犯対策の強化	15.6	17.7	16.1	20.8	21.6	19.4	18.9
学校教育の充実	13.8	15.7	11.3	10.4	8.7	10.7	16.9
地域の中で暮らせる福祉の推進	13.8	12.5	12.9	8.3	14.0	12.6	10.7
行政の窓口サービスの充実	9.8	8.5	21.0	5.2	12.5	9.7	11.9
自然環境の保全	8.9	9.3	9.7	8.3	6.1	8.7	9.9
地域コミュニティ活動の推進	6.4	7.3	6.5	11.5	10.2	6.8	6.6
商工業の振興と雇用の促進	6.7	8.1	6.5	9.4	7.6	3.9	11.1
持続可能な行政運営	7.7	3.6	12.9	6.3	9.5	6.8	9.1
健康づくりの推進	6.1	6.0	9.7	6.3	5.3	8.7	7.0
人権が尊重される社会の実現	8.0	6.5	4.8	5.2	5.7	4.9	7.0
防災力の強化	4.0	2.8	3.2	4.2	4.9	6.8	8.6
大学・企業等との連携推進	6.1	2.8	1.6	4.2	5.7	5.8	5.8
その他	2.1	2.8	0.0	3.1	3.0	1.0	2.1
不明	3.7	5.2	9.7	4.2	3.8	5.8	4.9

(2) 地域のつながりを大切にしていくなかで重要な取組

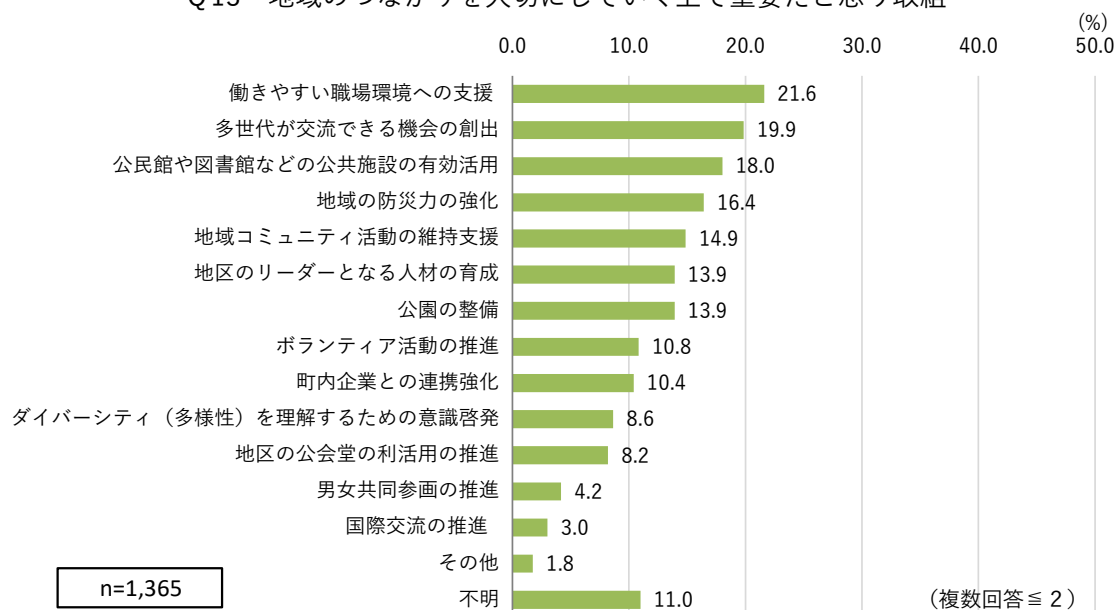
Q13 地域のつながりを大切にしていく上で、今後どのような取組が重要だと思いますか。(2つまで○)

1. ボランティア活動の推進
2. 地区のリーダーとなる人材の育成
3. ダイバーシティ（多様性）を理解するための意識啓発
4. 男女共同参画の推進
5. 国際交流の推進
6. 働きやすい職場環境への支援
7. 町内企業との連携強化
8. 多世代が交流できる機会の創出
9. 地域コミュニティ活動の維持支援
10. 地域の防災力の強化
11. 公園の整備
12. 地区の公会堂の利活用の推進
13. 公民館や図書館などの公共施設の有効活用
14. その他（具体的に；

■地域のつながりを大切にしていく上では、「働きやすい職場環境への支援」や「多世代が交流できる
機会の創出」が重要

- ・地域のつながりを大切にしていく上で重要な取組をみると、「働きやすい職場環境への支援」が全体の21.6%で最も高く、次いで「多世代が交流できる機会の創出」が19.9%となっている。

Q13 地域のつながりを大切にしていくなかで重要だと思う取組



■50代以下は「働きやすい職場環境への支援」、40代以上は「多世代が交流できる機会の創出」を重視

- ・男女別にみると、男性では「多世代が交流できる機会の創出」が最も高い割合となっている。
- ・年齢別にみると、「働きやすい職場環境への支援」は50代以下の現役世代で高くなっており、「多世代が交流できる機会の創出」は主に40代以上の中高年層で高くなっている。
- ・居住地区別にみると、君原小では「多世代が交流できる機会の創出」が最も高く、次いで「地区の公会堂の利活用の推進」が高くなっている。

// 町民意向調査

Q13 地域のつながりを大切にしていくなで重要だと思う取組（男女別）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
働きやすい職場環境への支援	20.4	22.9	21.4
多世代が交流できる機会の創出	22.0	18.5	7.1
公民館や図書館などの公共施設の有効活用	16.7	19.5	7.1
地域の防災力の強化	15.1	17.4	21.4
地域コミュニティ活動の維持支援	14.4	15.3	0.0
地区のリーダーとなる人材の育成	14.9	13.2	7.1
公園の整備	13.1	14.3	21.4
ボランティア活動の推進	11.9	10.0	7.1
町内企業との連携強化	12.8	8.6	0.0
ダイバーシティ（多様性）を理解するための意識啓発	8.5	9.0	7.1
地区の公会堂の利活用の推進	8.5	8.0	0.0
男女共同参画の推進	4.3	3.9	14.3
国際交流の推進	3.8	2.2	7.1
その他	2.1	1.4	0.0
不明	10.6	11.2	14.3

Q13 地域のつながりを大切にしていくなで重要だと思う取組（年齢別）

(単位：％、複数回答≦2)

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
働きやすい職場環境への支援	31.6	40.0	27.8	23.9	28.6	16.9	14.5	10.0
多世代が交流できる機会の創出	26.3	13.3	15.9	20.6	20.4	19.9	23.2	20.8
公民館や図書館などの公共施設の有効活用	36.8	12.4	23.9	19.4	16.3	20.3	15.2	14.2
地域の防災力の強化	10.5	12.4	17.0	18.9	14.3	17.2	16.2	17.5
地域コミュニティ活動の維持支援	5.3	10.5	8.5	17.8	14.3	14.6	22.6	6.7
地区のリーダーとなる人材の育成	10.5	3.8	8.5	8.9	11.7	14.2	19.5	28.3
公園の整備	15.8	20.0	23.3	13.9	10.7	14.2	8.1	14.2
ボランティア活動の推進	10.5	11.4	7.4	5.6	9.7	13.8	13.5	11.7
町内企業との連携強化	15.8	13.3	11.9	15.6	12.8	7.7	8.4	5.0
ダイバーシティ（多様性）を理解するための意識啓発	15.8	14.3	10.2	9.4	12.2	10.3	3.4	3.3
地区の公会堂の利活用の推進	0.0	2.9	5.7	3.3	4.6	11.5	11.8	14.2
男女共同参画の推進	0.0	7.6	2.3	5.6	3.1	3.8	3.4	7.5
国際交流の推進	5.3	4.8	6.8	1.7	1.5	2.3	2.4	3.3
その他	0.0	1.9	1.7	2.8	1.0	2.7	1.0	0.8
不明	0.0	10.5	11.4	10.6	11.2	9.2	11.4	15.0

Q13 地域のつながりを大切にしていくなで重要だと思う取組（地区別）

(単位：％、複数回答≦2)

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
働きやすい職場環境への支援	21.2	25.4	14.5	19.8	21.6	17.5	24.3
多世代が交流できる機会の創出	24.2	20.6	21.0	13.5	20.5	18.4	16.0
公民館や図書館などの公共施設の有効活用	18.4	19.4	16.1	17.7	14.8	12.6	22.6
地域の防災力の強化	15.3	14.9	9.7	10.4	19.7	18.4	18.5
地域コミュニティ活動の維持支援	12.3	12.9	16.1	16.7	17.0	20.4	14.0
地区のリーダーとなる人材の育成	15.3	14.9	9.7	17.7	14.8	8.7	12.3
公園の整備	12.9	13.3	9.7	9.4	15.2	18.4	16.0
ボランティア活動の推進	9.8	9.7	16.1	13.5	12.5	7.8	9.5
町内企業との連携強化	12.3	11.7	8.1	11.5	9.5	9.7	9.1
ダイバーシティ（多様性）を理解するための意識啓発	11.3	6.9	1.6	10.4	9.5	8.7	7.8
地区の公会堂の利活用の推進	3.7	13.7	19.4	7.3	5.3	6.8	9.1
男女共同参画の推進	4.3	2.4	9.7	5.2	4.2	4.9	3.7
国際交流の推進	1.5	3.2	6.5	4.2	3.0	2.9	3.7
その他	1.5	1.6	0.0	2.1	1.1	2.9	2.5
不明	12.0	6.9	16.1	13.5	10.6	11.7	11.1

(3) 将来を見据えた行政運営を行っていくために重要な取組

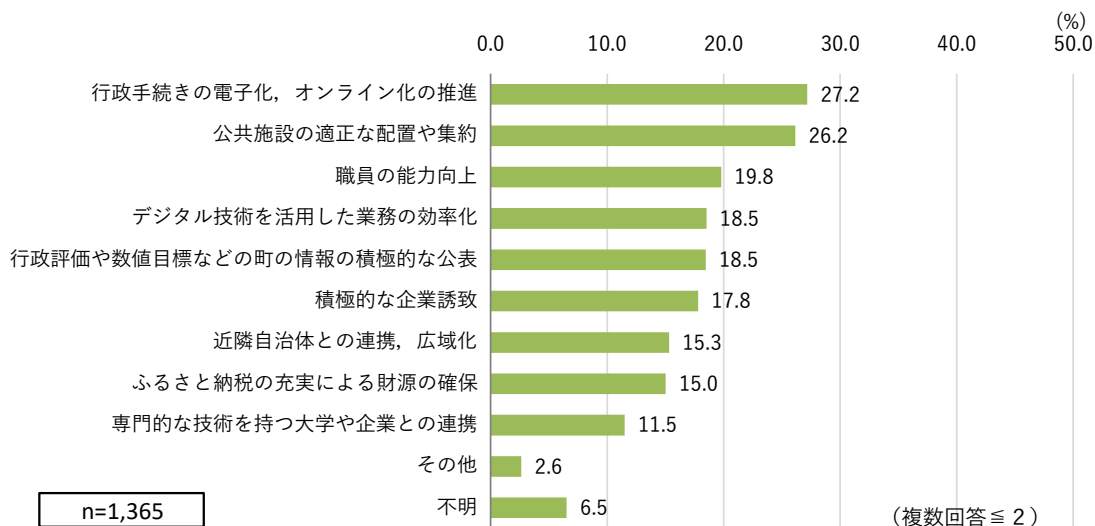
Q14 将来を見据えた行政運営を行っていくために、今後どのような取組が重要だと思いますか。(2つまで○)

1. 行政手続きの電子化, オンライン化の推進
2. デジタル技術を活用した業務の効率化
3. 行政評価や数値目標などの町の情報の積極的な公表
4. ふるさと納税の充実による財源の確保
5. 公共施設の適正な配置や集約
6. 積極的な企業誘致
7. 職員の能力向上
8. 専門的な技術を持つ大学や企業との連携
9. 近隣自治体との連携, 広域化
10. その他(具体的に:)

■将来を見据えた行政運営を行っていくためには、「行政手続きの電子化、オンライン化の推進」や「公共施設の適正な配置や集約」が重要

- ・将来を見据えた行政運営を行っていくために重要な取組をみると、「行政手続きの電子化、オンライン化の推進」が全体の 27.2%、「公共施設の適正な配置や集約」が 26.2%と高くなっている。

Q14 将来を見据えた行政運営を行っていくために重要だと思う取組



■30 代以下の若年層は「行政手続きの電子化、オンライン化の推進」や「デジタル技術を活用した業務の効率化」を重視

- ・男女別にみると、男性では「行政手続きの電子化、オンライン化の推進」が最も高く、女性では「公共施設の適正な配置や集約」が最も高い割合となっている。
- ・年齢別にみると、「行政手続きの電子化、オンライン化の推進」や「デジタル技術を活用した業務の効率化」は特に 30 代以下の若年層で 4 割以上と高く、「職員の能力向上」や「行政評価や数値目標などの町の情報の積極的な公表」は 60 代以上の高齢層で 2 割以上と高くなっている。

// 町民意向調査

- ・居住地区別にみると、本郷小や君原小、阿見第二小では「公共施設の適正な配置や集約」が最も高くなっている。

Q14 将来を見据えた行政運営を行っていくために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦2）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
行政手続きの電子化、オンライン化の推進	28.2	26.4	42.9
公共施設の適正な配置や集約	24.7	27.7	14.3
職員の能力向上	20.5	18.4	42.9
デジタル技術を活用した業務の効率化	21.2	16.6	14.3
行政評価や数値目標などの町の情報の積極的な公表	23.2	13.9	28.6
積極的な企業誘致	18.9	17.1	14.3
近隣自治体との連携、広域化	14.7	16.2	7.1
ふるさと納税の充実による財源の確保	12.7	17.4	0.0
専門的な技術を持つ大学や企業との連携	10.7	12.4	0.0
その他	2.6	2.7	0.0
不明	5.3	7.6	0.0

Q14 将来を見据えた行政運営を行っていくために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
行政手続きの電子化、オンライン化の推進	42.1	42.9	42.0	35.0	31.1	24.9	13.5	11.7
公共施設の適正な配置や集約	26.3	24.8	29.0	24.4	23.0	31.0	26.9	19.2
職員の能力向上	0.0	14.3	11.4	19.4	19.9	23.8	24.9	18.3
デジタル技術を活用した業務の効率化	26.3	25.7	27.3	20.6	18.9	14.6	14.8	14.2
行政評価や数値目標などの町の情報の積極的な公表	21.1	9.5	9.1	13.3	16.3	21.5	26.9	23.3
積極的な企業誘致	36.8	18.1	14.8	22.2	19.9	22.2	13.5	10.8
近隣自治体との連携、広域化	10.5	10.5	11.9	13.3	16.8	16.9	16.8	19.2
ふるさと納税の充実による財源の確保	15.8	21.9	18.8	17.8	12.2	14.9	9.8	16.7
専門的な技術を持つ大学や企業との連携	10.5	10.5	11.9	11.1	9.7	9.6	14.5	12.5
その他	0.0	0.0	2.8	3.3	3.6	3.4	1.3	3.3
不明	0.0	5.7	3.4	3.3	4.6	3.1	9.8	19.2

Q14 将来を見据えた行政運営を行っていくために重要だと思う取組（地区別）

（単位：％、複数回答≦2）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
行政手続きの電子化、オンライン化の推進	27.3	30.2	22.6	20.8	26.1	21.4	32.1
公共施設の適正な配置や集約	26.4	31.5	25.8	20.8	24.2	28.2	23.9
職員の能力向上	19.9	19.8	19.4	22.9	18.9	16.5	19.3
デジタル技術を活用した業務の効率化	18.4	20.6	14.5	17.7	16.7	16.5	21.8
行政評価や数値目標などの町の情報の積極的な公表	17.8	20.2	17.7	20.8	21.2	16.5	14.8
積極的な企業誘致	20.2	13.3	16.1	20.8	18.2	19.4	18.1
近隣自治体との連携、広域化	14.7	14.5	8.1	15.6	15.9	16.5	17.3
ふるさと納税の充実による財源の確保	14.7	14.9	19.4	13.5	15.9	14.6	14.4
専門的な技術を持つ大学や企業との連携	11.3	11.7	9.7	12.5	12.5	13.6	10.3
その他	2.1	2.0	0.0	2.1	4.2	2.9	2.9
不明	6.4	2.8	14.5	9.4	6.4	7.8	6.2

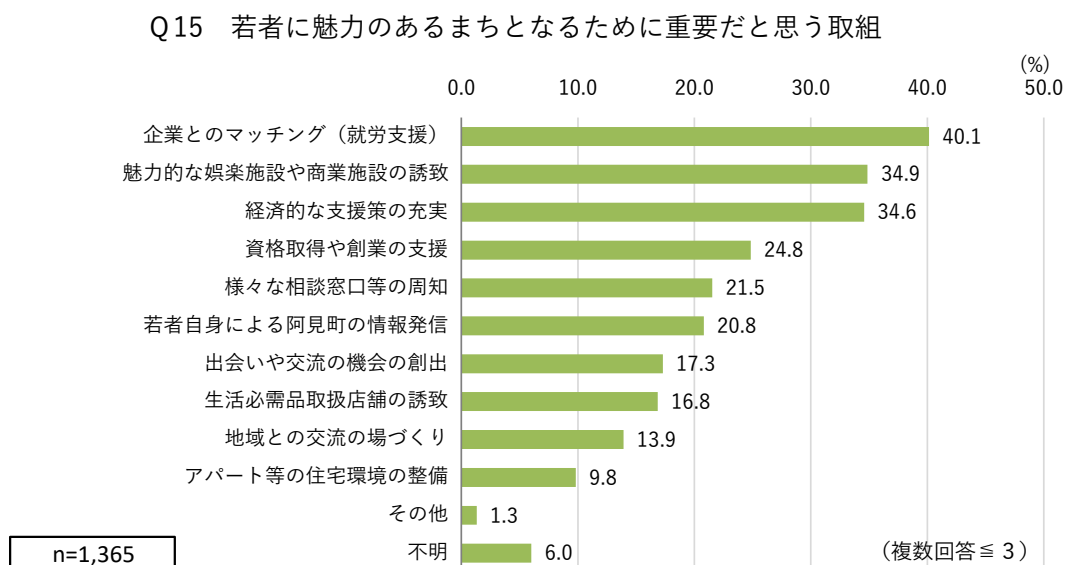
(4) 若者や子育て世代に魅力あるまちとなるために重要な取組

Q15 若者や子育て世代に魅力のあるまちとなるために、今後どのような取組が重要だと思いますか。(それぞれ3つまで○)

(若者に対する取組)	(子育てに対する取組)
1. 企業とのマッチング(就労支援)	1. 保育サービスの充実
2. 若者自身による阿見町の情報発信	2. アプリ等による子育て情報の提供
3. 様々な相談窓口等の周知	3. 質の高い教育環境
4. 経済的な支援策の充実	4. 子育てに関する相談・支援体制の充実
5. 生活必需品取扱店舗の誘致	5. 経済的な負担軽減策の充実
6. 資格取得や創業の支援	6. テレワーク、時短勤務等の企業の理解促進
7. 出会いや交流の機会の創出	7. 子どもが遊べる公園等の整備
8. 魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致	8. 生活必需品取扱店舗の誘致
9. 地域との交流の場づくり	9. 男性の家事・育児などへの参画促進
10. アパート等の住宅環境の整備	10. 医療機関との連携強化
11. その他(具体的に:)	11. その他(具体的に:)

■若者に魅力のあるまちとなるためには、「企業とのマッチング(就労支援)」や「魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致」、「経済的な支援策の充実」が重要

・若者に魅力のあるまちとなるために重要な取組をみると、「企業とのマッチング(就労支援)」が全体の40.1%、「魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致」が34.9%、「経済的な支援策の充実」が34.6%と高くなっている。



■30代以下の若年層は「魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致」や「経済的な支援策の充実」を重視

- ・男女別にみると、男性では「企業とのマッチング（就労支援）」が4割以上で女性でよりも高い割合となっている。
- ・年齢別にみると、「魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致」は40代以下の年齢層で4割以上、特に30代以下で高く、「経済的な支援策の充実」は30代以下の若年層で4割以上と高くなっている。
- ・居住地区別にみると、舟島小では「企業とのマッチング（就労支援）」が5割で最も高く、君原小では「魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致」が最も高くなっている。

Q15 若者に魅力あるまちとなるために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦3）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
企業とのマッチング（就労支援）	42.9	38.2	21.4
魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致	34.5	35.5	28.6
経済的な支援策の充実	35.1	33.8	50.0
資格取得や創業の支援	23.2	26.5	14.3
様々な相談窓口等の周知	20.4	21.9	57.1
若者自身による阿見町の情報発信	21.3	20.2	7.1
出会いや交流の機会の創出	21.2	14.3	14.3
生活必需品取扱店舗の誘致	16.5	17.8	0.0
地域との交流の場づくり	17.0	11.5	7.1
アパート等の住宅環境の整備	7.5	12.1	7.1
その他	1.3	1.1	7.1
不明	6.3	5.6	7.1

Q15 若者に魅力あるまちとなるために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦3）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
企業とのマッチング（就労支援）	57.9	31.4	35.8	45.0	39.3	46.4	39.7	32.5
魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致	47.4	46.7	48.9	42.2	37.8	34.9	21.2	20.0
経済的な支援策の充実	63.2	46.7	40.3	38.3	38.3	32.6	23.9	29.2
資格取得や創業の支援	26.3	25.7	23.9	26.7	29.6	20.7	24.6	25.8
様々な相談窓口等の周知	10.5	15.2	17.0	21.7	19.4	24.9	25.3	23.3
若者自身による阿見町の情報発信	15.8	16.2	17.6	13.3	17.9	24.5	25.3	25.8
出会いや交流の機会の創出	10.5	16.2	17.0	11.7	13.8	20.3	21.2	19.2
生活必需品取扱店舗の誘致	10.5	25.7	22.7	21.1	13.8	14.9	13.5	14.2
地域との交流の場づくり	0.0	3.8	11.4	7.8	14.8	14.2	21.9	17.5
アパート等の住宅環境の整備	10.5	18.1	13.6	12.8	11.2	9.6	5.4	2.5
その他	0.0	1.0	1.7	2.2	1.5	1.9	0.3	0.0
不明	0.0	1.0	1.7	3.3	4.1	4.2	10.4	17.5

Q15 若者に魅力あるまちとなるために重要だと思う取組（地区別）

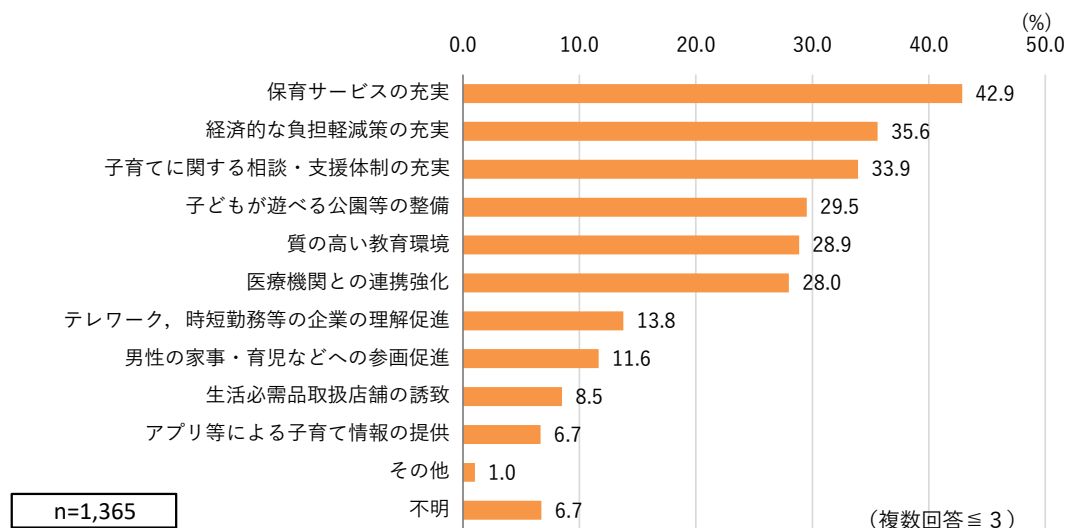
（単位：％、複数回答≦3）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
企業とのマッチング（就労支援）	37.1	39.5	30.6	50.0	43.2	38.8	42.0
魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致	38.0	30.6	37.1	31.3	34.8	39.8	34.6
経済的な支援策の充実	35.0	32.3	32.3	30.2	35.2	34.0	38.7
資格取得や創業の支援	25.8	26.2	21.0	27.1	24.2	25.2	24.7
様々な相談窓口等の周知	19.6	27.4	19.4	18.8	21.2	19.4	21.0
若者自身による阿見町の情報発信	23.6	18.5	21.0	20.8	20.5	21.4	18.9
出会いや交流の機会の創出	16.3	18.5	29.0	11.5	18.6	14.6	18.1
生活必需品取扱店舗の誘致	19.0	16.5	14.5	16.7	14.8	16.5	17.3
地域との交流の場づくり	12.0	20.6	11.3	11.5	13.6	11.7	13.6
アパート等の住宅環境の整備	9.2	8.9	8.1	13.5	12.5	9.7	7.8
その他	1.2	1.6	1.6	0.0	1.1	0.0	2.1
不明	6.1	4.4	11.3	9.4	4.2	4.9	5.8

■子育て世代に魅力のあるまちとなるためには、「保育サービスの充実」や「経済的な負担軽減策の充実」、「子育てに関する相談・支援体制の充実」が重要

- ・子育て世代に魅力のあるまちとなるために重要な取組をみると、「保育サービスの充実」が全体の42.9%と最も高く、次いで「経済的な負担軽減策の充実」が35.6%、「子育てに関する相談・支援体制の充実」が33.9%と高くなっている。

Q15 子育て世代に魅力のあるまちとなるために重要だと思う取組



■40代では「経済的な負担軽減策の充実」や「質の高い教育環境」、30代以下は「子どもが遊べる公園等の整備」を重視

- ・男女別にみると、「保育サービスの充実」が男女ともに高いが、女性では「子育てに関する相談・支援体制の充実」が2番目に高くなっている。
- ・年齢別にみると、「保育サービスの充実」はどの年代も高いが、40代では「経済的な負担軽減策の充実」や「質の高い教育環境」が高くなっている。また、10代～30代では「子どもが遊べる公園等の整備」が約4割と高くなっている。

Ⅱ 町民意向調査

- ・居住地区別にみると、君原小では「経済的な負担軽減策の充実」が約4割と高く、阿見第一小では「子育てに関する相談・支援体制の充実」が4割以上と高くなっている。

Q15 子育て世代に魅力のあるまちとなるために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦3）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
保育サービスの充実	44.7	41.4	42.9
経済的な負担軽減策の充実	37.5	34.1	35.7
子育てに関する相談・支援体制の充実	33.2	34.7	28.6
子どもが遊べる公園等の整備	30.6	28.7	21.4
質の高い教育環境	30.0	27.9	21.4
医療機関との連携強化	28.2	27.7	35.7
テレワーク、時短勤務等の企業の理解促進	12.7	14.6	28.6
男性の家事・育児などへの参画促進	9.5	13.9	7.1
生活必需品取扱店舗の誘致	8.8	8.4	7.1
アプリ等による子育て情報の提供	6.9	6.6	0.0
その他	1.1	0.8	7.1
不明	6.7	6.7	0.0

Q15 子育て世代に魅力のあるまちとなるために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦3）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
保育サービスの充実	47.4	42.9	43.8	31.7	41.8	52.5	43.8	36.7
経済的な負担軽減策の充実	47.4	38.1	38.1	43.3	35.7	36.8	29.6	29.2
子育てに関する相談・支援体制の充実	57.9	25.7	25.6	30.0	38.3	40.6	35.0	31.7
子どもが遊べる公園等の整備	42.1	38.1	39.2	27.2	26.5	29.5	25.3	25.0
質の高い教育環境	26.3	29.5	26.7	38.3	31.1	25.3	29.0	20.0
医療機関との連携強化	0.0	17.1	22.2	31.1	26.0	31.0	34.0	26.7
テレワーク、時短勤務等の企業の理解促進	15.8	27.6	22.2	15.6	16.8	10.0	5.1	12.5
男性の家事・育児などへの参画促進	21.1	17.1	14.8	12.2	9.7	8.4	11.1	12.5
生活必需品取扱店舗の誘致	10.5	9.5	13.1	10.6	8.7	8.8	5.4	5.0
アプリ等による子育て情報の提供	5.3	8.6	10.2	6.7	6.6	7.3	3.7	5.8
その他	0.0	1.9	1.7	2.2	1.5	0.8	0.0	0.0
不明	0.0	2.9	2.8	3.3	3.1	4.2	12.5	19.2

Q15 子育て世代に魅力のあるまちとなるために重要だと思う取組（地区別）

（単位：％、複数回答≦3）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
保育サービスの充実	40.2	46.8	41.9	42.7	42.0	41.7	45.7
経済的な負担軽減策の充実	38.7	36.7	40.3	34.4	34.1	31.1	34.2
子育てに関する相談・支援体制の充実	33.7	31.9	38.7	31.3	41.7	26.2	31.7
子どもが遊べる公園等の整備	24.8	31.9	30.6	26.0	35.6	24.3	30.9
質の高い教育環境	29.1	32.3	9.7	29.2	26.9	32.0	30.5
医療機関との連携強化	28.5	29.4	27.4	24.0	27.3	30.1	26.3
テレワーク、時短勤務等の企業の理解促進	15.6	12.5	8.1	11.5	11.4	16.5	17.3
男性の家事・育児などへの参画促進	15.3	12.1	8.1	6.3	10.6	17.5	9.1
生活必需品取扱店舗の誘致	9.5	8.5	9.7	9.4	6.4	10.7	8.2
アプリ等による子育て情報の提供	8.0	4.4	9.7	9.4	3.8	7.8	7.8
その他	1.2	0.4	0.0	1.0	1.1	0.0	2.1
不明	6.1	4.8	16.1	10.4	4.5	5.8	7.0

(5) 高齢者や障害者福祉の充実を図るために重要な取組

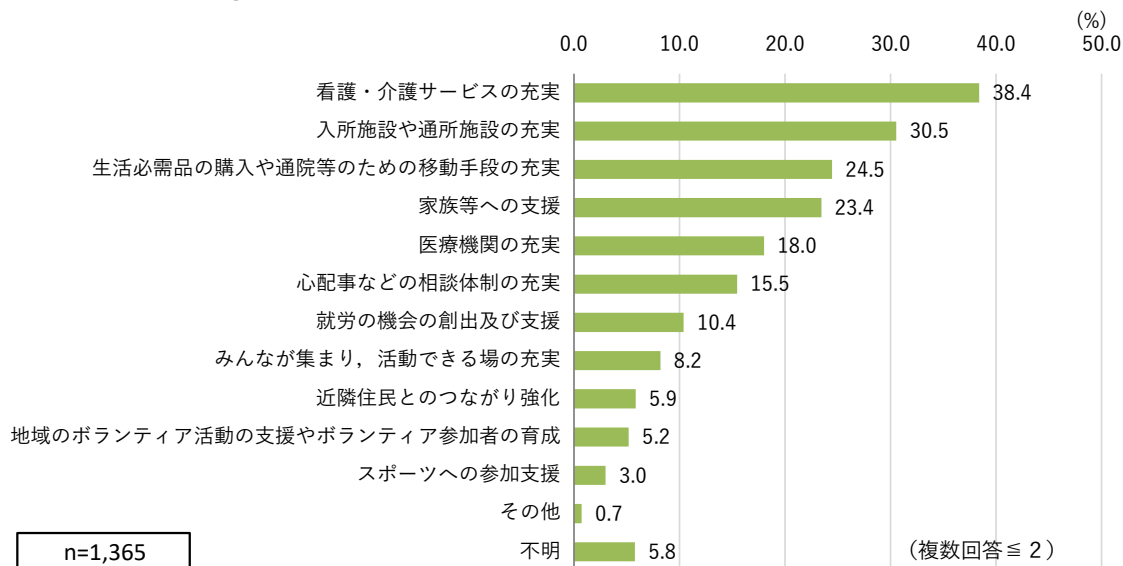
Q16 高齢者や障害者福祉の充実を図るために、今後どのような取組が重要だと思いますか。(2つまで○)

1. 心配事などの相談体制の充実
2. 就労の機会の創出及び支援
3. スポーツへの参加支援
4. 入所施設や通所施設の充実
5. 家族等への支援
6. 医療機関の充実
7. 看護・介護サービスの充実
8. 生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実
9. 地域のボランティア活動の支援やボランティア参加者の育成
10. みんなが集まり、活動できる場の充実
11. 近隣住民とのつながり強化
12. その他（具体的に；

■高齢者や障害者福祉の充実を図るためには、「看護・介護サービスの充実」や「入所施設や通所施設の充実」、「生活必需品の購入や通所等のための移動手段の充実」が重要

・高齢者や障害者福祉の充実を図るために重要な取組をみると、「看護・介護サービスの充実」が全体の38.4%と最も高く、次いで「入所施設や通所施設の充実」が30.5%、「生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実」が24.5%と高くなっている。

Q16 高齢者や障害者福祉の充実に重要だと思う取組



■中高年層は「入所施設や通所施設の充実」や「生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実」、若年層は「家族への支援」を重視

・男女別にみると、女性では「入所施設や通所施設の充実」や「家族等への支援」が男性よりも4ポイント以上高い割合となっている。

・年齢別にみると、「入所施設や通所施設の充実」は主に 50 代以上、「生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実」は 40 代以上の年齢層で高く、「家族等への支援」は 40 代以下で 3 割以上と高くなっている。

// 町民意向調査

- ・居住地区別にみると、阿見第二小では「入所施設や通所施設の充実」が約4割、阿見第一小では「家族等への支援」が約3割、君原小では「心配事などの相談体制の充実」が2割以上と比較的高くなっている。

Q16 高齢者や障害者福祉に重要だと思う取組（地区別）（単位：％、複数回答≦2）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
看護・介護サービスの充実	38.0	39.0	21.4
入所施設や通所施設の充実	27.7	32.9	35.7
生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実	24.7	24.0	35.7
家族等への支援	21.2	25.7	35.7
医療機関の充実	19.4	16.6	35.7
心配事などの相談体制の充実	13.5	17.0	0.0
就労の機会の創出及び支援	12.2	8.8	7.1
みんなが集まり、活動できる場の充実	9.0	7.9	0.0
近隣住民とのつながり強化	6.6	5.3	7.1
地域のボランティア活動の支援やボランティア参加者の育成	5.9	4.8	0.0
スポーツへの参加支援	4.5	1.8	0.0
その他	1.1	0.4	0.0
不明	5.6	5.8	7.1

Q16 高齢者や障害者福祉に重要だと思う取組（年齢別）（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
看護・介護サービスの充実	36.8	35.2	30.1	37.8	38.3	42.9	41.1	37.5
入所施設や通所施設の充実	31.6	24.8	26.7	25.0	30.6	40.2	31.0	27.5
生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実	21.1	16.2	19.3	24.4	26.0	24.1	28.3	28.3
家族等への支援	36.8	31.4	35.8	38.3	25.5	17.6	14.1	8.3
医療機関の充実	21.1	35.2	17.0	20.0	16.3	16.1	16.5	12.5
心配事などの相談体制の充実	5.3	10.5	15.3	12.2	15.8	14.9	16.5	21.7
就労の機会の創出及び支援	15.8	10.5	11.9	13.3	11.2	13.4	6.1	6.7
みんなが集まり、活動できる場の充実	5.3	6.7	9.7	4.4	9.2	7.3	9.4	11.7
近隣住民とのつながり強化	0.0	1.9	2.8	5.6	4.1	6.1	8.1	12.5
地域のボランティア活動の支援やボランティア参加者の育成	10.5	8.6	5.1	6.1	2.6	5.0	6.4	2.5
スポーツへの参加支援	15.8	3.8	6.8	1.7	4.1	1.9	1.0	2.5
その他	0.0	0.0	0.6	0.6	1.0	0.8	1.0	0.8
不明	0.0	3.8	6.3	3.3	5.6	3.8	7.1	11.7

Q16 高齢者や障害者福祉に重要だと思う取組（地区別）（単位：％、複数回答≦2）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
看護・介護サービスの充実	40.5	35.9	41.9	34.4	44.3	33.0	34.6
入所施設や通所施設の充実	30.1	29.0	27.4	31.3	28.8	39.8	31.7
生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実	23.9	23.8	17.7	30.2	18.9	26.2	30.0
家族等への支援	25.2	22.2	14.5	26.0	27.3	20.4	23.0
医療機関の充実	18.1	21.4	12.9	14.6	17.8	19.4	17.3
心配事などの相談体制の充実	14.4	15.3	24.2	12.5	14.0	14.6	16.5
就労の機会の創出及び支援	11.3	10.5	11.3	17.7	9.8	4.9	9.9
みんなが集まり、活動できる場の充実	7.7	8.1	16.1	4.2	9.5	7.8	7.8
近隣住民とのつながり強化	5.5	7.3	3.2	4.2	6.8	4.9	5.8
地域のボランティア活動の支援やボランティア参加者の育成	4.9	5.2	3.2	7.3	7.2	3.9	3.7
スポーツへの参加支援	2.1	3.6	4.8	0.0	4.2	2.9	3.3
その他	1.5	0.8	0.0	0.0	0.4	0.0	0.8
不明	6.1	5.2	4.8	6.3	4.2	8.7	4.9

(6) 元気で健康に暮らすために重要な取組

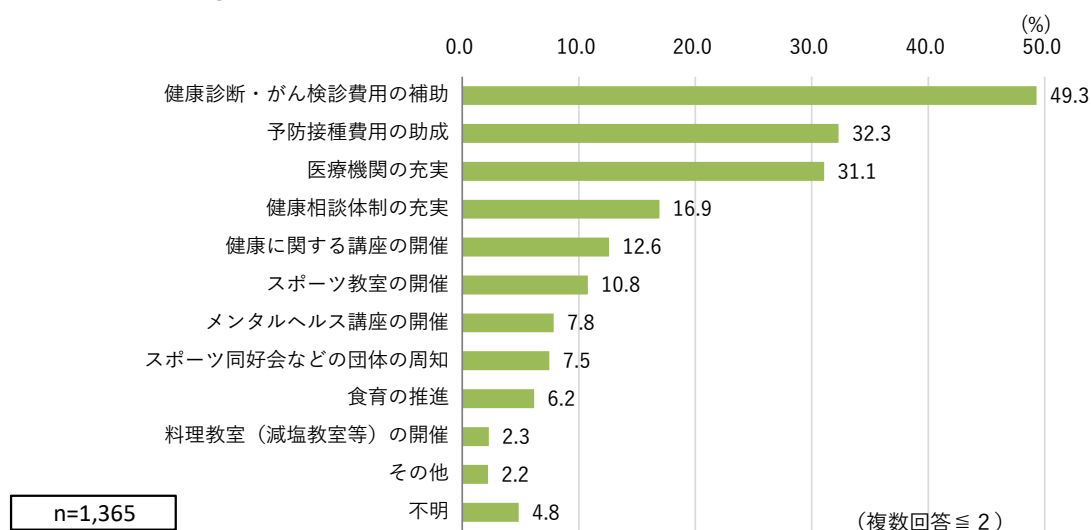
Q17 町民が元気で健康に暮らすために、今後どのような取組が重要だと思いますか。(それぞれ2つまで○)

(健康に関する取組)	(生きがいに関する取組)
1. 健康に関する講座の開催	1. 交流できるイベントや場所づくり
2. スポーツ教室の開催	2. ボランティア活動への支援
3. メンタルヘルス講座の開催	3. 多種多様な講座の実施
4. 料理教室（減塩教室等）の開催	4. 様々な相談体制の充実
5. 健康相談体制の充実	5. 文化・芸術の振興
6. スポーツ同好会などの団体の周知	6. スポーツの振興
7. 予防接種費用の助成	7. 求職者へのマッチング支援（就労支援）
8. 健康診断・がん検診費用の補助	8. 図書館の利活用推進
9. 医療機関の充実	9. 自然とのふれあいの機会の創出
10. 食育の推進	10. その他（具体的に：
11. その他（具体的に：	）

■健康に関する取組では、「健康診断・がん検診費用の補助」や「予防接種費用の助成」、「医療機関の充実」が重要

・町民が元気で健康に暮らすために、健康に関する重要な取組をみると、「健康診断・がん検診費用の補助」が49.3%で全体の半数近くを占め、次いで「予防接種費用の助成」が32.3%、「医療機関の充実」が31.1%と高くなっている。

Q17 健康で元気に暮らすために重要だと思う取組



■働き盛りの30代・40代は特に「健康診断・がん検診費用の補助」を重視、70代以上では「健康相談体制の充実」も重要

- ・男女別にみると、女性では「健康診断・がん検診費用の補助」や「予防接種費用の助成」が男性よりも高い割合となっており、男性では「医療機関の充実」が高くなっている。
- ・年齢別にみると、「健康診断・がん検診費用の補助」は10代～60代で5割以上となっており、特に30代・40代で6割以上と高くなっている。一方、70代以上では「健康相談体制の充実」が2割以上と比較的高くなっている。
- ・居住地区別にみると、君原小では「予防接種費用の助成」が4割以上と最も高く、舟島小では「医療機関の充実」が2番目に高くなっている。

Q17 健康で元気に暮らすために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦2）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
健康診断・がん検診費用の補助	44.6	54.1	50.0
予防接種費用の助成	28.2	36.1	42.9
医療機関の充実	32.7	29.8	21.4
健康相談体制の充実	21.2	13.1	7.1
健康に関する講座の開催	14.6	10.8	14.3
スポーツ教室の開催	9.9	11.8	0.0
メンタルヘルス講座の開催	9.3	6.2	14.3
スポーツ同好会などの団体の周知	9.1	5.9	7.1
食育の推進	5.8	6.5	7.1
料理教室（減塩教室等）の開催	1.1	3.1	7.1
その他	2.9	1.5	7.1
不明	4.8	4.8	7.1

Q17 健康で元気に暮らすために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
健康診断・がん検診費用の補助	52.6	54.3	64.2	61.1	52.6	51.7	38.7	23.3
予防接種費用の助成	31.6	38.1	39.8	31.1	29.1	34.1	32.7	20.0
医療機関の充実	36.8	33.3	26.1	28.9	36.2	30.3	33.0	26.7
健康相談体制の充実	10.5	8.6	7.4	12.2	14.8	18.0	21.9	33.3
健康に関する講座の開催	10.5	5.7	6.3	8.9	10.2	14.6	16.5	24.2
スポーツ教室の開催	10.5	14.3	15.3	11.1	11.2	11.5	6.7	8.3
メンタルヘルス講座の開催	10.5	15.2	6.3	9.4	11.2	5.7	5.1	5.8
スポーツ同好会などの団体の周知	21.1	13.3	6.3	10.0	7.7	5.4	6.4	5.0
食育の推進	5.3	7.6	6.8	6.7	4.1	6.9	6.1	5.0
料理教室（減塩教室等）の開催	0.0	1.9	3.4	2.2	1.5	1.5	2.7	3.3
その他	5.3	1.0	1.7	2.2	2.0	2.3	2.7	2.5
不明	0.0	0.0	3.4	1.7	3.6	3.4	7.4	15.0

Q17 健康で元気に暮らすために重要だと思う取組（地区別）

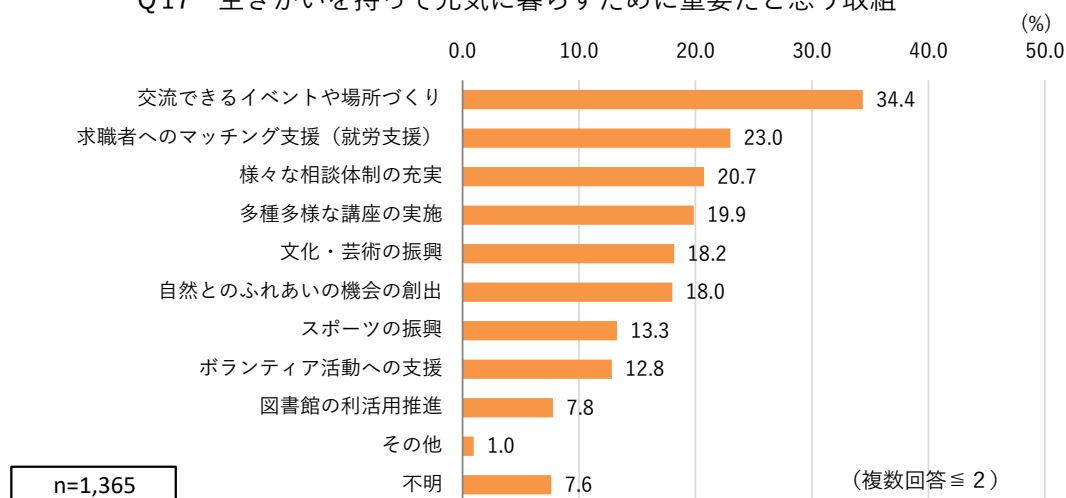
（単位：％、複数回答≦2）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
健康診断・がん検診費用の補助	51.2	53.2	32.3	39.6	51.9	39.8	54.3
予防接種費用の助成	34.0	34.7	45.2	24.0	31.8	30.1	29.2
医療機関の充実	31.3	31.0	25.8	30.2	31.1	29.1	33.7
健康相談体制の充実	16.0	16.9	16.1	22.9	17.4	15.5	14.4
健康に関する講座の開催	14.7	10.9	14.5	14.6	12.5	13.6	9.5
スポーツ教室の開催	7.4	10.5	16.1	11.5	9.8	10.7	15.2
メンタルヘルス講座の開催	6.7	7.3	6.5	11.5	8.3	6.8	8.6
スポーツ同好会などの団体の周知	7.7	6.9	4.8	5.2	7.6	9.7	8.6
食育の推進	6.7	4.4	12.9	7.3	5.7	9.7	4.1
料理教室（減塩教室等）の開催	2.1	1.6	1.6	3.1	1.9	1.9	3.7
その他	1.8	2.8	0.0	3.1	1.9	3.9	1.6
不明	3.7	4.4	6.5	7.3	3.8	7.8	4.5

■生きがいに関する取組では、「交流できるイベントや場所づくり」や「求職者へのマッチング支援（就労支援）」、「様々な相談体制の充実」が重要

- ・町民が元気で健康に暮らすために、生きがいに関する重要な取組をみると、「交流できるイベントや場所づくり」が全体の34.4%で最も多く、次いで「求職者へのマッチング支援（就労支援）」が23.0%、「様々な相談体制の充実」が20.7%と高くなっている。

Q17 生きがいを持って元気に暮らすために重要だと思う取組



■現役世代は「求職者へのマッチング支援（就労支援）」、若者は「文化・芸術の振興」等、高齢者は「自然とのふれあいの機会の創出」も重視。君原小地区は「交流できるイベントや場所づくり」を特に重視

- ・男女別にみると、女性では特に「交流できるイベントや場所づくり」が男性よりも高い割合となっており、「様々な相談体制の充実」や「多種多様な講座の実施」も男性より高くなっている。
- ・年齢別にみると、「求職者へのマッチング支援（就労支援）」は10代～60代で比較的高く、「様々な相談体制の充実」は50代や70代で比較的高くなっている。また、10代では「文化・芸術の振興」が半数近くで、10代～20代は「文化・芸術の振興」や「スポーツの振興」、70代以上は「自然とのふれあいの機会の創出」が比較的高くなっている。

// 町民意向調査

- ・居住地区別にみると、君原小では「交流できるイベントや場所づくり」が5割以上と他の地区と比較して20ポイント近く高くなっている。

Q17 生きがいを持って元気に暮らすために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦2）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
交流できるイベントや場所づくり	31.4	37.1	14.3
求職者へのマッチング支援（就労支援）	23.2	23.0	21.4
様々な相談体制の充実	18.9	22.2	14.3
多種多様な講座の実施	18.3	21.9	0.0
文化・芸術の振興	20.8	16.0	14.3
自然とのふれあいの機会の創出	20.0	16.0	21.4
スポーツの振興	15.9	11.1	14.3
ボランティア活動への支援	13.9	11.8	14.3
図書館の利活用推進	7.7	7.6	21.4
その他	0.8	1.1	0.0
不明	6.9	8.0	21.4

Q17 生きがいを持って元気に暮らすために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
交流できるイベントや場所づくり	36.8	34.3	39.8	36.7	39.3	29.1	30.3	35.0
求職者へのマッチング支援（就労支援）	36.8	26.7	27.8	27.8	29.6	26.1	13.1	11.7
様々な相談体制の充実	0.0	18.1	12.5	19.4	26.5	19.5	25.6	19.2
多種多様な講座の実施	0.0	16.2	19.3	20.0	17.3	25.7	21.9	15.0
文化・芸術の振興	47.4	21.0	16.5	20.6	17.3	20.3	15.5	13.3
自然とのふれあいの機会の創出	0.0	9.5	15.3	13.9	11.7	17.6	25.6	30.8
スポーツの振興	36.8	22.9	22.7	13.3	17.3	10.3	5.1	7.5
ボランティア活動への支援	15.8	15.2	9.7	10.6	10.2	15.7	15.2	10.8
図書館の利活用推進	10.5	11.4	7.4	12.8	3.6	9.6	6.1	4.2
その他	0.0	0.0	2.3	0.6	1.5	0.8	0.7	0.8
不明	5.3	3.8	3.4	2.2	5.1	6.1	12.5	20.8

Q17 生きがいを持って元気に暮らすために重要だと思う取組（地区別）

（単位：％、複数回答≦2）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
交流できるイベントや場所づくり	32.2	34.3	53.2	30.2	36.0	34.0	32.5
求職者へのマッチング支援（就労支援）	24.8	22.2	21.0	24.0	23.1	26.2	21.0
様々な相談体制の充実	16.9	22.2	17.7	19.8	21.2	18.4	24.3
多種多様な講座の実施	20.2	21.8	22.6	18.8	19.3	15.5	20.6
文化・芸術の振興	17.8	18.1	11.3	20.8	18.9	21.4	17.7
自然とのふれあいの機会の創出	18.7	16.9	14.5	15.6	22.3	13.6	16.9
スポーツの振興	10.4	12.5	6.5	15.6	12.1	21.4	17.3
ボランティア活動への支援	14.4	12.1	12.9	16.7	11.7	11.7	11.5
図書館の利活用推進	8.0	7.7	6.5	7.3	6.8	7.8	9.1
その他	1.5	1.2	0.0	0.0	1.5	0.0	0.4
不明	8.9	7.7	11.3	7.3	5.7	7.8	6.2

(7) 持続可能なまちとなるために重要な取組（主にインフラ整備）

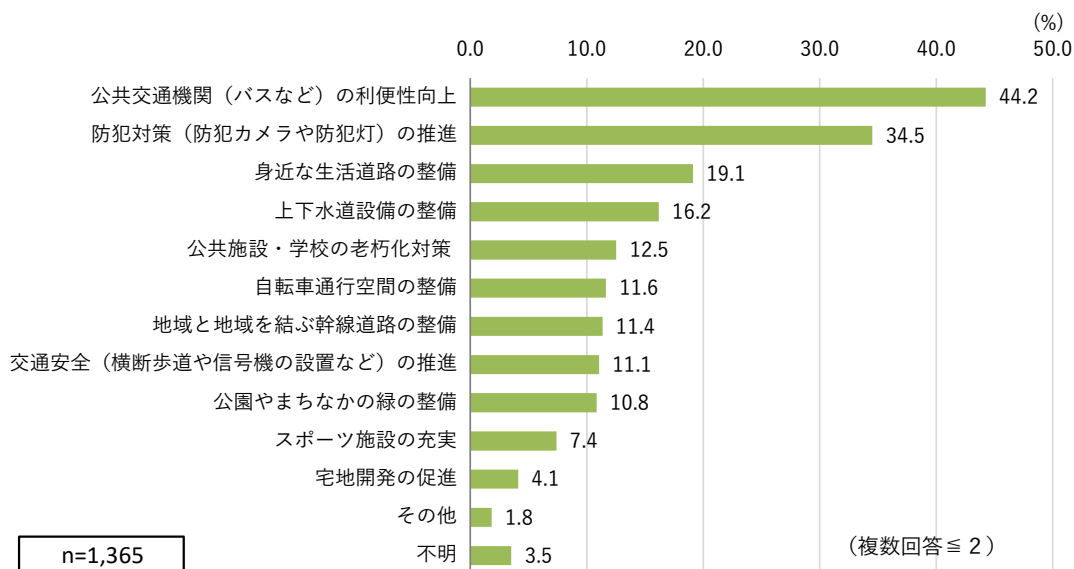
Q18 住み良いまちづくり（主にインフラ整備等）を推進し、将来も持続可能なまちとなるために、今後どのような取組が重要だと思いますか。（2つまで○）

1. 地域と地域を結ぶ幹線道路の整備
2. 身近な生活道路の整備
3. 宅地開発の促進
4. 上下水道設備の整備
5. 公共施設・学校の老朽化対策
6. 公園やまちなかの緑の整備
7. 公共交通機関（バスなど）の利便性向上
8. 交通安全（横断歩道や信号機の設置など）の推進
9. 防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進
10. 自転車通行空間の整備
11. スポーツ施設の充実
12. その他（具体的に：

■持続可能なまちとなるためには、「公共交通機関（バスなど）の利便性向上」や「防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進」といったインフラ整備等が重要

・将来も持続可能なまちとなるために重要だと思うインフラ整備等の取組をみると、「公共交通機関（バスなど）の利便性向上」が全体の 44.2%と最も高く、次いで「防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進」が 34.5%と高くなっている。

Q18 持続可能なまちのために重要だと思う取組（主にインフラ整備）



■「公共交通機関（バスなど）の利便性向上」は女性や高齢者だけでなく、若者、舟島小地区にとって重要。30代は特に「防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進」を重視

- ・男女別にみると、女性では「公共交通機関（バスなど）の利便性向上」が男性よりも7ポイント高い割合となっている。

・年齢別にみると、「公共交通機関（バスなど）の利便性向上」は10代・20代の若年層や80代以上の高齢層で5割以上となっている。「防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進」は30代以上で高く、特に未就学児等の子育て時期と重なる30代で4割と高くなっている。

Ⅱ 町民意向調査

- ・居住地区別にみると、舟島小では「公共交通機関（バスなど）の利便性向上」が約6割と高く、「防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進」も4割以上と高くなっている。

Q18 持続可能なまちのために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦2）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
公共交通機関（バスなど）の利便性向上	40.9	47.9	21.4
防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進	32.7	35.5	57.1
身近な生活道路の整備	20.4	18.3	0.0
上下水道設備の整備	18.1	14.6	21.4
公共施設・学校の老朽化対策	9.1	15.9	7.1
自転車通行空間の整備	11.9	11.4	21.4
地域と地域を結ぶ幹線道路の整備	14.7	8.7	7.1
交通安全（横断歩道や信号機の設置など）の推進	10.4	11.4	21.4
公園やまちなかの緑の整備	11.5	10.1	21.4
スポーツ施設の充実	7.9	6.9	7.1
宅地開発の促進	5.0	3.2	0.0
その他	2.6	1.1	7.1
不明	3.8	3.2	0.0

Q18 持続可能なまちのために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
公共交通機関（バスなど）の利便性向上	57.9	52.4	32.4	46.1	38.3	44.4	48.1	50.8
防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進	10.5	28.6	39.2	35.6	33.7	35.2	35.0	32.5
身近な生活道路の整備	21.1	13.3	19.9	20.0	21.4	17.6	22.2	13.3
上下水道設備の整備	15.8	9.5	13.6	11.1	19.4	22.6	19.2	7.5
公共施設・学校の老朽化対策	26.3	16.2	23.9	20.0	11.2	9.2	6.4	5.0
自転車通行空間の整備	10.5	5.7	9.7	13.9	12.2	11.9	11.4	15.8
地域と地域を結ぶ幹線道路の整備	10.5	16.2	11.9	12.2	13.8	13.0	7.7	7.5
交通安全（横断歩道や信号機の設置など）の推進	15.8	11.4	10.2	12.2	11.2	8.4	12.1	11.7
公園やまちなかの緑の整備	5.3	17.1	15.3	6.7	8.7	11.1	9.1	14.2
スポーツ施設の充実	15.8	8.6	7.4	8.3	10.2	7.3	5.1	4.2
宅地開発の促進	0.0	10.5	3.4	4.4	3.6	4.2	2.7	2.5
その他	5.3	1.9	2.8	0.6	2.0	2.7	1.0	1.7
不明	0.0	1.0	3.4	1.1	2.6	3.1	4.0	10.8

Q18 持続可能なまちのために重要だと思う取組（地区別）

（単位：％、複数回答≦2）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
公共交通機関（バスなど）の利便性向上	43.9	39.9	33.9	59.4	46.2	46.6	44.0
防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進	29.8	29.8	27.4	45.8	36.7	32.0	40.3
身近な生活道路の整備	19.0	20.6	29.0	10.4	24.6	9.7	16.0
上下水道設備の整備	17.2	19.0	17.7	12.5	12.9	30.1	11.5
公共施設・学校の老朽化対策	12.9	12.9	11.3	9.4	13.6	20.4	9.9
自転車通行空間の整備	13.5	8.1	6.5	11.5	13.6	13.6	11.9
地域と地域を結ぶ幹線道路の整備	13.5	15.3	14.5	9.4	7.6	6.8	11.1
交通安全（横断歩道や信号機の設置など）の推進	10.7	12.9	4.8	4.2	10.2	10.7	14.4
公園やまちなかの緑の整備	8.6	11.3	12.9	2.1	12.1	7.8	16.5
スポーツ施設の充実	5.8	9.7	8.1	8.3	8.0	3.9	7.0
宅地開発の促進	6.4	2.8	3.2	3.1	2.7	2.9	4.5
その他	3.1	1.6	1.6	1.0	1.9	1.0	0.8
不明	4.3	4.8	6.5	5.2	0.8	3.9	2.1

(8) 地域経済を活性化するために重要な取組

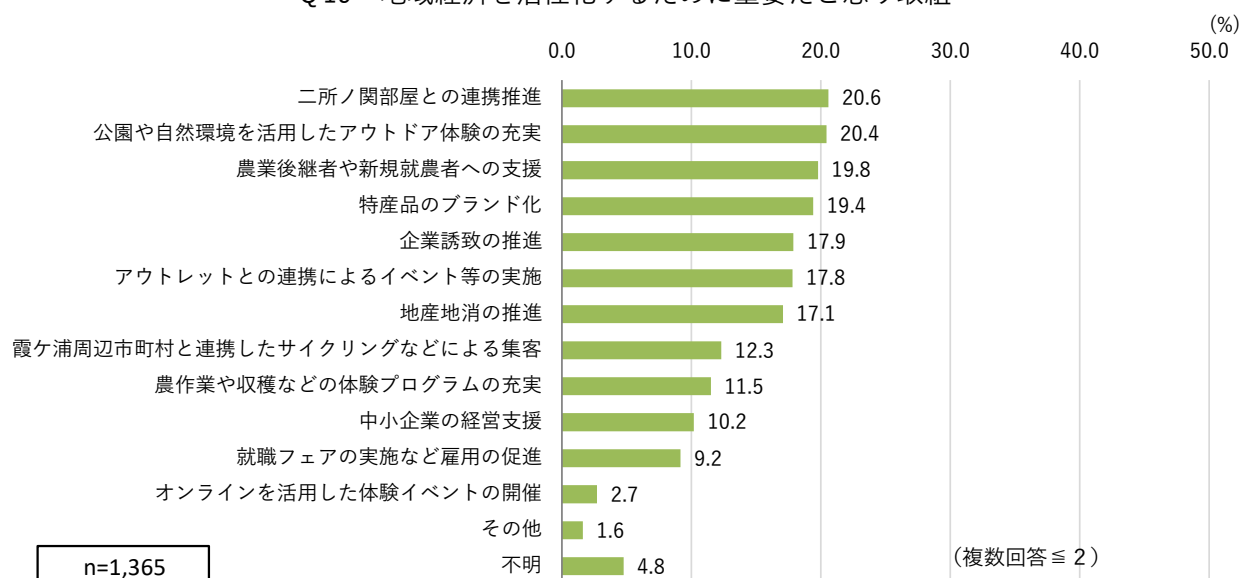
Q19 地域経済を活性化するために、今後どのような取組が重要だと思いますか。
(2つまで○)

1. 霞ヶ浦周辺市町村と連携したサイクリングなどによる集客
2. 農作業や収穫などの体験プログラムの充実
3. 公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実
4. アウトレットとの連携によるイベント等の実施
5. 二所ノ関部屋との連携推進
6. オンラインを活用した体験イベントの開催
7. 農業後継者や新規就農者への支援
8. 地産地消の推進
9. 特産品のブランド化
10. 企業誘致の推進
11. 中小企業の経営支援
12. 就職フェアの実施など雇用の促進
13. その他（具体的に：

■地域経済を活性化するためには、「二所ノ関部屋との連携推進」や「公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実」が重要

- ・地域経済を活性化するために重要な取組をみると、「二所ノ関部屋との連携推進」が全体の 20.6% と最も高く、次いで「公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実」が 20.4% となっている。

Q19 地域経済を活性化するために重要だと思う取組



■「二所ノ関部屋との連携推進」は中高年以上などで重視。比較的若い世代は「公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実」や「アウトレットとの連携によるイベント等の実施」を重視

- ・男女別にみると、男性では「企業誘致の推進」や「公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実」が2割以上となっている。
- ・年齢別にみると、「二所ノ関部屋との連携推進」は主に40代以上で概ね2割以上となっている。一方、10代から40代の比較的若い世代では「公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実」や「アウトレットとの連携によるイベント等の実施」が高い割合となっている。一方、60代以上では「農業後継者や新規就農者への支援」や「地産地消の推進」が高くなっている。
- ・居住地区別にみると、「二所ノ関部屋との連携推進」は、二所ノ関部屋の所在する本郷小やあさひ小で高くなっている。

Q19 地域経済を活性化するために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦2）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
二所ノ関部屋との連携推進	19.2	22.1	7.1
公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実	20.5	20.6	21.4
農業後継者や新規就農者への支援	17.8	21.1	21.4
特産品のブランド化	19.6	19.4	7.1
企業誘致の推進	21.0	15.6	14.3
アウトレットとの連携によるイベント等の実施	17.8	18.1	21.4
地産地消の推進	16.8	17.4	14.3
霞ヶ浦周辺市町村と連携したサイクリングなどによる集客	13.9	10.7	7.1
農作業や収穫などの体験プログラムの充実	9.6	13.1	7.1
中小企業の経営支援	11.1	9.4	21.4
就職フェアの実施など雇用の促進	9.6	8.3	21.4
オンラインを活用した体験イベントの開催	2.1	3.4	0.0
その他	1.6	1.5	0.0
不明	5.3	4.2	14.3

Q19 地域経済を活性化するために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
二所ノ関部屋との連携推進	15.8	11.4	19.9	24.4	22.4	19.9	20.5	22.5
公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実	21.1	25.7	27.3	20.0	19.4	19.5	18.2	16.7
農業後継者や新規就農者への支援	0.0	13.3	14.8	16.7	18.4	23.0	21.9	29.2
特産品のブランド化	26.3	27.6	20.5	17.8	20.4	19.5	16.5	15.8
企業誘致の推進	10.5	12.4	17.6	20.0	16.8	24.1	18.2	10.0
アウトレットとの連携によるイベント等の実施	42.1	31.4	23.3	27.2	18.4	15.7	9.8	5.0
地産地消の推進	10.5	12.4	10.8	15.6	15.3	17.6	23.2	20.8
霞ヶ浦周辺市町村と連携したサイクリングなどによる集客	26.3	13.3	11.4	11.7	10.7	10.7	14.1	11.7
農作業や収穫などの体験プログラムの充実	5.3	13.3	13.6	12.8	11.7	9.6	10.8	11.7
中小企業の経営支援	10.5	10.5	15.3	11.7	11.2	7.3	7.4	12.5
就職フェアの実施など雇用の促進	10.5	12.4	6.3	6.7	10.7	11.1	9.8	5.0
オンラインを活用した体験イベントの開催	10.5	3.8	2.3	2.8	2.6	3.1	2.0	2.5
その他	0.0	1.0	2.3	1.1	2.0	1.5	1.3	1.7
不明	0.0	1.9	3.4	1.1	4.1	4.2	7.4	11.7

// 町民意向調査

Q19 地域経済を活性化するために重要だと思う取組（地区別）

（単位：％、複数回答≦2）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
二所ノ関部屋との連携推進	17.2	29.4	19.4	24.0	13.6	13.6	26.3
公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実	20.6	19.8	14.5	13.5	21.2	22.3	23.0
農業後継者や新規就農者への支援	18.7	20.2	24.2	25.0	19.7	20.4	16.9
特産品のブランド化	19.3	19.4	14.5	19.8	23.5	15.5	17.3
企業誘致の推進	16.9	14.9	6.5	15.6	19.7	23.3	23.5
アウトレットとの連携によるイベント等の実施	23.6	17.7	22.6	7.3	17.8	15.5	15.6
地産地消の推進	17.5	13.3	16.1	13.5	20.1	20.4	17.3
霞ヶ浦周辺市町村と連携したサイクリングなどによる集客	10.4	8.5	14.5	16.7	17.0	19.4	7.4
農作業や収穫などの体験プログラムの充実	12.9	10.1	17.7	13.5	9.1	5.8	14.0
中小企業の経営支援	9.5	13.7	3.2	11.5	9.8	7.8	10.7
就職フェアの実施など雇用の促進	9.5	7.7	8.1	11.5	9.1	11.7	7.8
オンラインを活用した体験イベントの開催	3.4	2.4	6.5	2.1	3.4	1.9	1.2
その他	1.8	2.0	0.0	3.1	1.5	1.0	0.8
不明	4.9	5.6	9.7	7.3	2.7	3.9	3.3

(9) 防災力を強化するために重要な取組

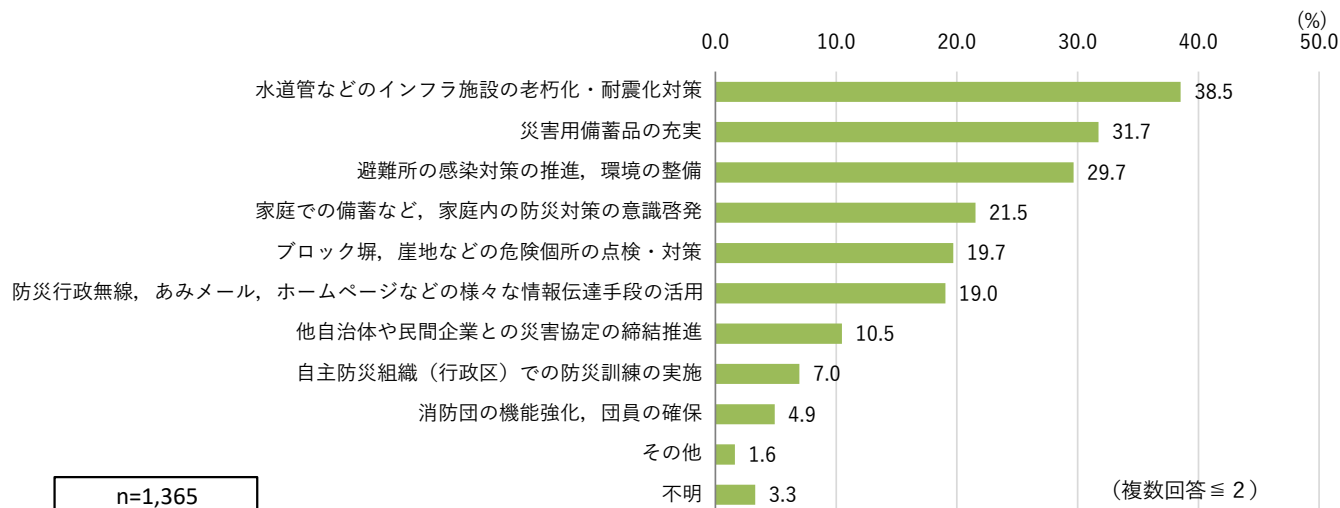
Q20 災害へ備え防災力を強化するために、今後どのような取組が重要だと思いますか。（2つまで○）

1. 避難所の感染対策の推進，環境の整備
2. 災害用備蓄品の充実
3. ブロック塀，崖地などの危険個所の点検・対策
4. 水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策
5. 防災行政無線，あみメール，ホームページなどの様々な情報伝達手段の活用
6. 他自治体や民間企業との災害協定の締結推進
7. 消防団の機能強化，団員の確保
8. 自主防災組織（行政区）での防災訓練の実施
9. 家庭での備蓄など，家庭内の防災対策の意識啓発
10. その他（具体的に； ）

■災害へ備え防災力を強化するためには、「水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策」や「災害用備蓄品の充実」「避難所の感染対策の推進、環境の整備」が重要

・災害へ備え防災力を強化するために重要な取組をみると、「水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策」が全体の 38.5%と最も高く、次いで「災害用備蓄品の充実」が 31.7%、「避難所の感染対策の推進・環境の整備」が 29.7%となっている。

Q20 災害へ備え防災力を強化するために重要だと思う取組



■「水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策」は30代～60代の現役世代や市街地部で重視

- ・男女別にみると、女性では「避難所の感染対策の推進、環境の整備」が2番目に高くなっている。
- ・年齢別にみると、「水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策」は30代～60代で4割と高い。
- ・居住地区別にみると、「水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策」は阿見第一小、阿見第二小、あさひ小といった市街地部で高くなっている。

// 町民意向調査

Q20 災害へ備え防災力を強化するために重要だと思う取組（男女別）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策	40.2	37.2	42.9
災害用備蓄品の充実	31.7	31.9	35.7
避難所の感染対策の推進、環境の整備	26.0	33.0	28.6
家庭での備蓄など、家庭内の防災対策の意識啓発	21.2	21.6	21.4
ブロック塀、崖地などの危険個所の点検・対策	17.9	20.8	35.7
防災行政無線、あみメール、ホームページなどの様々な情報伝達手段の活用	20.2	18.8	0.0
他自治体や民間企業との災害協定の締結推進	10.6	10.5	7.1
自主防災組織（行政区）での防災訓練の実施	8.5	5.5	7.1
消防団の機能強化、団員の確保	7.1	2.8	0.0
その他	1.3	1.5	14.3
不明	3.0	3.5	0.0

（単位：％、複数回答≦2）

Q20 災害へ備え防災力を強化するために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策	21.1	35.2	43.2	40.6	44.9	40.6	37.7	23.3
災害用備蓄品の充実	36.8	31.4	34.1	38.9	26.0	33.7	27.9	31.7
避難所の感染対策の推進、環境の整備	26.3	36.2	35.2	31.1	29.6	26.4	30.0	20.0
家庭での備蓄など、家庭内の防災対策の意識啓発	21.1	21.0	14.2	18.3	22.4	19.9	26.9	25.0
ブロック塀、崖地などの危険個所の点検・対策	26.3	22.9	25.6	21.7	18.4	20.3	15.2	16.7
防災行政無線、あみメール、ホームページなどの様々な情報伝達手段の活用	31.6	22.9	18.2	16.7	19.9	21.1	18.5	15.8
他自治体や民間企業との災害協定の締結推進	5.3	8.6	9.7	12.2	9.7	13.4	8.4	12.5
自主防災組織（行政区）での防災訓練の実施	5.3	1.0	3.4	6.7	3.6	6.5	12.1	11.7
消防団の機能強化、団員の確保	5.3	2.9	2.8	2.8	6.1	4.2	6.1	8.3
その他	0.0	1.0	3.4	1.1	2.0	1.9	0.0	2.5
不明	5.3	1.0	1.7	0.6	2.6	2.3	4.7	10.8

Q20 災害へ備え防災力を強化するために重要だと思う取組（地区別）

（単位：％、複数回答≦2）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策	38.0	35.9	19.4	36.5	41.7	41.7	44.0
災害用備蓄品の充実	35.0	31.0	19.4	21.9	34.1	32.0	32.1
避難所の感染対策の推進、環境の整備	29.1	29.8	41.9	22.9	23.1	32.0	35.4
家庭での備蓄など、家庭内の防災対策の意識啓発	23.9	19.0	22.6	26.0	20.8	24.3	18.1
ブロック塀、崖地などの危険個所の点検・対策	19.6	16.9	9.7	16.7	25.0	12.6	24.3
防災行政無線、あみメール、ホームページなどの様々な情報伝達手段の活用	15.3	23.4	21.0	22.9	22.0	15.5	16.9
他自治体や民間企業との災害協定の締結推進	12.3	10.5	16.1	15.6	8.0	7.8	9.1
自主防災組織（行政区）での防災訓練の実施	5.5	8.9	11.3	11.5	7.2	5.8	4.5
消防団の機能強化、団員の確保	4.0	5.6	6.5	7.3	5.7	3.9	2.9
その他	1.8	2.4	1.6	0.0	1.9	1.0	0.8
不明	3.7	3.6	8.1	5.2	2.3	3.9	0.8

(10) 豊かな自然環境を未来につなげるために重要な取組

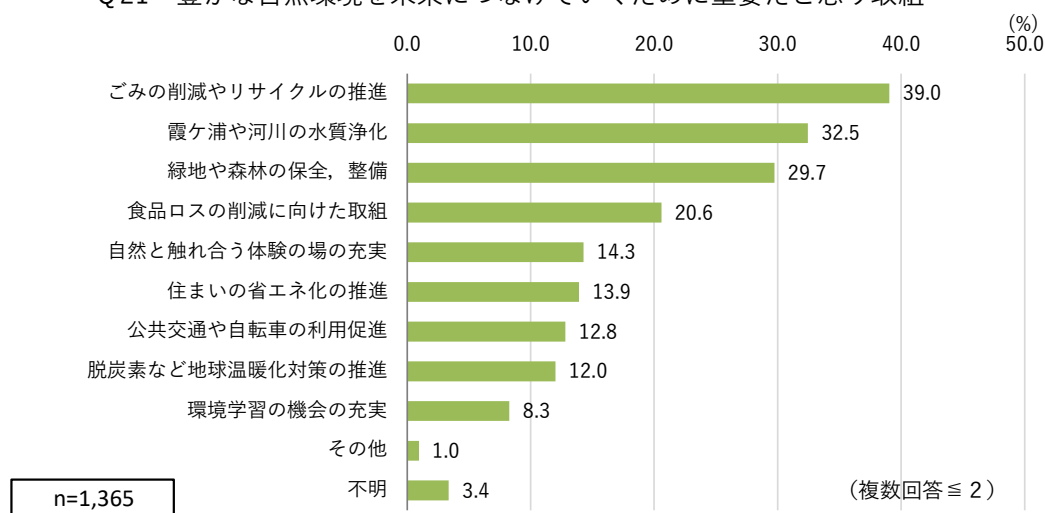
Q21 阿見町の豊かな自然環境を未来につなげていくために、今後どのような取組が重要だと思いますか。(2つまで○)

1. ごみの削減やリサイクルの推進
2. 食品ロスの削減に向けた取組
3. 自然と触れ合う体験の場の充実
4. 環境学習の機会の充実
5. 住まいの省エネ化の推進
6. 公共交通や自転車の利用促進
7. 霞ヶ浦や河川の水質浄化
8. 緑地や森林の保全，整備
9. 脱炭素など地球温暖化対策の推進
10. その他（具体的に：

■豊かな自然環境を未来につなげていくためには、「ごみの削減やリサイクルの推進」や「霞ヶ浦や河川の水質浄化」、「緑地や森林の保全、整備」が重要

・豊かな自然環境を未来につなげていくために重要な取組をみると、「ごみの削減やリサイクルの推進」が全体の 39.0%と最も高く、次いで「霞ヶ浦や河川の水質浄化」が 32.5%、「緑地や森林の保全、整備」が 29.7%となっている。

021 豊かな自然環境を未来につなげていくために重要だと思う取組



■「ごみの削減やリサイクルの推進」は女性や高齢者が重視。10代～30代の若年層は「食品ロスの削減に向けた取組」も重視

- ・男女別にみると、女性では「ごみの削減やリサイクルの推進」の割合が男性よりも高くなっている。
- ・年齢別にみると、「ごみの削減やリサイクルの推進」は60代以上で4割を超えている。「緑地や森林の保全、整備」は40代～60代で3割を超え、「食品ロスの削減に向けた取組」は10代～30代で比較的高くなっている。
- ・居住地区別にみると、「ごみの削減やリサイクルの推進」は阿見小、君原小、舟島小で4割を超え、「霞ヶ浦や河川の水質浄化」は舟島小で高くなっている。

Ⅱ 町民意向調査

Q21 豊かな自然を未来につなげていくために重要だと思う取組（男女別）

（単位：％、複数回答≦2）

	男性 (n=624)	女性 (n=712)	回答しない (n=14)
ごみの削減やリサイクルの推進	37.7	40.7	7.1
霞ヶ浦や河川の水質浄化	33.8	31.5	35.7
緑地や森林の保全、整備	31.3	27.7	50.0
食品ロスの削減に向けた取組	17.0	23.6	28.6
自然と触れ合う体験の場の充実	14.4	14.5	7.1
住まいの省エネ化の推進	16.5	11.9	7.1
公共交通や自転車の利用促進	14.1	11.8	14.3
脱炭素など地球温暖化対策の推進	11.7	12.1	21.4
環境学習の機会の充実	7.2	9.4	7.1
その他	1.4	0.6	0.0
不明	3.2	3.5	0.0

Q21 豊かな自然を未来につなげていくために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
ごみの削減やリサイクルの推進	21.1	39.0	34.7	33.3	35.7	41.4	45.1	41.7
霞ヶ浦や河川の水質浄化	42.1	33.3	34.7	35.0	31.1	31.8	28.3	37.5
緑地や森林の保全、整備	26.3	21.9	29.5	32.2	34.7	32.6	28.6	20.8
食品ロスの削減に向けた取組	26.3	31.4	28.4	21.7	18.4	18.4	15.8	17.5
自然と触れ合う体験の場の充実	10.5	14.3	17.6	15.6	12.2	14.9	13.5	12.5
住まいの省エネ化の推進	15.8	21.9	16.5	13.3	15.8	15.3	10.8	6.7
公共交通や自転車の利用促進	26.3	18.1	8.0	11.7	12.8	11.1	15.8	11.7
脱炭素など地球温暖化対策の推進	5.3	8.6	8.5	10.0	13.8	14.2	13.1	14.2
環境学習の機会の充実	10.5	1.9	9.1	12.2	7.7	7.7	8.8	8.3
その他	0.0	0.0	0.0	1.1	2.0	1.1	0.7	1.7
不明	5.3	0.0	2.3	2.2	2.6	2.7	4.0	10.0

Q21 豊かな自然を未来につなげていくために重要だと思う取組（地区別）

（単位：％、複数回答≦2）

	阿見小 (n=326)	本郷小 (n=248)	君原小 (n=62)	舟島小 (n=96)	阿見第一小 (n=264)	阿見第二小 (n=103)	あさひ小 (n=243)
ごみの削減やリサイクルの推進	43.6	38.7	48.4	40.6	34.8	35.9	36.2
霞ヶ浦や河川の水質浄化	28.8	27.4	32.3	47.9	38.3	35.0	29.6
緑地や森林の保全、整備	28.8	32.3	30.6	28.1	27.7	22.3	33.3
食品ロスの削減に向けた取組	25.2	20.6	14.5	9.4	19.3	23.3	21.0
自然と触れ合う体験の場の充実	12.9	14.9	19.4	11.5	16.7	8.7	16.0
住まいの省エネ化の推進	14.1	15.7	11.3	16.7	14.0	12.6	12.3
公共交通や自転車の利用促進	11.0	13.3	9.7	8.3	12.1	19.4	15.6
脱炭素など地球温暖化対策の推進	12.0	11.3	12.9	12.5	11.7	10.7	13.6
環境学習の機会の充実	8.3	7.3	1.6	12.5	9.5	6.8	9.5
その他	0.3	1.2	0.0	1.0	1.9	0.0	1.2
不明	3.7	4.4	3.2	4.2	2.7	3.9	0.8

5 将来像のキーワード等について

(1) 将来像のキーワード

Q22 将来の阿見町の姿について、どのようになって欲しいとお考えですか。
 将来像としてふさわしいキーワードをご自由にお書きください。

■阿見町の将来像にふさわしいキーワードは、「住む」、「安心」、「自然」など

- ・阿見町の将来像としてふさわしい主要なキーワードについては、全回答者のうち、712 件 (52.2%) の回答を得た。
- ・主要なキーワードの上位を抽出してみると、「町」を含む回答が最も多く、次いで「住む」(動詞) を含む回答が多くなっている。
- ・抽出数が上位に位置するキーワードをみると、「安心」や「安全」、「自然」、「高齢」、「人」、「子供」(「子ども」は 13 件で 74 位) や「子育て」、「環境」といった語句を含む回答が多くなっている。そのほか、「世代」「若い」「若者」「人口」等といったまちの活力に関わる語句も比較的多く含まれている。

Q22 将来像としてのキーワード (単位：件)

順位	抽出語	回答数
1位	町	282
2位	住む	110
3位	阿見	92
4位	思う	90
5位	充実	89
6位	安心	88
7位	自然	83
8位	高齢	70
9位	人	65
10位	子供	62
11位	子育て	53
12位	環境	52
13位	安全	48
〃	施設	48
〃	生活	48
16位	地域	43
17位	交通	41
〃	多い	41
19位	良い	40
20位	整備	37
21位	豊か	35
22位	街	34
23位	増える	33
〃	暮らせる	33
25位	公共	31
〃	世代	31

順位	抽出語	回答数
27位	若者	29
〃	人口	29
29位	車	27
〃	町民	27
31位	若い	26
〃	出来る	26
33位	考える	25
34位	市	25
〃	商業	25
〃	道路	25
37位	活性	24
〃	必要	24
〃	魅力	24
40位	企業	23
〃	支援	23
〃	増やす	23
43位	機関	21
〃	住民	21
〃	福祉	21
46位	教育	19
〃	場所	19
〃	発展	19
49位	まち	18
〃	農業	18
〃	誘致	18

順位	抽出語	回答数
52位	移動	17
〃	作る	17
〃	利用	17
55位	医療	16
〃	行政	16
〃	地区	16
〃	町内	16
〃	防犯	16
60位	バス	15
〃	楽しい	15
〃	活用	15
〃	公園	15
〃	行く	15
〃	今	15
〃	将来	15
〃	買い物	15
68位	つくば	14
〃	活気	14
〃	希望	14
〃	年寄り	14
〃	明るい	14
〃	老人	14
74位	言う	13
〃	行う	13
〃	子ども	13
〃	社会	13
〃	住宅	13
〃	少ない	13
〃	他	13
〃	対策	13
〃	優しい	13
〃	利便	13

※テキストマイニングツールの KH Corder を用いて、主な頻出語 50 位以内を抽出。

ただし、集計は回答者ごとに回答数 1 件としている。(例えば、「住む」という語句を同じ回答者が 2 回使用していても 1 件として数える)。色分けは後半のデマゴと着色している。(男女別、年齢別も同様に作成)

■男性は「自然」「環境」「住む」、女性は「住む」「安心」などがキーワード

- ・男女別にキーワードを抽出してみると、男性では「自然」や「住む」、「環境」といった語句を含む回答が多く、女性では「住む」や「安心」、「子供（子ども」も含む）」といった語句を含む回答が多くなっている。
- ・そのほかの特徴として、男性では「整備」や「企業」といった語句が上位に含まれており、女性では「交通」といった語句が含まれている。

Q22 将来像としてのキーワード（男女別）

（単位：件）

男性			女性		
順位	語句	回答数	順位	語句	回答数
1位	町	117	1位	町	156
2位	充実	45	2位	住む	67
3位	自然	43	3位	安心	57
4位	住む	41	4位	思う	54
5位	阿見	39	5位	子供（子ども）	50
6位	思う	34	6位	阿見	49
7位	環境	31	7位	高齢	45
8位	安心	28	8位	充実	42
9位	人	26	9位	自然	39
10位	高齢	23	10位	人	37
11位	整備	22	11位	子育て	31
〃	子供（子ども）	22	12位	施設	30
13位	地域	21	13位	安全	29
〃	子育て	21	14位	生活	26
〃	生活	21	15位	増える	23
16位	企業	19	〃	多い	23
〃	街	19	17位	交通	22
18位	人口	18	〃	良い	22
〃	施設	18	19位	環境	21
〃	良い	18	〃	地域	21
			〃	世代	21
			〃	暮らせる	21

■「住む」は全世代共通のキーワード。40代以下の若い世代では、「自然」や「子供（子ども）」「子育て」、「人」、50代以上は中高年以上の世代では、「安心」、「高齢」などが多い

- ・年齢別にキーワードを抽出してみると、10代・20代の若年層では「住む」や「自然」、「子育て」、「人」、「若者」といった語句を含む回答が多くなっている。
- ・30代・40代では、「住む」や「子供（子ども）」も含む、「自然」、「安心」が多く、そのほか「子育て」、「人」といった語句を含む回答が多くなっている。
- ・50代・60代では、40代以下よりも「安心」が上位となっており、「高齢」を含む回答も多く、そのほか「環境」を含む回答も多くなっている。
- ・70代以上の高齢層では、「住む」や「安心」、「高齢」を含む回答が多くなっている。

Q22 将来像としてのキーワード（年齢別）

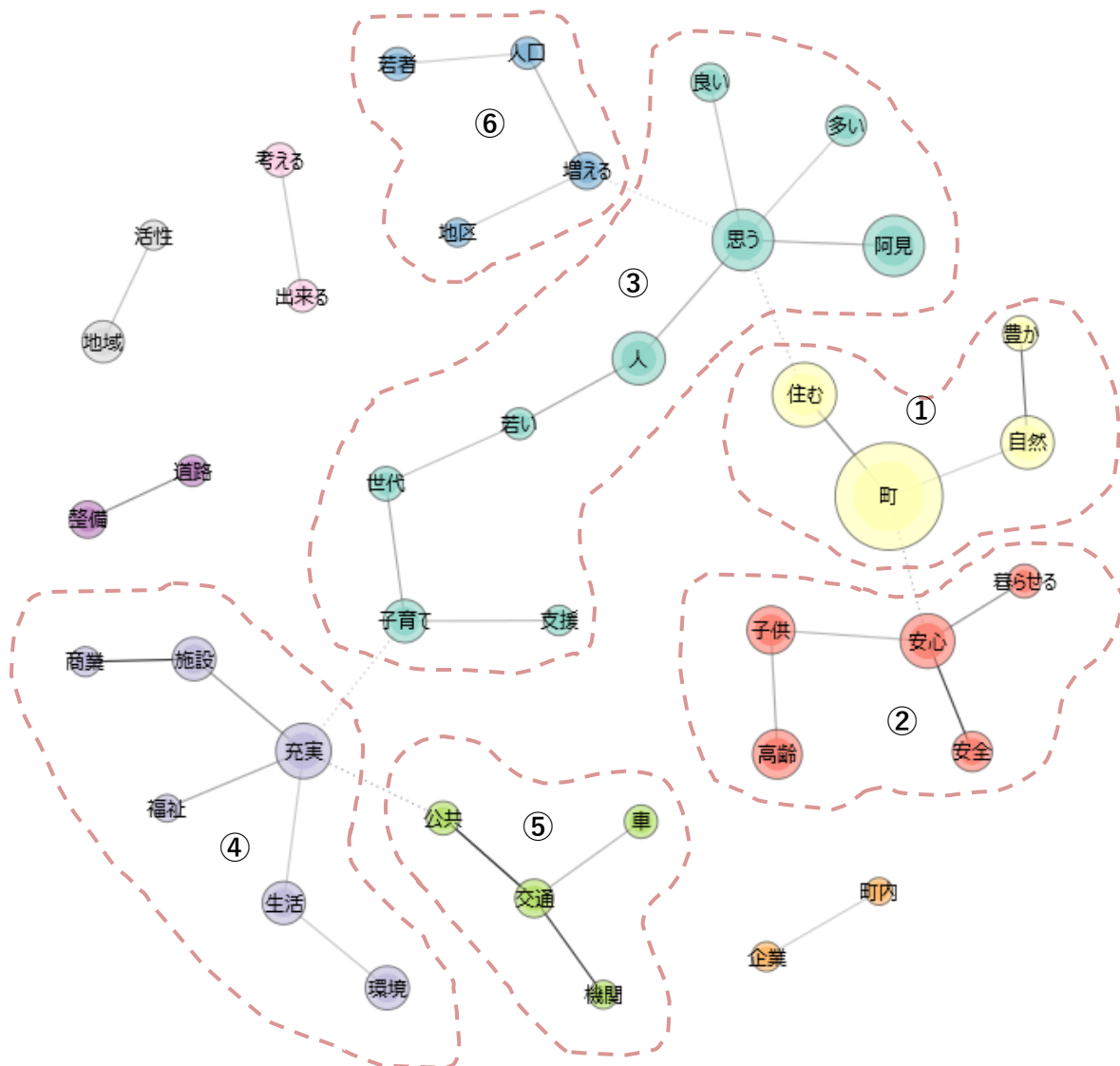
（単位：件）

10代・20代			30代・40代			50代・60代			70代以上		
順位	語句	回答数	順位	語句	回答数	順位	語句	回答数	順位	語句	回答数
1位	町	25	1位	町	102	1位	町	98	1位	町	53
2位	住む	14	2位	住む	39	2位	充実	40	2位	阿見	23
3位	自然	11	3位	思う	36	3位	住む	36	3位	住む	20
4位	思う	10	4位	子供（子ども）	34	4位	安心	35	〃	思う	20
5位	子育て	9	5位	自然	29	5位	自然	31	5位	安心	18
〃	人	9	〃	阿見	29	〃	阿見	31	6位	充実	16
7位	阿見	8	7位	安心	27	7位	高齢	27	7位	高齢	15
8位	若者	7	8位	充実	25	8位	子供（子ども）	26	〃	考える	15
〃	充実	7	9位	子育て	24	〃	環境	26	9位	生活	12
〃	安心	7	10位	高齢	22	10位	思う	24	10位	環境	11
11位	施設	6	〃	人	22	11位	人	23	〃	自然	11
〃	思える	6	12位	交通	18	12位	良い	19	〃	人	11
13位	子供（子ども）	5	〃	安全	18	13位	暮らせる	18	13位	安全	10
〃	交通	5	〃	多い	18	14位	施設	17	14位	子供（子ども）	9
〃	商業	5	15位	地域	17	〃	生活	17	〃	若者	9
〃	増える	5	〃	世代	17	16位	地域	16	〃	子育て	9
〃	暮らせる	5	〃	施設	17	〃	整備	16	〃	出来る	9
〃	良い	5	18位	生活	16	18位	安全	15	18位	地域	8
〃	街	5	〃	増える	16	19位	交通	12	〃	人口	8
20位	高齢	4	20位	商業	14	〃	福祉	12	〃	施設	8
〃	環境	4				〃	車	12	〃	多い	8
〃	活性	4							〃	若い	8
〃	魅力	4									
〃	整備	4									
〃	支援	4									
〃	安全	4									
〃	豊か	4									
〃	多い	4									

■キーワードは、主に①住むこと、②安心・安全な暮らし、③人や子育て、④生活の充実、⑤交通、⑥人口に関わるテーマに分類される

・抽出された語句の関係性を共起ネットワーク（文中の語と語が共通に出現する関係を図化したもの）でみると、関係性は概ね 10 のテーマに分類できるが、このうち、主なテーマは①住むことに関わるキーワード、②安心・安全な暮らしに関わるキーワード、③人や子育てに関わるキーワード、④生活の充実に関わるキーワード、⑤交通に関わるキーワード、⑥人口に関わるキーワードになっている。

Q22 将来像としてのキーワード（共起ネットワーク）



※テキストマイニングツールの KH Corder を用いて、出現数 20 回以上の語句で作成

①住むことに関わるキーワード

- ・住むことに関わるキーワードとしては、「自然」や「豊か」等があり、若者や高齢者だけでなく、どの世代においても住みやすいことや、自然環境と快適な暮らしの調和が求められている。(以下、【】の語句を含む記述を抜粋している)

【住む】

- ・最終的に住みたいと思ってもらえる町にする。
- ・茨城県内で一番住みやすい街！
- ・子どもも老人もやすい街（教育、介護）
- ・住みやすい、住んでみたい、ずっと住んでいたいまち
- ・どの世代にも住みやすい町
- ・子供達がいつまでも住みたくなる阿見町
- ・若い人達がずっと住み続けたいと思う町、又は戻ってきたいと思うような町造り
- ・2030年までに、住みたい街ランキングトップ5入り！
- ・人口が増える中、求めるのは住みやすい町です。
- ・若者に魅力のある町づくり。高齢者が安心して住み続ける町づくり など

【自然】【豊か】

- ・自然が豊かな人にやさしい町。
- ・快適な暮らしと自然が調和した環境で（安心して）みんなが夢と未来に挑戦できる町
- ・みどり豊か 自然あふれる阿見
- ・住宅環境と自然環境のバランス
- ・自然環境を保全し、調和のとれた町づくり
- ・人と自然が元気な町
- ・豊かな自然と共に生きる華やかさが共存する街
- ・全国一都会的な田舎（自然豊かな）町
- ・自然を残した活気のある街 など

②安心・安全な暮らしに関わるキーワード

- ・安心・安全な暮らしに関わるキーワードとしては、「子供（子ども）」や「高齢者」等があり、誰もが生涯安心・安全に暮らせることが求められている。

【安心】【安全】

- ・子供から老人まで安心・安全に暮らせる街づくり
- ・老若男女安心して暮らせる町（外国籍を含む）
- ・「だれもが安心・安全に暮らせる街、それが阿見町」
- ・安全と安定と安心
- ・“ゆりかごから墓場まで”一生の間安心して生活できる環境
- ・希望の町“阿見” 幸福の町“阿見” 安心して住める町
- ・安全で快適な町
- ・安心・安全・災害に強い
- ・安全で安心な仕事から帰ってきたらほっとできるような阿見町になって欲しいです。 など

【高齢者】 ・若者に魅力のある町づくり。高齢者が安心して住み続ける町づくり ・子供から高齢者まで安全に安心して生活できる町 ・高齢者も働ける環境作り（特に、培った技術の伝承をして欲しい。） ・高齢者から若者まで各世代階層が一定人口居住するバランス型の地域社会の実現 ・高齢者が人生 100 年時代に元気に暮らせる町づくり	など
【子供（子ども）】 ・子供達が U ターンで戻ってきたくするような町 ・子供は宝です。子供がたくさんいる町は発展します。 ・子供の笑顔がたえまない、絆のかけはしのできる環境 ・子供達が楽しく安心安全に暮らせる町。 ・子どもが外でも遊べる安心・安全な町。	など

③人や子育てに関わるキーワード

- ・人や子育てに関わるキーワードとしては、「人」や「子育て」「世代」等があり、世代を超えた人と人との交流や子育てのしやすいまちなどが求められている。

【人】 ・阿見町外からの人からも興味を持たれるまちづくり ・人は社会、社会は人。未来に羽ばたけ阿見町づくり ・人と人、年代を超えての交流 ・どのような境遇、世代の人でも安心して暮らせる町になってほしい ・人と自然を大切にする町 ・人口が増え、人がより集まる場になって欲しい ・いろいろな世代、いろいろな立場の人が一緒に交流できる町になったら楽しいかなと思います。 ・人に地球に優しい町	など
【子育て】【世代】 ・「高齢者」も「子育て世代」も「子供達」も住み良い町作り ・子育てしやすい町 ・子育て世代が住みたいと思える町 ・老人と子育て世代を中心に優しいまち ・子育て支援が充実し町にたくさんの人が転入してくる未来 ・どの世代にも住みやすい町 ・世代交代が可能な町 ・三世代が住みやすい町 ・子育て支援を充実させ、若者世代が住みたくする町作りを ・いろいろな世代が住みやすい町	など

④生活の充実に関わるキーワード

- ・生活の充実に関わるキーワードとしては、「生活」や「環境」「施設」等があり、多様な生き方、自分らしい生活ができることや、環境への配慮、利便性と自然とのバランス等が求められている。
- ・「施設」に関しては、娯楽施設等、生活を充実するために欲しい施設等が多く記述されている。

【生活】 ・人口の日本一の「町」を自慢するのではなく、「市」を目指し、生活の利便性を高めることが必要 ・多様な生き方があたりまえとして生活できる ・誰一人取り残されない社会、誰もが自分らしく生活できる環境確保 ・高齢になっても生活に不便しないような町づくり ・豊かな自然の中での生活。一人一人が生きがいを感じる事のできる、活力ある町づくり ・災害に強い町、生活しやすい町になってほしい など
【環境】 ・快適な暮らしと自然が調和した環境で（安心して）みんなが夢と未来に挑戦できる町 ・環境に優しい街づくり ・町と企業と大学が連携して行う「ものづくり」環境 ・アナログとデジタルの融合。高齢者と若者が満足する環境整備 ・人にも動物にも住みやすい環境を目指してもらいたいです。 ・住宅地と自然環境とのバランスのとれた町の形成 ・子供達が外で遊べる環境 ・県外との行き来がしやすく他地域の風を取り入れられる環境を作り阿見町が発展したら良い。 ・住民も他自治体からの訪問者も阿見町の利便性と自然環境を継続的に実感できる町。 ・子供から大人までが繋がって助け合える環境も必要だと思う。 など
【施設】 ・アウトレットを中心にしたレジャー施設（テーマパーク）の拡充 ・魅力的な商業施設（他府県からも来れる様な） ・娯楽施設の充実 ・スポーツジムや温泉施設等の娯楽施設 ・吉原地区周辺にもっと商業施設を増やす。 ・商業施設と自然との共存 など

⑤交通に関わるキーワード

- ・交通に関わるキーワードとしては、「交通」や「公共」「機関」等があり、主には全体として課題となっている公共交通機関の充実が求められている。

【交通】【公共】【機関】 ・公共交通機関の充実 ・お年寄りが買い物・通院しやすい町（公共交通機関） ・車の免許証を返納した人への交通手段の確保 ・交通利便性の向上 など
--

⑥人口に関わるキーワード

- ・人口に関わるキーワードとしては、「人口」や「若者」「増える」等があるが、若者や子育て支援の充実で人口増を求める声がある一方で、バランスのよい発展を求める回答もキーワードとして見られている。
- ・そのほか、人口5万人以上となり市政を望む回答もいくつか見られる。

【人口】

- ・子育て支援の充実により、人口増加を期待する。
- ・いたずらに人口増を求めない。
- ・人工・人口的過ぎず、自然・田舎過ぎず、高齢過ぎず、幼少過ぎず、バランスが良い素敵な街。
- ・人口の日本一の「町」を自慢するのではなく、「市」を目指し、生活の利便性を高めることが必要
- ・人口流入に「町」「郡」は、特に若い人（外から来る人）に訴及できない。
- ・人口50,000人以上を早期確保して町から市政への移行
- ・町内に継続して居住、世帯を更新することで、人口バランスの良い阿見町を維持してほしい。
など

(2) その他の自由意見

Q23 その他、阿見町のまちづくりについてご意見がありましたらご自由にお書きください。

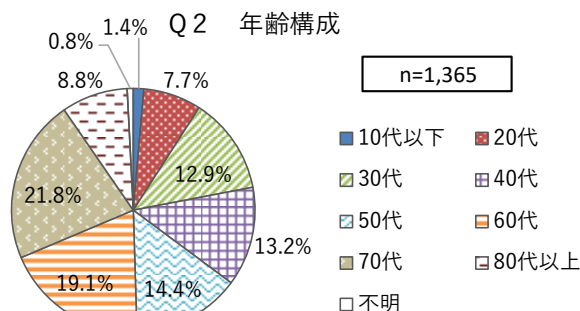
■自由意見は、全体の約3.5割に回答あり。WEB回答者のみでも同様の傾向

- ・自由意見については、496件（36.3%）の回答があった。このうち、WEB回答者は79件（WEB回答者の35.3%）となっている。

I - 3 調査結果のまとめ

1 回答者の属性

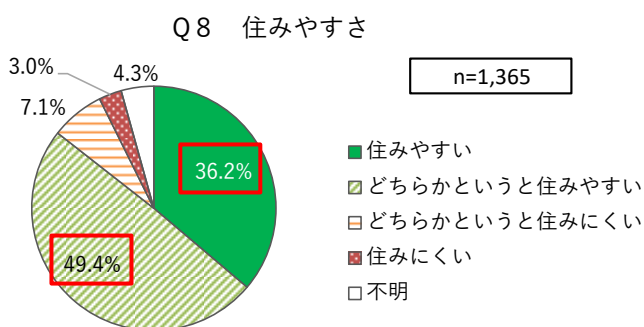
- ・回答者の属性では、女性の割合がやや多く、50代以下と60代以上がそれぞれ半数ずつとなり、幅広い年代から回答を得られた。家族構成については、親子世帯（2世代）が5割で核家族が多いが、近年の高齢化の状況を反映して、夫婦のみ世帯、高齢者が同居する世帯はそれぞれ約3割となった。
- ・居住地区は、市街地を含む阿見小、本郷小、阿見第一小、あさひ小地区がそれぞれ約2割で全体の8割を占めている。また、収入を伴う仕事を持つ人が全体の約半数で、町外で通勤・通学する人が約4割を占める結果となった。



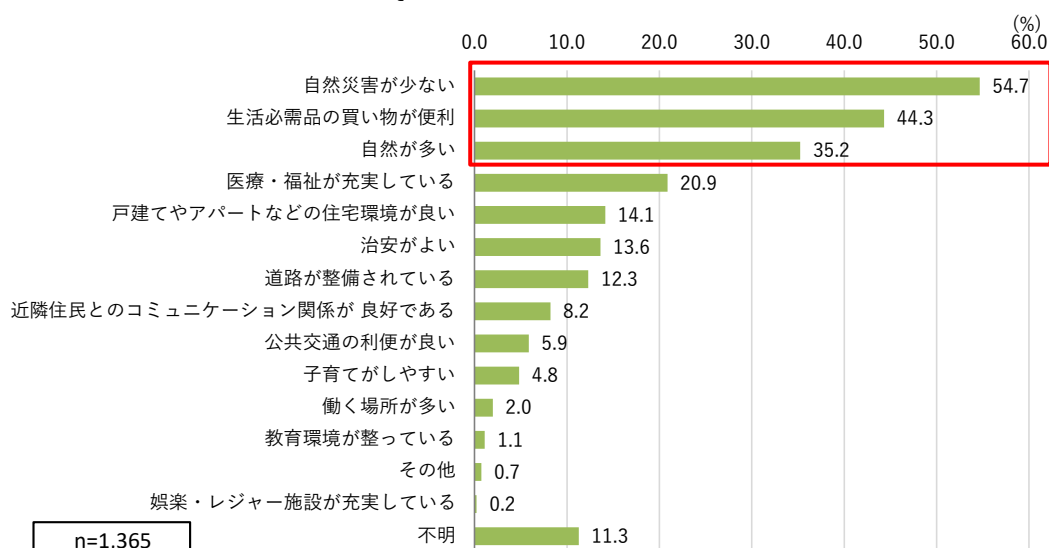
2 住みやすさ

(1) 現在の住みやすさ

- ・住みやすさについては、住みやすいと感じる人が8割以上で、20代・30代・40代、市街地部の人が住みやすさを感じている。
- ・住みやすいところは「自然災害が少ない」「生活必需品の買い物が便利」「自然が多い」などで、「自然災害が少ない」は高齢層、「生活必需品の買い物が便利」は若年層や町域北西部で割合が高くなっている。

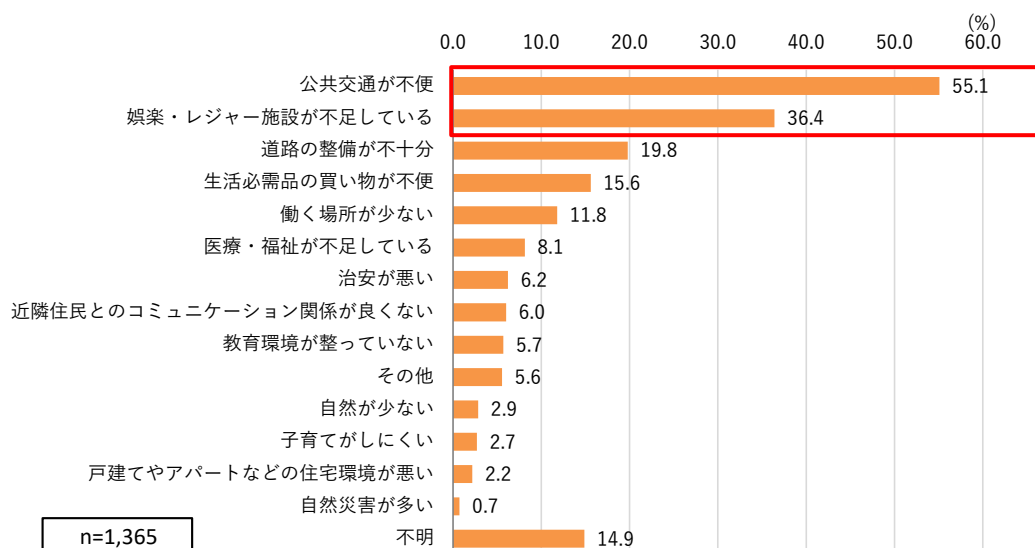


Q 9 住みやすいところ



- ・住みにくいところは「公共交通が不便」「娯楽・レジャーが不足している」などで、「公共交通が不便」「生活必需品の買い物が不便」は、特に町域東部で割合が高く、「娯楽・レジャーが不足している」は、年齢層が低いほど高くなっている。

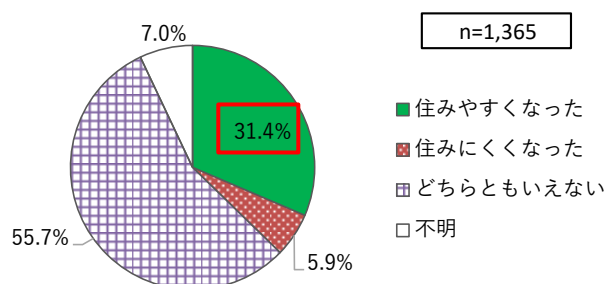
Q 9 住みにくいところ



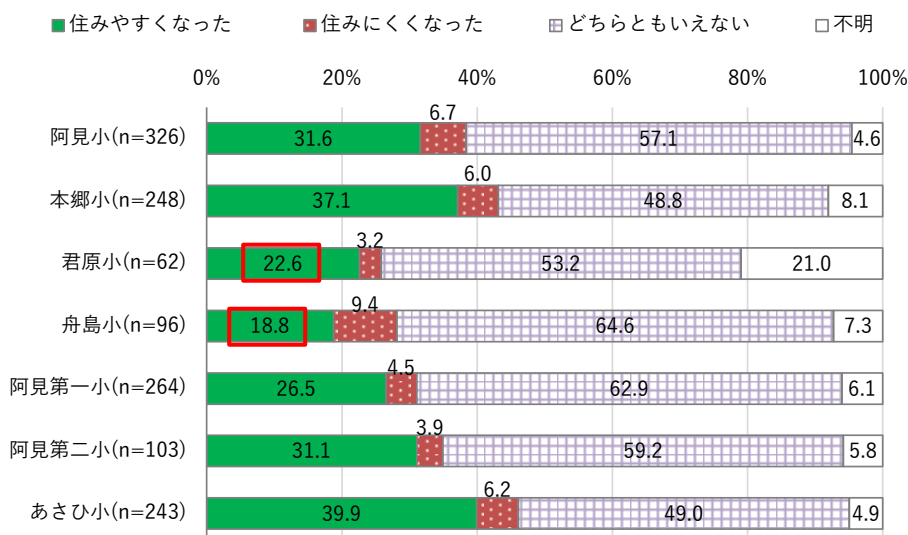
(2) 以前(10年前または住み始めとの比較)

- ・以前より住みやすくなったと感じる割合は約3割で、住みやすくなった理由では「生活必需品の買い物」や「道路の整備」の割合が高く、住みにくくなった理由では「公共交通の利便」や「生活必需品の買い物」が高くなっている。
- ・「住みやすくなった」と感じる割合は若年層や町域西部で高い一方、50代や町域東部で低く、世代や地区で異なる。

Q10 10年前(または住み始め)と比べて



Q10 10年前(または住み始め)と比べて(地区別)



3 第6次総合計画の主な施策の満足度・重要度について

- ・第6次総合計画の主な施策についての評価をみると、満足度が高い施策は、【消防・救急体制の充実】【医療福祉の充実】【幼児教育の充実】などで、満足度が低い施策は、【観光の振興】【交通体系・公共交通の充実】【農業の振興】などとなっている。
- ・重要度が高い施策は、【医療福祉の充実】【防犯対策の推進】【消防・救急体制の充実】などで安全な暮らしに関わる項目である。重要度の低い施策は、【コミュニティ活動の充実】【観光の振興】【町民参加の推進】などである。
- ・現在満足度が高いものの今後も重要度が高い施策は、【消防・救急体制の充実】【医療福祉の充実】【学校教育の充実】【児童生徒の健康管理と安全対策】などで、一層の充実が必要とされている。
- ・満足度が低く重要度が高い施策は【交通体系・公共交通の充実】【障害者福祉の充実】で、【交通体系・公共交通の充実】は女性や高齢世代だけでなく若い世代でも評価が低く、住みにくさの要因とも重なっていることから、今後もあらゆる世代の移動手段の確保や改善に向けて取り組んでいくことが必要と考えられる。また、他の施策に比較して大幅に満足度が低く重要度も低い【観光の振興】はコロナ禍が大いに影響しているものであり、コロナ後を見据えた取組や魅力づくりを検討していく必要があると考えられる。

■満足度の上位5項目・下位5項目

順位	上位5項目	平均
1位	【消防・救急体制の充実】	3.40点
2位	【医療福祉の充実】	3.33点
3位	【幼児教育の充実】	3.26点
4位	【学校教育の充実】	3.22点
5位	【児童生徒の健康管理と安全対策】	3.21点

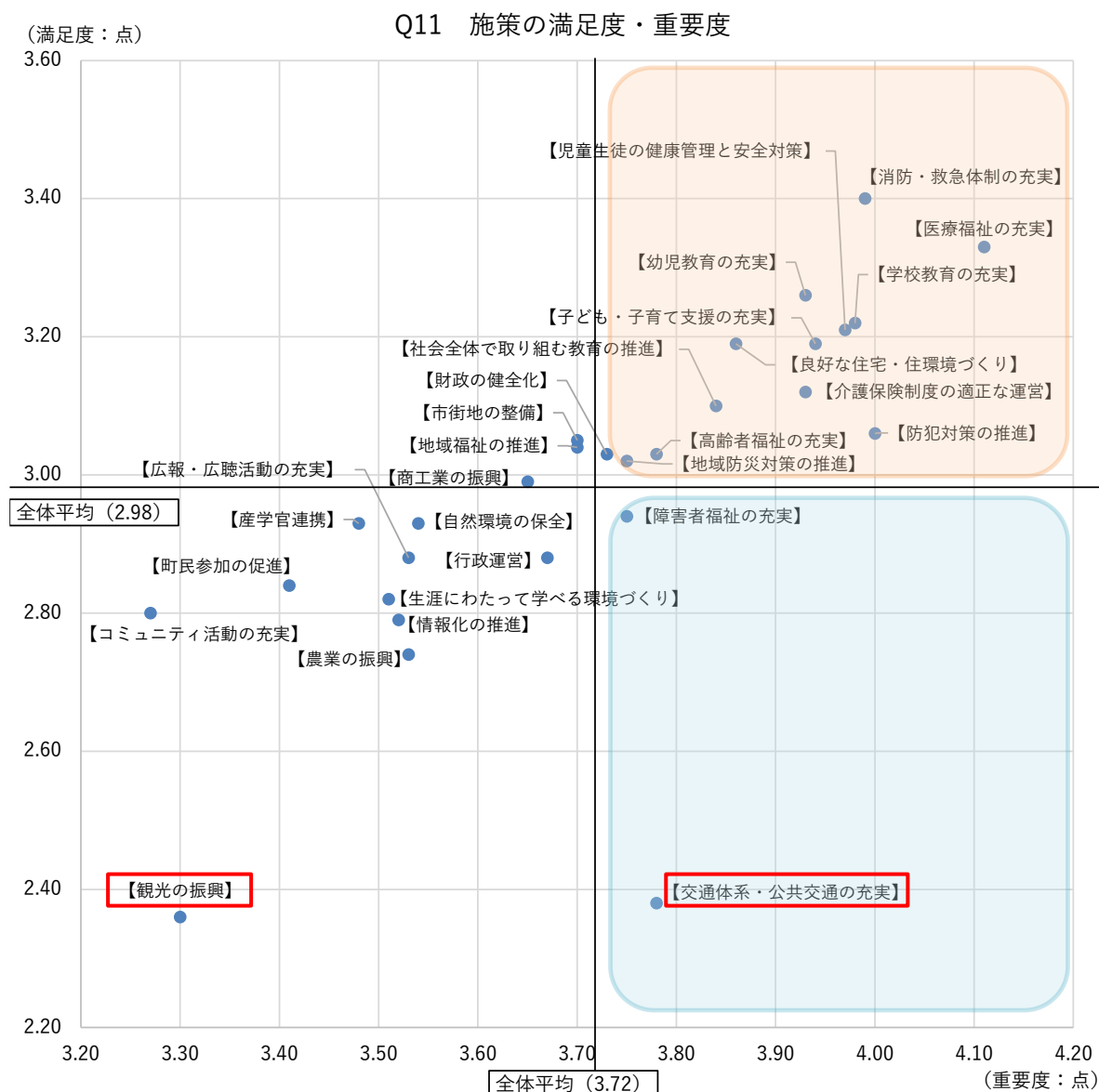
順位	下位5項目	平均
28位	【観光の振興】	2.36点
27位	【交通体系・公共交通の充実】	2.38点
26位	【農業の振興】	2.74点
25位	【情報化の推進】	2.79点
24位	【コミュニティ活動の充実】	2.80点

■重要度の上位5項目・下位5項目

順位	上位5項目	平均
1位	【医療福祉の充実】	4.11点
2位	【防犯対策の推進】	4.00点
3位	【消防・救急体制の充実】	3.99点
4位	【学校教育の充実】	3.98点
5位	【児童生徒の健康管理と安全対策】	3.97点

順位	下位5項目	平均
28位	【コミュニティ活動の充実】	3.27点
27位	【観光の振興】	3.30点
26位	【町民参加の推進】	3.41点
25位	【産学官連携】	3.48点
24位	【生涯にわたって学べる環境づくり】	3.51点

- ・若い世代では、【市街地の整備】や【良好な住宅・住環境づくり】の満足度は比較的高く、近年の人口増につながっていると考えられ、今後も重要度は高くなっている。また、将来を踏まえて、【財政の健全化】についての重要度は若い世代で比較的高くなっていると考えられる。
- ・一方、高齢世代では【介護保険制度の適正な運営】や【高齢者福祉の充実】の順位が高く、優先度が高いと考えられ、高齢社会の進行を踏まえ世代に応じた対応を検討していく必要がある。



4 今後のまちづくりについて

(1) 住み続けたいまちとなるために重要なこと

- ・「住み続けたいまち」になるためには、「公共交通（移動手段）の充実」や「安心して医療を受けられる体制づくり」が重要となっている。医療・福祉体制については、現時点でもある程度満足度を得られているものの、今後、公共交通（移動手段）については対応が重要である。その他、50代以上は「介護保険・高齢者福祉の充実」、40代以下は「子育て支援の充実」や「商業施設の充実」を重視しており、世代に応じた対策が必要である。
- ・地域のつながりを大切にしていく上では、「働きやすい職場環境への支援」や「多世代が交流できる機会の創出」が重要となっている。50代以下の現役世代は「働きやすい職場環境への支援」を求めているが、中高年以上になると「多世代が交流できる機会の創出」が求められている。

Q12 「住み続けたいまち」になるために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦3）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
公共交通（移動手段）の充実	47.4	38.1	31.3	37.8	36.2	37.5	36.7	35.8
安心して医療を受けられる体制づくり	31.6	32.4	26.1	36.1	35.7	36.4	42.4	36.7
介護保険・高齢者福祉の充実	15.8	13.3	15.3	19.4	37.8	35.6	34.3	35.8
子育て支援の充実	36.8	37.1	46.6	31.1	13.3	16.1	11.1	10.8
商業施設の充実	31.6	34.3	27.8	25.0	19.4	18.0	8.1	11.7
道路の整備や維持管理	10.5	13.3	22.2	18.9	20.4	19.5	19.9	13.3
防犯対策の強化	31.6	15.2	16.5	18.9	19.9	18.4	18.9	20.0
学校教育の充実	15.8	20.0	23.3	21.1	11.2	7.7	7.7	6.7
地域の中で暮らせる福祉の推進	10.5	11.4	4.5	7.2	10.7	16.1	16.8	18.3
行政の窓口サービスの充実	0.0	7.6	4.5	8.3	9.7	17.2	13.8	6.7
自然環境の保全	5.3	5.7	8.5	7.2	10.2	7.3	11.4	6.7
地域コミュニティ活動の推進	5.3	9.5	6.8	5.6	7.1	5.7	10.8	10.0
商工業の振興と雇用の促進	10.5	4.8	12.5	10.0	10.7	5.4	5.7	5.8
持続可能な行政運営	10.5	5.7	7.4	7.8	7.1	7.3	7.7	9.2
健康づくりの推進	0.0	3.8	3.4	5.6	5.1	8.8	8.1	8.3
人権が尊重される社会の実現	5.3	8.6	7.4	7.2	8.2	6.9	3.4	5.8
防災力の強化	5.3	3.8	5.1	2.8	7.1	5.0	5.7	4.2
大学・企業等との連携推進	10.5	8.6	6.3	5.6	3.6	4.6	3.7	5.0
その他	5.3	2.9	1.1	3.3	3.1	2.7	2.0	0.0
不明	0.0	3.8	4.5	3.9	2.0	3.8	5.7	13.3

(2) 若者に魅力あるまちとなるために重要なこと

- ・将来を見据えた行政運営を行っていくためには、「行政手続きの電子化、オンライン化の推進」や「公共施設の適正な配置や集約」が重要となっている。特に、30代以下の若年層は「行政手続きの電子化、オンライン化の推進」や「デジタル技術を活用した業務の効率化」を重視しており、対策を進めていく必要がある。
- ・若者に魅力のあるまちとなるためには、「企業とのマッチング（就労支援）」や「魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致」、「経済的な支援策の充実」が重要となっている。特に、30代以下の若年層は「魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致」や「経済的な支援策の充実」を重視している傾向がある。
- ・子育て世代に魅力のあるまちとなるためには、「保育サービスの充実」や「経済的な負担軽減策の充実」「子育てに関する相談・支援体制の充実」が重要となっている。それ以外に40代では「質の高い教育環境」、30代以下は「子どもが遊べる公園等の整備」も重要とされている。

Q15 若者に魅力あるまちとなるために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦3）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
企業とのマッチング（就労支援）	57.9	31.4	35.8	45.0	39.3	46.4	39.7	32.5
魅力的な娯楽施設や商業施設の誘致	47.4	46.7	48.9	42.2	37.8	34.9	21.2	20.0
経済的な支援策の充実	63.2	46.7	40.3	38.3	38.3	32.6	23.9	29.2
資格取得や創業の支援	26.3	25.7	23.9	26.7	29.6	20.7	24.6	25.8
様々な相談窓口等の周知	10.5	15.2	17.0	21.7	19.4	24.9	25.3	23.3
若者自身による阿見町の情報発信	15.8	16.2	17.6	13.3	17.9	24.5	25.3	25.8
出会いや交流の機会の創出	10.5	16.2	17.0	11.7	13.8	20.3	21.2	19.2
生活必需品取扱店舗の誘致	10.5	25.7	22.7	21.1	13.8	14.9	13.5	14.2
地域との交流の場づくり	0.0	3.8	11.4	7.8	14.8	14.2	21.9	17.5
アパート等の住宅環境の整備	10.5	18.1	13.6	12.8	11.2	9.6	5.4	2.5
その他	0.0	1.0	1.7	2.2	1.5	1.9	0.3	0.0
不明	0.0	1.0	1.7	3.3	4.1	4.2	10.4	17.5

Q15 子育て世代に魅力のあるまちとなるために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦3）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
保育サービスの充実	47.4	42.9	43.8	31.7	41.8	52.5	43.8	36.7
経済的な負担軽減策の充実	47.4	38.1	38.1	43.3	35.7	36.8	29.6	29.2
子育てに関する相談・支援体制の充実	57.9	25.7	25.6	30.0	38.3	40.6	35.0	31.7
子どもが遊べる公園等の整備	42.1	38.1	39.2	27.2	26.5	29.5	25.3	25.0
質の高い教育環境	26.3	29.5	26.7	38.3	31.1	25.3	29.0	20.0
医療機関との連携強化	0.0	17.1	22.2	31.1	26.0	31.0	34.0	26.7
テレワーク、時短勤務等の企業の理解促進	15.8	27.6	22.2	15.6	16.8	10.0	5.1	12.5
男性の家事・育児などへの参画促進	21.1	17.1	14.8	12.2	9.7	8.4	11.1	12.5
生活必需品取扱店舗の誘致	10.5	9.5	13.1	10.6	8.7	8.8	5.4	5.0
アプリ等による子育て情報の提供	5.3	8.6	10.2	6.7	6.6	7.3	3.7	5.8
その他	0.0	1.9	1.7	2.2	1.5	0.8	0.0	0.0
不明	0.0	2.9	2.8	3.3	3.1	4.2	12.5	19.2

(3) 健康で誰もが暮らしやすいまちとなるために重要なこと

- ・高齢者や障害者福祉の充実を図るためには、「看護・介護サービスの充実」や「入所施設や通所施設の充実」、「生活必需品の購入や通所等のための移動手段の充実」が重要となっている。中高年層は「入所施設や通所施設の充実」や「生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実」を重視している一方、若年層は「家族への支援」を重視しており、意識に違いがみられる。
- ・健康に関する取組では、「健康診断・がん検診費用の補助」や「予防接種費用の助成」、「医療機関の充実」が重要となっている。働き盛りの30代・40代は特に「健康診断・がん検診費用の補助」を重視しており、70代以上では「健康相談体制の充実」も重要となっている。
- ・生きがいに関する取組では、「交流できるイベントや場所づくり」や「求職者へのマッチング支援（就労支援）」、「様々な相談体制の充実」が重要であり、特に現役世代は「求職者へのマッチング支援（就労支援）」を重視している。その他、若者は「文化・芸術の振興」や「スポーツの振興」、高齢者は「自然とのふれあいの機会の創出」も重視されており、今後のまちづくりのキーワードとして考えられる。特に君原小地区は「交流できるイベントや場所づくり」が重視されている。

Q16 高齢者や障害者福祉に重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
看護・介護サービスの充実	36.8	35.2	30.1	37.8	38.3	42.9	41.1	37.5
入所施設や通所施設の充実	31.6	24.8	26.7	25.0	30.6	40.2	31.0	27.5
生活必需品の購入や通院等のための移動手段の充実	21.1	16.2	19.3	24.4	26.0	24.1	28.3	28.3
家族等への支援	36.8	31.4	35.8	38.3	25.5	17.6	14.1	8.3
医療機関の充実	21.1	35.2	17.0	20.0	16.3	16.1	16.5	12.5
心配事などの相談体制の充実	5.3	10.5	15.3	12.2	15.8	14.9	16.5	21.7
就労の機会の創出及び支援	15.8	10.5	11.9	13.3	11.2	13.4	6.1	6.7
みんなが集まり、活動できる場の充実	5.3	6.7	9.7	4.4	9.2	7.3	9.4	11.7
近隣住民とのつながり強化	0.0	1.9	2.8	5.6	4.1	6.1	8.1	12.5
地域のボランティア活動の支援やボランティア参加者の育成	10.5	8.6	5.1	6.1	2.6	5.0	6.4	2.5
スポーツへの参加支援	15.8	3.8	6.8	1.7	4.1	1.9	1.0	2.5
その他	0.0	0.0	0.6	0.6	1.0	0.8	1.0	0.8
不明	0.0	3.8	6.3	3.3	5.6	3.8	7.1	11.7

Q17 健康で元気に暮らすために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
健康診断・がん検診費用の補助	52.6	54.3	64.2	61.1	52.6	51.7	38.7	23.3
予防接種費用の助成	31.6	38.1	39.8	31.1	29.1	34.1	32.7	20.0
医療機関の充実	36.8	33.3	26.1	28.9	36.2	30.3	33.0	26.7
健康相談体制の充実	10.5	8.6	7.4	12.2	14.8	18.0	21.9	33.3
健康に関する講座の開催	10.5	5.7	6.3	8.9	10.2	14.6	16.5	24.2
スポーツ教室の開催	10.5	14.3	15.3	11.1	11.2	11.5	6.7	8.3
メンタルヘルス講座の開催	10.5	15.2	6.3	9.4	11.2	5.7	5.1	5.8
スポーツ同好会などの団体の周知	21.1	13.3	6.3	10.0	7.7	5.4	6.4	5.0
食育の推進	5.3	7.6	6.8	6.7	4.1	6.9	6.1	5.0
料理教室（減塩教室等）の開催	0.0	1.9	3.4	2.2	1.5	1.5	2.7	3.3
その他	5.3	1.0	1.7	2.2	2.0	2.3	2.7	2.5
不明	0.0	0.0	3.4	1.7	3.6	3.4	7.4	15.0

(4) 安全・安心なまちとなるために重要なこと

- ・持続可能なまちとなるためのインフラ整備等では、「公共交通機関（バスなど）の利便性向上」や「防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進」が重要となっている。特に、他の項目でも触れているが、「公共交通機関（バスなど）の利便性向上」は女性や高齢者だけでなく、若者や郊外部においても重視されている。低年齢の子どもがいる家庭が多いと想定される 30 代では、特に「防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進」が重視されている。
- ・災害へ備え防災力を強化するためには、「水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策」や「災害用備蓄品の充実」、「避難所の感染対策の推進、環境の整備」が重要となっている。「水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策」は 30 代～60 代の現役世代や市街地部で重視されている。

Q18 持続可能なまちのために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答 ≤ 2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
公共交通機関（バスなど）の利便性向上	57.9	52.4	32.4	46.1	38.3	44.4	48.1	50.8
防犯対策（防犯カメラや防犯灯）の推進	10.5	28.6	39.2	35.6	33.7	35.2	35.0	32.5
身近な生活道路の整備	21.1	13.3	19.9	20.0	21.4	17.6	22.2	13.3
上下水道設備の整備	15.8	9.5	13.6	11.1	19.4	22.6	19.2	7.5
公共施設・学校の老朽化対策	26.3	16.2	23.9	20.0	11.2	9.2	6.4	5.0
自転車通行空間の整備	10.5	5.7	9.7	13.9	12.2	11.9	11.4	15.8
地域と地域を結ぶ幹線道路の整備	10.5	16.2	11.9	12.2	13.8	13.0	7.7	7.5
交通安全（横断歩道や信号機の設置など）の推進	15.8	11.4	10.2	12.2	11.2	8.4	12.1	11.7
公園やまちなかの緑の整備	5.3	17.1	15.3	6.7	8.7	11.1	9.1	14.2
スポーツ施設の充実	15.8	8.6	7.4	8.3	10.2	7.3	5.1	4.2
宅地開発の促進	0.0	10.5	3.4	4.4	3.6	4.2	2.7	2.5
その他	5.3	1.9	2.8	0.6	2.0	2.7	1.0	1.7
不明	0.0	1.0	3.4	1.1	2.6	3.1	4.0	10.8

Q20 災害へ備え防災力を強化するために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答 ≤ 2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
水道管などのインフラ施設の老朽化・耐震化対策	21.1	35.2	43.2	40.6	44.9	40.6	37.7	23.3
災害用備蓄品の充実	36.8	31.4	34.1	38.9	26.0	33.7	27.9	31.7
避難所の感染対策の推進、環境の整備	26.3	36.2	35.2	31.1	29.6	26.4	30.0	20.0
家庭での備蓄など、家庭内の防災対策の意識啓発	21.1	21.0	14.2	18.3	22.4	19.9	26.9	25.0
ブロック塀、崖地などの危険個所の点検・対策	26.3	22.9	25.6	21.7	18.4	20.3	15.2	16.7
防災行政無線、あみメール、ホームページなどの様々な情報伝達手段の活用	31.6	22.9	18.2	16.7	19.9	21.1	18.5	15.8
他自治体や民間企業との災害協定の締結推進	5.3	8.6	9.7	12.2	9.7	13.4	8.4	12.5
自主防災組織（行政区）での防災訓練の実施	5.3	1.0	3.4	6.7	3.6	6.5	12.1	11.7
消防団の機能強化、団員の確保	5.3	2.9	2.8	2.8	6.1	4.2	6.1	8.3
その他	0.0	1.0	3.4	1.1	2.0	1.9	0.0	2.5
不明	5.3	1.0	1.7	0.6	2.6	2.3	4.7	10.8

(5) 地域経済を活性化し、環境を未来につなげていくために重要なこと

- ・地域経済を活性化するためには、「二所ノ関部屋との連携推進」や「公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実」が重要となっている。「二所ノ関部屋との連携推進」は中高年以上などで重視されている一方、比較的若い世代は「公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実」や「アウトレットとの連携によるイベント等の実施」を重視しており、コロナ禍で低迷した地域経済を活性化するためには、ターゲットに合わせた活性化方策を検討していく必要がある。
- ・豊かな自然環境を未来につなげていくためには、「ごみの削減やリサイクルの推進」や「霞ヶ浦や河川の水質浄化」、「緑地や森林の保全、整備」が重要となっており、特に「ごみの削減やリサイクルの推進」は女性や高齢者が重視しているが、リサイクル率が低いといった町の状況を踏まえると、男性や若い世代にもさらに重要性を広めていく必要があると考えられる。一方、10代～30代の若年層は「食品ロスの削減に向けた取組」についても関心が高くなっている。

Q19 地域経済を活性化するために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
二所ノ関部屋との連携推進	15.8	11.4	19.9	24.4	22.4	19.9	20.5	22.5
公園や自然環境を活用したアウトドア体験の充実	21.1	25.7	27.3	20.0	19.4	19.5	18.2	16.7
農業後継者や新規就農者への支援	0.0	13.3	14.8	16.7	18.4	23.0	21.9	29.2
特産品のブランド化	26.3	27.6	20.5	17.8	20.4	19.5	16.5	15.8
企業誘致の推進	10.5	12.4	17.6	20.0	16.8	24.1	18.2	10.0
アウトレットとの連携によるイベント等の実施	42.1	31.4	23.3	27.2	18.4	15.7	9.8	5.0
地産地消の推進	10.5	12.4	10.8	15.6	15.3	17.6	23.2	20.8
霞ヶ浦周辺市町村と連携したサイクリングなどによる集客	26.3	13.3	11.4	11.7	10.7	10.7	14.1	11.7
農作業や収穫などの体験プログラムの充実	5.3	13.3	13.6	12.8	11.7	9.6	10.8	11.7
中小企業の経営支援	10.5	10.5	15.3	11.7	11.2	7.3	7.4	12.5
就職フェアの実施など雇用の促進	10.5	12.4	6.3	6.7	10.7	11.1	9.8	5.0
オンラインを活用した体験イベントの開催	10.5	3.8	2.3	2.8	2.6	3.1	2.0	2.5
その他	0.0	1.0	2.3	1.1	2.0	1.5	1.3	1.7
不明	0.0	1.9	3.4	1.1	4.1	4.2	7.4	11.7

Q21 豊かな自然を未来につなげていくために重要だと思う取組（年齢別）

（単位：％、複数回答≦2）

	10代 (n=19)	20代 (n=105)	30代 (n=176)	40代 (n=180)	50代 (n=196)	60代 (n=261)	70代 (n=297)	80代以上 (n=120)
ごみの削減やリサイクルの推進	21.1	39.0	34.7	33.3	35.7	41.4	45.1	41.7
霞ヶ浦や河川の水質浄化	42.1	33.3	34.7	35.0	31.1	31.8	28.3	37.5
緑地や森林の保全、整備	26.3	21.9	29.5	32.2	34.7	32.6	28.6	20.8
食品ロスの削減に向けた取組	26.3	31.4	28.4	21.7	18.4	18.4	15.8	17.5
自然と触れ合う体験の場の充実	10.5	14.3	17.6	15.6	12.2	14.9	13.5	12.5
住まいの省エネ化の推進	15.8	21.9	16.5	13.3	15.8	15.3	10.8	6.7
公共交通や自転車の利用促進	26.3	18.1	8.0	11.7	12.8	11.1	15.8	11.7
脱炭素など地球温暖化対策の推進	5.3	8.6	8.5	10.0	13.8	14.2	13.1	14.2
環境学習の機会の充実	10.5	1.9	9.1	12.2	7.7	7.7	8.8	8.3
その他	0.0	0.0	0.0	1.1	2.0	1.1	0.7	1.7
不明	5.3	0.0	2.3	2.2	2.6	2.7	4.0	10.0

5 将来像のキーワード

- ・阿見町の将来像にふさわしいキーワードについて、「住む」（動詞）を含む回答は全世代共通で多く町外に通勤・通学する人も多い阿見町においては、町の将来像を考える上で重要なキーワードと考えられる。
- ・その他、上位に位置するキーワードをみると、「住む」というキーワードに関連して、「安心」と「安全」、「自然」と「環境」、「高齢」、「人」、「子供」や「子育て」といった語句を含む回答が多くなっており、まちづくりのポイントになると考えられる。
- ・抽出された語句の関係性をみると、キーワードは主に①住むこと、②安心・安全な暮らし、③人や子育て、④生活の充実、⑤交通、⑥人口に関わるテーマに分類される。①②③では、豊かな自然環境と快適な暮らしの調和や、年齢や国籍などに関わらず安心・安全に住みやすいこと、世代を超えた人と人との交流等が求められている。④⑤では、多様な生き方や自分らしい生活のほか、アナログとデジタル、町内と町外、多世代等の様々な融合、より良い暮らしに向けた施設や交通の充実等が求められている。⑥では、若者や子育て支援の充実で人口増のほか、市政への移行やバランスのよい発展もキーワードとなっている。

Q22 将来像としてのキーワード (単位：件)

順位	抽出語	回答数	順位	抽出語	回答数
1位	町	282	27位	若者	29
2位	住む	110	〃	人口	29
3位	阿見	92	29位	車	27
4位	思う	90	〃	町民	27
5位	充実	89	31位	若い	26
6位	安心	88	〃	出来る	26
7位	自然	83	33位	考える	25
8位	高齢	70	34位	市	25
9位	人	65	〃	商業	25
10位	子供	62	〃	道路	25
11位	子育て	53	37位	活性	24
12位	環境	52	〃	必要	24
13位	安全	48	〃	魅力	24
〃	施設	48	40位	企業	23
〃	生活	48	〃	支援	23
16位	地域	43	〃	増やす	23
17位	交通	41	43位	機関	21
〃	多い	41	〃	住民	21
19位	良い	40	〃	福祉	21
20位	整備	37	46位	教育	19
21位	豊か	35	〃	場所	19
22位	街	34	〃	発展	19
23位	増える	33	49位	まち	18
〃	暮らせる	33	〃	農業	18
25位	公共	31	〃	誘致	18
〃	世代	31			